

# 元総社蒼海遺跡群（2）

前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業に伴う  
埋蔵文化財発掘調査報告書

2 0 0 6 • 3

前橋市埋蔵文化財発掘調査団

## 元総社蒼海遺跡群（2）

前橋都市計画事業元総社蒼海地区画整理事業に伴う  
埋蔵文化財発掘調査報告書

2 0 0 6 • 3

前橋市埋蔵文化財発掘調査団



6 トレンチH-6号住居跡遺構築状況（西から）



6 トレンチH-6号住居跡遺構築状況（北から）



7 トレンチ調査区全景（北西から）



7 トレンチDB-2号土坑墓遺物出土状況（南から）

## はじめに

前橋市の北にそびえる赤城山は、往古から人々とかかわりが深く、親しまれ愛される逍遙の山です。その悠々と裾野を広げる台地を中心として、岩宿遺跡で知られるように旧石器時代から開けてきた地域で、いたるところで旧石器時代や縄文時代の遺跡が発見されています。

古代において前橋台地を中心に、800余りの古墳が築造されました。東国古墳文化の中心地として栄え、今でも9基もの国史跡指定となる古墳が存在します。

続く律令制の時代に入ると、総社古墳群から連綿と続く山王庵寺、上野国府、上野国分僧寺、上野国分尼寺など「クニ」の中核施設が次々に造られ、政治・宗教・学問の中心として繁栄いたしました。

中世になると、戦国武将の長尾氏、上杉氏、武田氏、北条氏が鍋をけずつた地として知られ、近世においては、譜代大名の酒井氏、松平氏が居城した関東四名城の一つに数えられる鶴橋城が築かれました。

近代では、横浜港が開港されると、輸出の花形商品として生糸をもって一番乗りしたのが、前橋の糸商人でした。前橋は、藩をあげて蚕糸に力を注ぎ、我が国初の製糸の機械化に取り組みました。生糸により、横浜と前橋を結ぶシルクロードが開かれ、文化交流が始まりました。このように本市は、歴史溢れる豊かなまちです。

本報告書に掲載いたしました元総社蒼海遺跡群の発掘調査は区画整理事業に伴うもので、上野国府を解明する重要な目的があります。調査により、国府と推定される元総社町から群馬町の国分寺一帯まで集落が存在することが判明いたしました。これらは今後、分析が進めば、「国府のマチ」として解釈されるものと期待されます。

発掘調査にあたりましては、ご協力をいただきました元総社地区の皆さん、市区画整理第二課、調査に従事されました皆さんに厚く御礼申し上げます。

なお、本報告書が斯学の発展に少しでも寄与できれば幸いに存じます。

平成18年3月

前橋市埋蔵文化財発掘調査団  
団長　根岸　雅

## 例 言

1. 本報告書は、前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業に伴う元総社遺跡群(2)発掘調査報告書である。
2. 調査主体は、前橋市埋蔵文化財発掘調査団である。
3. 発掘調査の要項は次のとおりである。

調査場所 群馬県前橋市元総社町1800-3 他  
発掘調査期間 平成17年5月17日～平成17年9月14日  
整理・報告書作成期間 平成17年12月20日～平成18年3月17日  
発掘・整理担当者 近藤雅順・池田史人(発掘調査係員)

4. 本書の原稿執筆・編集は近藤・池田が行った。
5. 発掘調査・整理作業にかかわった方々は次のとおりである。  
木村孝充・後藤進一・佐藤佳子・下境 弥・下境米治・城田邦男・曾我 仁・富澤理恵・内藤 旭  
内藤よし・中島利夫・西山勝久・西山光彩・峰岸あや子
6. 発掘調査で出土した遺物は、当発掘調査団より前橋市教育委員会に保管を依頼し、前橋市教育委員会文化財保護課で保管されている。

## 凡 例

1. 指図中に使用した北は、座標北である。
2. 指図に建設省国土地理院発行の1:200,000地形図(宇都宮・長野)、1:50,000地形図(前橋)、1:25,000地形図(前橋)、1:6,000前橋市現形図を使用した。
3. 本遺跡の略称は、17A130-5～9である。枝番号5～9はそれぞれ5～9トレンチと対応する。
4. 遺構及び遺構施設の略称は、次のとおりである。

H…古墳・奈良・平安時代の堅穴住居跡 T…堅穴状遺構 W…溝跡  
D…土坑 DB…土坑墓 P…ピット I…井戸跡

5. 遺構・遺物の実測図の縮尺は、次のとおりである。  
遺構 全体図…1:200 住居跡・堅穴状遺構・土坑・土坑墓・ピット・井戸跡…1:30・1:60  
溝跡…1:60・1:80・1:120 電断面図…1:30  
遺物 土器…1/3 石製品…1/2 鉄器・鉄製品…1/2 瓦…1/2・1/6
6. 土器の器種について、本報告書では、口径12.0cm以下・器高4.0cm以下・縦轆整形・酸化焰焼成の坏形土器を「かわけ」と呼称する。
7. 図版・指図中に付した丸番号はトレンチ名を表す。例)「⑤-1」……5トレンチ遺物番号1
8. 計測値については、( )は現存値、〔 〕は復元値を表す。
9. セクション図中のPは遺物、Sは石を表す。
10. セクション注記の記号は、縦まり・粘性の順で示し、それぞれ以下のように表現する。  
○…縦まり・粘性非常にあり、□…縦まり・粘性あり、△…縦まり・粘性ややあり、×…縦まり・粘性なし

11. 遺構平面図の………は推定線を表す。

12. スクリーントーンの使用は、次のとおりである。

遺構断面図 構築面… 遺物実測図 瓢窓器断面… 灰釉陶器断面… 灰釉陶器表面…  
綠釉陶器断面… 煤付着… 漆付着…

13. 主な火山灰下物等の略称と年代は次のとおりである。

As-B (浅間 石:供給火山・浅間山、1108年)  
Hr-FP (株名ニッ岳伊香保テフラ:供給火山・株名山、6世紀中葉)  
Hr-FA (株名ニッ岳波川テフラ:供給火山・株名山、6世紀初頭)  
As-C (浅間 石:供給火山・浅間山、4世紀前半～中葉)

## 目 次

|                |    |
|----------------|----|
| はじめに.....      | i  |
| I 調査に至る経緯..... | 1  |
| II 遺跡の位置と環境    |    |
| 1 遺跡の立地.....   | 1  |
| 2 歴史的環境.....   | 1  |
| III 調査方針と経過    |    |
| 1 調査方針.....    | 7  |
| 2 調査経過.....    | 7  |
| IV 遺構と遺物       |    |
| 5 トレンチ.....    | 10 |
| 6 トレンチ.....    | 13 |
| 7 トレンチ.....    | 14 |
| 8 トレンチ.....    | 17 |
| 9 トレンチ.....    | 19 |
| V まとめ.....     | 30 |

注) 基本層序は各トレンチの全体図 (Fig. 4 • 9 • 14 • 19 • 25) と合わせて記載した。

## 図 版

- 口絵 1 6トレンチH-6号住居跡竪構築状況(西から)  
2 6トレンチH-6号住居跡竪構築状況(北から)  
3 7トレンチ調査区全景(西から)  
4 7トレンチDB-2号土坑墓遺物出土状況(南から)

- PL. 1 5トレンチ遺構写真(1)  
2 5トレンチ遺構写真(2)  
3 6トレンチ遺構写真(1)  
4 6トレンチ遺構写真(2)  
5 6トレンチ遺構写真(3)、7トレンチ遺構写真(1)  
6 7トレンチ遺構写真(2)  
7 8トレンチ遺構写真(1)  
8 8トレンチ遺構写真(2)  
9 9トレンチ遺構写真(1)  
10 9トレンチ遺構写真(2)
- 11 5トレンチ遺物写真(1)  
12 5トレンチ遺物写真(2)  
13 5トレンチ遺物写真(3)、6トレンチ遺物写真(1)  
14 6トレンチ遺物写真(2)  
15 6トレンチ遺物写真(3)、7トレンチ遺物写真  
16 8トレンチ遺物写真(1)  
17 8トレンチ遺物写真(2)、9トレンチ遺物写真(1)  
18 9トレンチ遺物写真(2)、鉄器・鉄製品  
19 瓦(1)  
20 瓦(2)・文字瓦

## 挿 図

- Fig. 1 元総社蒼海遺跡群位置図  
2 周辺遺跡図  
3 元総社蒼海遺跡群位置図とグリッド設定図  
4 5トレンチ全体図と基本層序  
5 5トレンチ/H-1・2号住居跡  
6 5トレンチ/H-3・4号住居跡  
7 5トレンチ/H-5～8号住居跡  
8 5トレンチ/溝跡、土坑、ピット  
9 6トレンチ全体図と基本層序  
10 6トレンチ/H-1・2号住居跡  
11 6トレンチ/H-3～5号住居跡  
12 6トレンチ/H-6号住居跡  
13 6トレンチ/H-8号住居跡、土坑、ピット  
14 7トレンチ全体図と基本層序  
15 7トレンチ/H-1・4号住居跡  
16 7トレンチ/H-3号住居跡、T-1号竪穴状遺構  
17 7トレンチ/W-1～8号溝跡  
18 7トレンチ/土坑墓、土坑、ピット  
19 8トレンチ全体図と基本層序  
20 8トレンチ/H-1～3号住居跡  
21 8トレンチ/H-4～6号住居跡
- 22 8トレンチ/T-1・2号竪穴状遺構  
23 8トレンチ/溝跡、D-1～8号土坑  
24 8トレンチ/D-9～11号土坑、ピット、井戸跡  
25 9トレンチ全体図と基本層序  
26 9トレンチ/H-1号住居跡  
27 9トレンチ/H-2～5号住居跡  
28 9トレンチ/溝跡、土坑、ピット  
29 5トレンチ/H-1・3～5号住居跡出土遺物  
30 5トレンチ/H-4号住居跡出土遺物  
31 5トレンチ/H-6号住居跡出土遺物  
32 6トレンチ/H-1～6号住居跡、土坑出土遺物  
33 6トレンチ/H-4・6号住居跡出土遺物、表探遺物  
34 7トレンチ出土遺物  
35 8トレンチ/H-2・3号住居跡出土遺物  
36 8トレンチ/H-5・6号住居跡、9トレンチ/H-1号住居跡出土遺物  
37 9トレンチ/H-3～5号住居跡、土坑出土遺物、表探遺物  
38 鉄器・鉄製品・石製品・土製品  
39 瓦(1)  
40 瓦(2)

## 表

- Tab. 1 元総社蒼海遺跡群周辺遺跡概要一覧表  
2 元総社蒼海遺跡群(2)調査経過  
3 元総社蒼海遺跡群(2)検出遺構累計  
4 竪穴住居跡一覧表  
5 潟跡計測表
- 6 土坑・土坑墓・ピット・井戸跡計測表  
7 古墳・奈良・平安時代出土土器観察表  
8 鉄器・鉄製品観察表  
9 石製品・土製品観察表  
10 瓦観察表

## I 調査に至る経緯

本発掘調査は、前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業に伴い実施され、6年目にあたる。本調査地は、周辺で埋蔵文化財調査が長年に渡って行われていることから、遺跡地であることが確認されている。

平成17年4月13日付けで、前橋市長 高木政夫より前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財発掘調査の依頼が前橋市教育委員会に提出された。前橋市教育委員会ではこれを受け、内部組織である前橋市埋蔵文化財発掘調査団 団長 根岸雅に対し、調査実施を協議し、調査団はこれを受諾した。平成17年4月28日、調査依頼者である前橋市長 高木政夫と前橋市埋蔵文化財発掘調査団 団長 根岸雅との間で、本発掘調査の委託契約を締結し、5月17日に現地での発掘調査を開始するに至った。

なお、遺跡名称「元総社蒼海遺跡群（2）」（遺跡コード：17A130-5～9）の「元総社蒼海遺跡群」は区画整理事業名を採用し、数字の「（2）」は過年に実施した調査と区別するために付したものである。

## II 遺跡の位置と環境

### 1 遺跡の立地

前橋市は、利根川が赤城・榛名の両火山の裾合を経て関東平野を望むところに位置し、地形・地質の特徴から、北東部の赤城火山斜面、南西部の前橋台地利根川右岸、南部から南西部にかけての前橋台地利根川左岸、東部の広瀬川低地帯の4つの地域に分けられる。

本遺跡の立地する前橋台地は、約24,000年前の浅間山爆発によって引き起こされた火山泥流堆積物とそれを被覆するローム層（水成）から成り立っている。台地の東部は広瀬川低地帯と直線的な崖で画されていて、台地の中央には現利根川が貫流している。現在の利根川の流路は中世以降のもので、旧利根川は現在の広瀬川流域と推定される。台地の西部には榛名山麓の相馬ヶ原扇状地が広がり、榛名山を源とする中小河川が利根川に向かって流下し、台地面を刻んで細長い微高地を作り上げている。総社・元総社付近の染谷川や牛池川は、微高地との比高3m～5mを測り、段丘崖上は高燥な台地で、桑畠を主とした畑地として利用してきた。

本遺跡は、前橋市街地から利根川を隔て、西へ約3kmの地点、前橋市元総社町地内に所在している。南東へ約1kmの所に上野国元総社神社があり、すぐ西には関越自動車道が南北に走っている。さらに、遺跡地の南側には国道17号、主要地方道前橋・群馬・高崎線が東西に走り、東側には市道大友・石倉線が南北に走り、これらの幹線道路を中心にオフィスビルや大規模小売店が進出している。本遺跡はこれらの幹線道路から奥に入ったところに位置し、周囲には田畠が多い住宅地という静かで落ち着いた環境である。

### 2 歴史的環境

本遺跡地周辺には、古墳時代後期から終末までの上野地域と中央政権との関連をうかがわせる總社古墳群と山王庵寺、古代の中心地であった上野国府、さらに、中世には長尾氏により国府の堀割りを利用し築かれたとされる蒼海城があり、歴史的環境に優れている。周辺の埋蔵文化財発掘調査によって、これまで連綿と続いてきた歴史を物語る多くの新しい知見が集積されている。

縄文時代の遺跡としては、前期・中期の集落跡が検出された産業道路東・西遺跡や上野国分僧寺・尼寺中間地

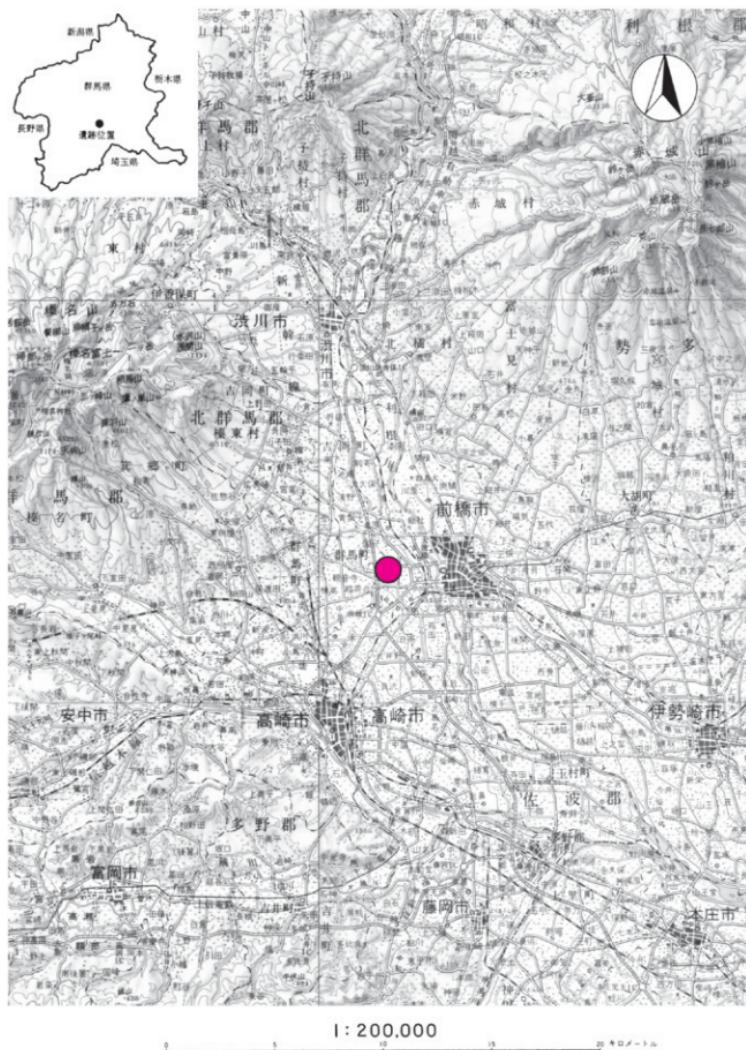


Fig. 1 元總社舊海道跡群位置図

域が筆頭に挙げられ、縄文文化を考える上で重要な資料といえる。

弥生時代の調査例は少ない。当時の稻作の様子を示す水田・集落跡等が検出された日高遺跡、後期住居跡が検出された上野国分僧寺・尼寺中間地域や桜ヶ丘遺跡、下東西遺跡等に散見されるだけである。

古墳時代の遺跡としては、まず本遺跡のうちに北に広がる總社古墳群が挙げられる。總社古墳群を代表するものには、前方後円墳である遠見山古墳、川原石を用いた積石塚である王山古墳、前方部と後円部にそれぞれ石室をもつ二段に築造された前方後円墳の總社二子山古墳、横穴式石室をもつ方墳の愛宕山古墳、県内終末期と考えられ仏教文化の影響を強く受けた方墳の宝塔山古墳・蛇穴山古墳がある。また、宝塔山古墳の南西500mには白鳳期の建立と考えられる王山庵跡(放光寺)がある。さらにこの寺の塔心礎や石製鰐尾、根巻石等の石造物群は、宝塔山古墳の石棺や蛇穴山古墳の石室と同系統の石造技術を駆使して加工されている。これらのことから、この寺は上野地域を治めていた「上毛野氏」の氏寺であり、この古墳群には「上毛野氏」一族が葬られているとも考えられている。これらから、この地が「車評」の中心地として、仏教文化が古墳文化と併存しながら機能していた様子が窺える。

奈良・平安時代に至ると、上野国府、国分僧寺、国分尼寺の建設と相まって、本地域は古代の政治的・経済的・文化的中心地としての様相を呈してくる。律令期における国司の政治活動の拠点で地方を統治する機能をもつ国府は、元總社地区に置かれたとされる。

国府に関連する遺跡には、県下最大級の掘立柱建物跡が検出された元總社小学校校庭遺跡や、「國厨」・「曹司」・「國」・「邑厨」等と書かれた墨書き土器や人形が出土した元總社寺田遺跡、律令期の掘立柱建物跡と考えられる柱穴が検出された元總社宅地遺跡がある。また、国府域の推定を可能にした大規模な東西方向の溝跡が検出された閑泉橋遺跡と南北方向の溝跡が検出された元總社明神遺跡の調査成果により、国府域の東外郭線が想定されるに至った。さらに近年では、元總社小見内III遺跡や元總社小見内IV遺跡において、国分尼寺の東南隅から国府の中心部に向かうと思われる溝跡が検出されたり、官人の用いたと考えられる円面鏡、巡方(腰帶具)も出土し、国府について考えるうえで貴重な資料となっている。

国分僧寺は大正15年に国指定史跡となり、昭和40年代からは部分的ながら調査が進められるようになった。本格的な発掘調査は昭和55年12月から始まり、主要伽藍の礎石、築垣、堀等が確認されている。さらに国分尼寺の調査では、昭和44・45年に推定中軸線上のトレンチ調査が行われ伽藍配置が推定できるようになった。さらに平成12年に前橋市埋蔵文化財発掘調査団で南辺の寺域確認調査を行い、東南隅と西南隅の築垣、それと平行する溝跡や道路状遺構が確認された。国分僧寺・尼寺周辺では、関越自動車道建設に伴う発掘調査が行われ、上野国分僧寺・尼寺中間地域では、当時の大規模な集落跡や掘立柱建物跡群が検出されている。

また、群馬町の調査等により、本遺跡から約1.5km南の地点にN-64°-E方向の東山道(国府ルート)があることが推定されている。また、推定日高道は、日高遺跡で検出された幅約4.5mの道路状遺構を国府方面へ延長したものである。これらは、当時の交通網を物語る重要な遺構である。

中世に至り、永享元年(1429)、上野国守護代の長尾氏によって古代国府跡に築かれた蒼海城は城郭としての機能を有し県内でも最古級に位置づけられる。しかも、県下最初の城下町を形成したと考えられている。蒼海城の網張りは国府と関係が深く、現在の本地域の主要道路はこの網張りに沿って作られていると推測される。

このように歴史的に重要な役割を果たしてきた總社・元總社地区であるが、その中でも上野国府が所在したと推定される元總社地区は注目される地域の一つである。元總社蒼海地区画整理事業に伴い、平成11年より継続的に本地域の発掘調査が行われている。これにより、手つかず状態であった本地域の全容が明らかになっていくであろう。今後、この調査の進捗によって、上野国府や蒼海城が解明されていくことを期待する。

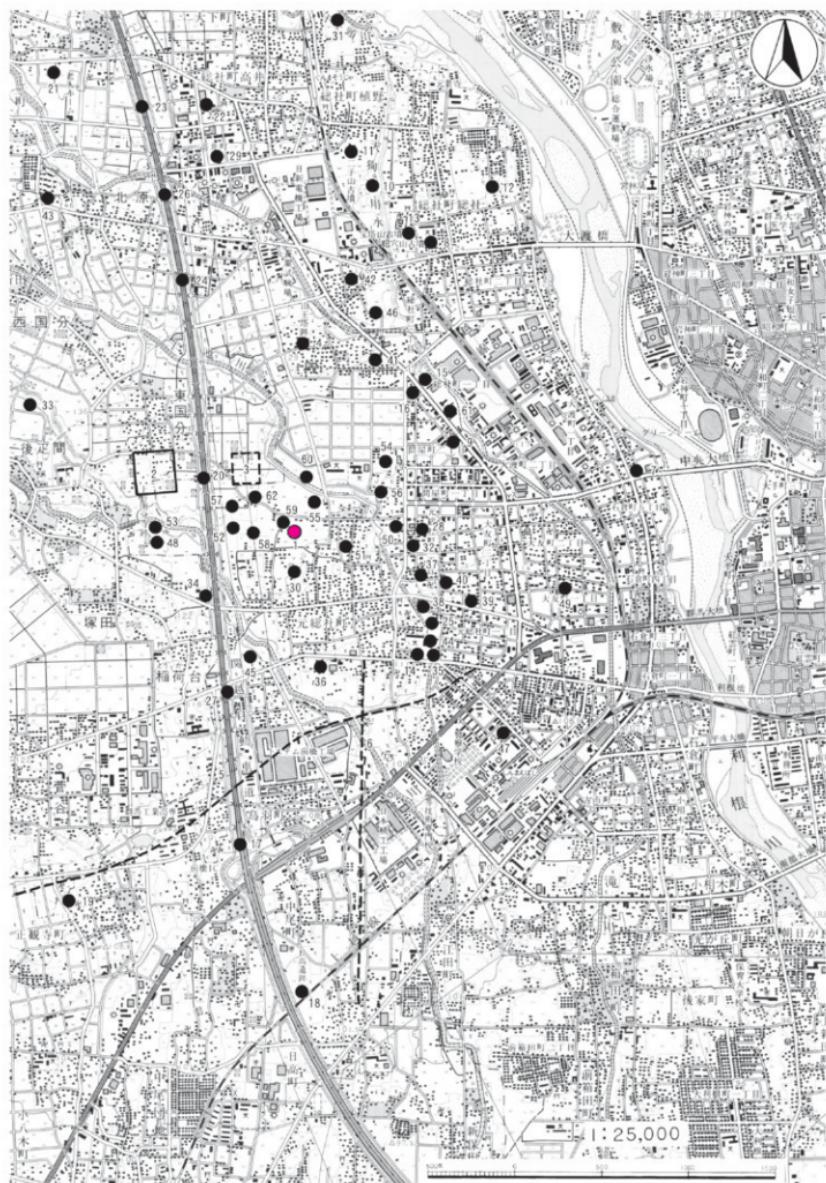


Fig. 2 周辺道路図

Tab. 1 元總社蒼海遺跡群周辺遺跡概要一覧表

| 番号 | 遺跡名                | 調査年度     | 時代：主な遺構・出土遺物  |
|----|--------------------|----------|---|
| 1  | 元總社蒼海遺跡群（2）        | 2005     | 本遺跡   |
| 2  | 上野国分寺跡（県教委）        | 1980～88  | 奈良；金堂基壇・塔基壇   |
| 3  | 上野国分尼寺跡            | (1999)   | 奈良；西南隅・東南隅臺場  |
| 4  | 山王庵寺跡              | (1974)   | 古墳；塔心礎・根巻石  |
| 5  | 東山道（推定）            |          |   |
| 6  | 日高道（推定）            |          |   |
| 7  | 王山古墳               | 1972     | 古墳；前方後円墳（6 C中）  |
| 8  | 蛇穴山古墳              | 1975     | 古墳；方墳（8 C初）   |
| 9  | 福荷山古墳              | 1988     | 古墳；円墳（6 C後半）  |
| 10 | 愛宕山古墳              | 1996     | 古墳；円墳（7 C初）   |
| 11 | 總社二子山古墳            | 未調査      | 古墳；前方後円墳（6 C末～7 C初）   |
| 12 | 遠見山古墳              | 未調査      | 古墳；前方後円墳（5 C後半）   |
| 13 | 宝塔山古墳              | 未調査      | 古墳；方墳（7 C末）   |
| 14 | 元總社小学校校庭遺跡         | 1962     | 平安；掘立柱建物跡・柱穴群・周溝跡   |
| 15 | 産業道路東遺跡            | 1966     | 縄文；住居跡  |
| 16 | 産業道路西遺跡            |          | 縄文；住居跡  |
| 17 | 中尾遺跡（事業団）          | 1976     | 奈良・平安；住居跡   |
| 18 | 日高遺跡（事業団）          | 1977     | 弥生；水田跡・方形周溝基・住居跡・木製農耕具・平安；条里制水田跡                            |
| 19 | 正城寺遺跡 I～IV(高崎市)    | 1979～81  | 弥生；住居跡・古墳；住居跡・奈良・平安；住居跡・中世；溝跡                               |
| 20 | 上野国分僧寺・尼寺中間地城（事業団） | 1980～83  | 縄文；住居跡・配石塀構・弥生；住居跡・方形周溝基・古墳；住居跡・奈良・平安；住居跡・掘立柱建物跡・溝状遺構・道路状遺構 |
| 21 | 清里南部遺跡群・III        | 1980     | 縄文；ビット・奈良・平安；住居跡・溝跡   |
| 22 | 中島遺跡               | 1980     | 奈良・平安；住居跡   |
| 23 | 下東西遺跡（事業団）         | 1980～84  | 縄文；屋外理髮器・弥生；住居跡・古墳；住居跡・奈良・平安；住居跡・掘立柱建物跡・棚沢・中世；住居跡・溝跡        |
| 24 | 国分境遺跡（事業団）         | 1990     | 古墳；住居跡・奈良・平安；住居跡  |
|    | 国分境II遺跡            | 1991     | 古墳；住居跡・奈良・平安；住居跡  |
|    | 国分境III遺跡（群馬町）      | 1991     | 古墳；住居跡・奈良・平安；住居跡・墓跡・中世；土壤墓                                  |
| 25 | 元總社明神遺跡 I～XIII     | 1982～96  | 古墳；住居跡・水田跡・墓跡・奈良・平安；住居跡・溝跡・大形人形・中世；住居跡・溝跡・天目茶碗              |
| 26 | 北原遺跡（群馬町）          | 1982     | 縄文；土壙・集石遺構・古墳；水田跡・奈良・平安；住居跡・掘立柱建物跡                          |
| 27 | 鳥羽道遺跡（事業団）         | 1978～83  | 古墳；住居跡・斎場跡・奈良・平安；住居跡・掘立柱建物跡（神殿跡）                            |
| 28 | 開泉橋遺跡              | 1983     | 奈良・平安；溝跡（上幅6.5～7 m、下幅3.24m、深さ2 m）                           |
| 29 | 榎木遺跡・II遺跡          | 1983, 88 | 奈良・平安；住居跡・溝跡  |
| 30 | 草作遺跡               | 1984     | 古墳；住居跡・平安；住居跡・中世；井戸跡  |
| 31 | 桜ヶ丘遺跡              |          | 弥生；住居跡  |
|    | 總社桜ヶ丘遺跡・II遺跡       | 1985, 87 | 奈良・平安；住居跡   |
| 32 | 開泉橋南遺跡             | 1985     | 古墳；住居跡・奈良・平安；溝跡   |
| 33 | 後丸間遺跡 I～III(群馬町)   | 1985～87  | 古墳；住居跡・奈良・平安；住居跡・中世；道路状遺構                                   |
| 34 | 塙田村東遺跡（群馬町）        | 1985     | 平安；住居跡  |
| 35 | 寺田遺跡               | 1986     | 平安；溝跡・木製品   |
| 36 | 天神道遺跡・II遺跡         | 1986, 88 | 奈良・平安；住居跡   |
| 37 | 尾敷遺跡・II遺跡          | 1986, 95 | 古墳；住居跡・平安；住居跡・中世；掘跡・石敷遺構                                    |
| 38 | 大友屋敷II・III遺跡       | 1987     | 古墳；住居跡・平安；住居跡・溝跡・地下式土坑                                      |
| 39 | 雁越遺跡               | 1987     | 奈良・平安；住居跡・溝跡  |
| 40 | 雁越II遺跡             | 1988     | 平安；住居跡  |
| 41 | 昌葉寺廻向遺跡・II遺跡       | 1988     | 奈良・平安；住居跡   |
| 42 | 村東遺跡               | 1988     | 古墳；住居跡・溝跡・奈良・平安；住居跡・中世；掘跡                                   |
| 43 | 熊野谷遺跡              | 1988     | 縄文；住居跡・平安；住居跡・溝跡  |
|    | 熊野谷II・III遺跡        | 1989     | 平安；住居跡  |

| 番号 | 遺跡名                   | 調査年度      | 時代：主な遺構・出土遺物   |
|----|-----------------------|-----------|--|
| 44 | 元総社寺田遺跡I～III<br>(事業団) | 1988～91   | 古墳：水田跡・溝跡、奈良・平安：住居跡・溝跡・人形・壺・墨書き土器、中世：溝跡                |
| 45 | 弥勒遺跡・II遺跡             | 1989、95   | 古墳：住居跡、平安：住居跡  |
| 46 | 大屋敷遺跡I～VI             | 1992～2000 | 繩文：住居跡・古墳；住居跡、奈良・平安：住居跡、中世：掘立柱建物跡・地下式土坑・溝跡             |
| 47 | 元総社細葉遺跡               | 1993      | 繩文：土坑、平安：住居跡・瓦塔  |
| 48 | 上野国分寺参道遺跡             | 1996      | 古墳：住居跡、平安：住居跡  |
| 49 | 大友宅地添遺跡               | 1999      | 平安：水田跡   |
| 50 | 總社閑泉明神北遺跡             | 1999      | 古墳：墓跡・水田跡・溝跡、中世：溝跡                                     |
|    | 總社閑泉明神北II遺跡           | 2001      | 古墳：住居跡・溝跡、平安：住居跡・溝跡                                    |
|    | 總社閑泉明神北V遺跡            | 2004      | 古墳：水田跡・奈良・平安：住居跡                                       |
| 51 | 元総社宅地遺跡1～23トレンド       | 2000      | 古墳：住居跡・平安：住居跡・掘立柱建物跡・鍛冶場跡・溝跡・道路状遺構、中世：溝跡、近世：住居跡・五輪塔・楕楕 |
| 52 | 元総社小見遺跡               | 2000      | 繩文：住居跡・古墳；住居跡・奈良・平安：住居跡・掘立柱建物跡・溝跡・道路状遺構                |
| 53 | 元総社西川遺跡（事業団）          | 2000      | 古墳：住居跡・墓跡・奈良・平安：住居跡・溝跡                                 |
| 54 | 總社甲福荷塚大泊西遺跡           | 2001      | 奈良・平安：住居跡・溝跡、中世：墓跡、近世：溝跡                               |
|    | 總社甲福荷塚大泊西II遺跡         | 2001      | 古墳：住居跡・奈良・平安：住居跡・溝跡、近世：溝跡                              |
| 55 | 元総社小見内田遺跡             | 2001      | 古墳：住居跡・溝跡・奈良・平安：住居跡・掘立柱建物跡・溝跡、中世：掘立柱建物跡・溝跡             |
|    | 元総社小見VI遺跡             | 2003      | 奈良・平安：住居跡・溝跡、中世：井戸跡                                    |
| 56 | 總社甲福荷塚大泊西田遺跡          | 2002      | 古墳：住居跡・奈良・平安：住居跡・墓跡・溝跡                                 |
|    | 總社閑泉明神北田遺跡            | 2002      | 繩文：住居跡・古墳；住居跡・奈良・平安：住居跡                                |
|    | 總社甲福荷塚大泊西IV遺跡         | 2003      | 古墳：墓跡、中世：墓跡  |
| 57 | 元総社小見II遺跡             | 2002      | 繩文：住居跡・古墳；住居跡・奈良・平安：住居跡・掘立柱建物跡・中世：溝跡・道路状遺構             |
|    | 元総社小見IV遺跡             | 2003      | 繩文：住居跡・古墳；住居跡・奈良・平安：住居跡・中世：溝跡                          |
|    | 元総社小見V遺跡              | 2003      | 繩文：住居跡・古墳；住居跡・奈良・平安：住居跡・中世：掘立柱建物跡                      |
|    | 元総社小見VI遺跡             | 2004      | 繩文：住居跡・古墳；住居跡・奈良・平安：住居跡                                |
|    | 元総社小見VII遺跡            | 2004      | 繩文：住居跡・古墳；住居跡・奈良・平安：住居跡                                |
| 58 | 元総社小見粗遺跡              | 2002      | 繩文：住居跡・古墳；住居跡・奈良・平安：住居跡・溝跡・中世：溝跡・道路状遺構                 |
|    | 元総社草作V遺跡              | 2002      | 古墳：住居跡・奈良・平安：住居跡・中世：溝跡                                 |
| 59 | 元総社小見IV遺跡             | 2002      | 奈良・平安：住居跡・掘立柱建物跡・溝跡、中世：土壙墓・掘立柱建物跡・溝跡                   |
|    | 元総社小見内VIII遺跡          | 2003      | 奈良・平安：住居跡・溝跡、中世：窓穴状遺構                                  |
|    | 元総社小見内IX遺跡            | 2004      | 奈良・平安：住居跡・中世：溝跡  |
|    | 元総社小見内X遺跡             | 2004      | 古墳：住居跡・奈良・平安：住居跡・工房跡・粘土探査坑・金片・金粒、中世：溝跡・土壙墓             |
| 60 | 元総社北川遺跡（事業団）          | 2002～04   | 古墳：水田跡・奈良・平安：住居跡・墓跡・中・近世：掘立柱建物跡・水田跡・火葬墓                |
| 61 | 福荷塚東遺跡（事業団）           | 2003      | 古墳：住居跡・奈良・平安：住居跡・溝跡・電構築材採掘痕・井戸跡                        |
| 62 | 元総社小見VIII遺跡           | 2003      | 繩文：住居跡・奈良・平安：住居跡・掘立柱建物跡・中世：墓跡・溝跡                       |

\* 調査年度の欄の（ ）は調査開始年度を表す。

\* 遺跡名の欄の（事業団）は神跡馬原理叢文化財調査事業団を表す。

### III 調査方針と経過

#### 1 調査方針

委託調査箇所は、前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業の道路予定地で、元総社町地内5ヶ所に点在しており、便宜上東から5～9トレンチと呼称した。調査面積は5トレンチ172m<sup>2</sup>、6トレンチ176m<sup>2</sup>、7トレンチ396m<sup>2</sup>、8トレンチ380m<sup>2</sup>、9トレンチ152m<sup>2</sup>で総面積は1,276m<sup>2</sup>である。グリッド座標については、国家座標IX系（日本測地系）X = +44,000・Y = -72,200を基点（X0・Y0）とする4mピッチのものを使用し、西から東へX1、X2、X3…、北から南へY1、Y2、Y3…となり、グリッドの呼称は北西杭の名称を使用した。

本遺跡の公共座標（国家座標IX系）は次のとおりである。

5トレンチ（測点：X172・Y147）

|       |                |                |
|-------|----------------|----------------|
| 日本測地系 | X = +43412.000 | Y = -71512.000 |
| 世界測地系 | X = +43766.907 | Y = -71803.761 |

6トレンチ（測点：X156・Y159）

|       |                |                |
|-------|----------------|----------------|
| 日本測地系 | X = +43364.000 | Y = -71576.000 |
| 世界測地系 | X = +43718.909 | Y = -71867.761 |

7トレンチ（測点：X118・Y165）

|       |                |                |
|-------|----------------|----------------|
| 日本測地系 | X = +43340.000 | Y = -71728.000 |
| 世界測地系 | X = +43694.910 | Y = -72019.759 |

8トレンチ（測点：X95・Y176）

|       |                |                |
|-------|----------------|----------------|
| 日本測地系 | X = +43296.000 | Y = -71820.000 |
| 世界測地系 | X = +43650.911 | Y = -72111.759 |

9トレンチ（測点：X35・Y152）

|       |                |                |
|-------|----------------|----------------|
| 日本測地系 | X = +43392.000 | Y = -72060.000 |
| 世界測地系 | X = +43746.910 | Y = -72351.754 |

調査方法は、表土掘削・遺構確認・杭打ち・遺構掘下・遺構精査・測量・全景写真撮影の手順で行った。

図面作成は、平板・簡易遺り方測量を用い、遺構平面図は原則として1/20、住居跡電・炉は1/10の縮尺で作成した。遺物については平面分布図を作成し、台帳に各種記録をしながら収納した。包含層の遺物はグリッド単位で収納し、重要遺物については分布図・遺物台帳の記載を行い収納した。

#### 2 調査経過

本調査は5月17日より現地調査を開始した。まず、昨年度に表土掘削・杭打ち測量・遺構確認まで済ませていた9トレンチより遺構掘り下げ・精査を行った。その後は、複数のトレンチを平行し、調査を進めた（Tab.2）。

5～8トレンチの表土掘削については、いずれの調査地も畑作地であるため、耕作土と遺構面の土とを分ける必要があった。トレンチにより土層の堆積状況はやや異なるが、おおよそ以下の手順で表土掘削を行った。まず、重機（パックフォー0.4m<sup>3</sup>）にて約20～60cm程度堆積する現耕作土を掘削し一ヵ所に集めた。その後、更に約10～20cm程掘り下げAs-B軽石混土層を取り除き、As-C-Hr-FP軽石を含む暗褐色土もしくは黄褐色土の面において遺構確認を行った。

本調査では、すべてのトレンチから奈良・平安時代の堅穴住居跡が検出された。5・6トレンチは遺構がやや濃密であり、プラン確認や遺構の新旧関係の把握に苦慮した。7・8・9トレンチは住居跡の検出が少なく、調査は比較的順調に進んだ。ただ、8トレンチは、地山が粘質土のため、台風などにより何度も水没に見舞われた。また、晴天が続くと土が固結して掘り下げが困難になるなど調査の進めににくい場所であったため、予想以上に調査期間を要した。また、住宅地に隣接するトレンチもあり、近隣住民の理解を得ながらの調査となつた。

精査の結果、検出遺構の累計はTab.3のとおりとなつた。

5・6トレンチは7月下旬に、9トレンチは8月下旬にそれぞれ調査を終了し、埋め戻しを行つた。7・8トレンチは、遺構精査・掘り下げ終了後、9月8日に高所作業車による全景写真撮影を行つた。9月14日にはすべての調査を終了し、その後7・8トレンチの埋め戻しを行い、現地調査を終了した。

12月20日より文化財保護課営舎において、整理作業を開始した。遺物の水洗い・注記・接合・復元・実測・写真撮影・収納、図面の修正・整理・収納、写真的整理・収納を行い、3月17日にすべての作業を終了した。

Tab.2 元總社蒼海道路群（2）調査経過

| トレンチ名<br>(調査面積)            | 調査期間 |    |    |    |    |     |
|----------------------------|------|----|----|----|----|-----|
|                            | 5月   | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 |
| 5トレンチ (172m <sup>2</sup> ) |      | ■  | ■  |    |    |     |
| 6トレンチ (176m <sup>2</sup> ) | ■    | ■  |    |    |    |     |
| 7トレンチ (396m <sup>2</sup> ) |      | ■  | ■  |    |    |     |
| 8トレンチ (380m <sup>2</sup> ) |      |    | ■  | ■  |    |     |
| 9トレンチ (152m <sup>2</sup> ) | ■    | ■  |    |    |    |     |

Tab.3 元總社蒼海道路群（2）検出遺構累計

| トレンチ名 | 堅穴住居 | 堅穴状遺構 | 土坑 | 溝  | 土坑墓 | 井戸跡 | ビット |
|-------|------|-------|----|----|-----|-----|-----|
| 5トレンチ | 8    | 0     | 2  | 8  | 0   | 0   | 3   |
| 6トレンチ | 7    | 0     | 7  | 0  | 0   | 0   | 4   |
| 7トレンチ | 3    | 1     | 7  | 8  | 3   | 0   | 4   |
| 8トレンチ | 6    | 2     | 11 | 2  | 0   | 1   | 24  |
| 9トレンチ | 5    | 0     | 5  | 4  | 0   | 0   | 1   |
| 合計    | 29   | 3     | 32 | 22 | 3   | 1   | 36  |

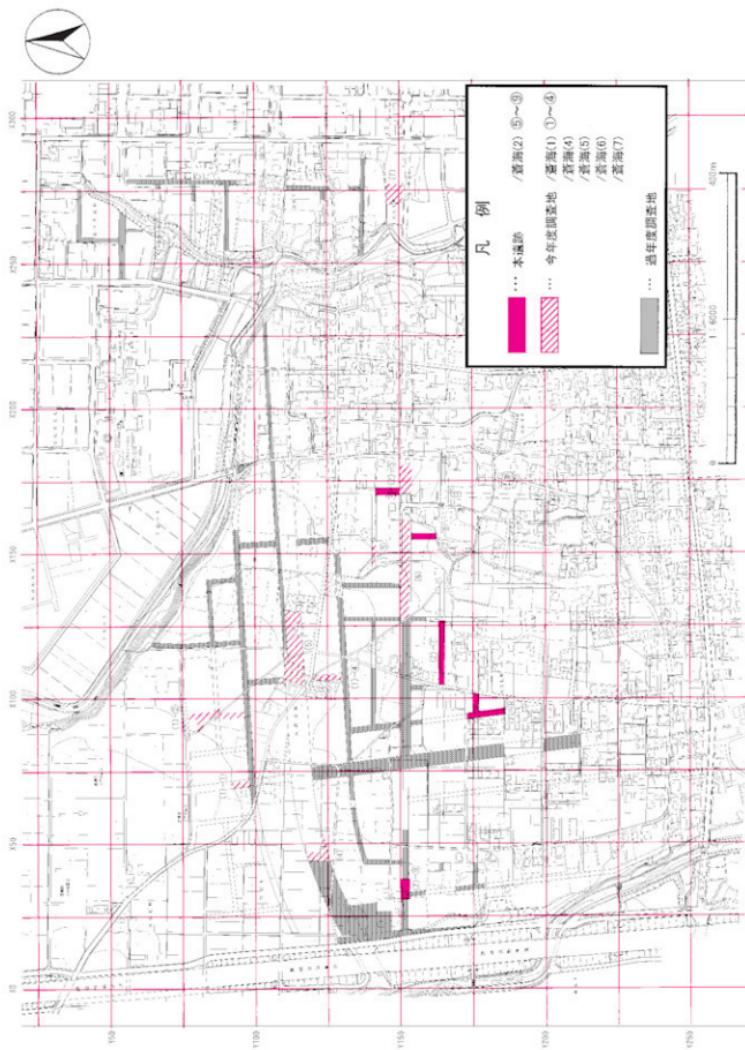


Fig. 3 元總社蒼海道路群位置図とグリッド設定図

## IV 遺構と遺物

### 5 トレンチ

#### 1 積穴住居跡

H-1号住居跡 (Fig. 5・29, PL. 1・11)

位置 X171・172、Y143・144グリッド 主軸方向 N-72°-E 形状等 方形。東西 [3.78] m、南北 [3.82] m、壁現高54.5cmを測る。面積 [13.6] m<sup>2</sup> 床面 平坦な床面で、竈前のみ堅緻。竈 東壁中央南より検出され、主軸方向N-73°-E、全長120cm、最大幅86cm、焚口部幅38cmを測る。構築材として、粘土を使用している。  
重複 H-2・6と重複しており、新旧関係は本遺構→H-2→H-6の順である。  
出土遺物 土師器208点・須恵器78点・灰釉陶器3点。そのうち、壺1点、甕1点を図示した。  
備考 時期は埋土や出土遺物から8世紀中葉と考えられる。

H-2号住居跡 (Fig. 5)

位置 X171・172、Y143・144グリッド 主軸方向 N-97°-E 形状等 長方形。東西 [2.73] m、南北 [3.27] m、壁現高53.5cmを測る。面積 [8.49] m<sup>2</sup> 床面 平坦で堅緻な床面。竈 北側部分をH-3に壊されているが、東壁南より検出され、主軸方向N-97°-E、全長100cm、最大幅 [77] cm、焚口部幅 [37] cmを測る。  
重複 H-1・3・6と重複しており、新旧関係はH-1→本遺構→H-3・6の順である。  
出土遺物 土師器108点・須恵器59点・瓦1点、石類3点・灰釉陶器2点。そのうち、白玉1点を図示した。  
備考 時期は埋土や重複関係から8世紀中葉から10世紀前半と考えられる。

H-3号住居跡 (Fig. 6・29、PL.11)

位置 X171・172、Y142・143グリッド 主軸方向 N-106°-E 形状等 方形と推定される。東西 (3.59) m、南北 (4.55) m、壁現高49.5cmを測る。面積 (11.58) m<sup>2</sup> 床面 平坦で堅緻な床面。竈 検出されず。  
重複 H-2と重複しており、新旧関係はH-2→本遺構の順である。  
出土遺物 土師器18点・須恵器44点・瓦2点・灰釉陶器2点。そのうち、壺1点、高台碗2点、甕1点を図示した。  
備考 時期は埋土や出土遺物から10世紀前半と考えられる。

H-4号住居跡 (Fig. 6・29・30、PL.2・11・12・18)

位置 X170・171、Y143・144グリッド 主軸方向 N-104°-E 形状等 方形と推定される。東西 (2.75) m、南北 (3.90) m、壁現高51.0cmを測る。面積 (8.52) m<sup>2</sup> 床面 堅緻な床面で、北側部がやや高くなる。竈 東壁中央より検出され、主軸方向N-101°-E、全長123cm、最大幅96cm、焚口部幅42cmを測る。構築材として、粘土、両袖に川原石を使用している。  
重複 H-6・D-3と重複しており、新旧関係は本遺構→H-6・D-3の順である。  
出土遺物 土師器72点・須恵器224点・瓦1点・鉄製品1点・灰釉陶器4点。そのうち、壺4点、高台碗4点、羽釜3点、刀子1点を図示した。  
備考 時期は埋土や出土遺物から10世紀前半と考えられる。

H-5号住居跡 (Fig. 7・29、PL.11・18)

位置 X171・172、Y144・145グリッド 主軸方向 N-100°-E 形状等 方形と推定される。東西 (2.40) m、南北 (3.92) m、壁現高35.0cmを測る。面積 (7.39) m<sup>2</sup> 床面 平坦で堅緻な床面。竈 検出されず。  
出

**土遺物** 繩文土器1点・土師器93点・須恵器36点・瓦1点・鉄製品2点・灰釉陶器1点・綠釉陶器1点。そのうち、高台椀1点、羽釜1点、綠釉陶器1点、刀子1点を図示した。**備考** 時期は埋土や出土遺物から10世紀後半と考えられる。

#### H-6号住居跡 (Fig. 7・31, PL. 2・12・13・18)

**位置** X170・171、Y143・144グリッド **主軸方向** N-98°-E **形状等** 長方形。東西2.78m、南北3.82m、壁現高54.0cmを測る。面積 9.39m<sup>2</sup> 床面 平坦で堅緻な貼り床。**竈** 東壁中央やや南より検出され、主軸方向N-102°-E、全長78cm、最大幅87cm、焚口部幅41cmを測る。構築材として、粘土、川原石、凝灰岩を使用している。**重複** H-1・2・4と重複しており、新旧関係はH-1→H-2、H-4→本遺構の順である。**出土遺物** 土師器52点・須恵器72点・鉄製品2点・灰釉陶器1点。そのうち、壺2点、高台椀7点、羽釜1点、甌1点、紡錘車1点を図示した。**備考** 時期は埋土や出土遺物から10世紀後半と考えられる。

#### H-7号住居跡 (Fig. 7)

**位置** X170、Y144・145グリッド **主軸方向** N-83°-E **形状等** 方形と推定される。東西(0.96)m、南北(3.65)m、壁現高76.0cmを測る。面積 (2.68)m<sup>2</sup> 床面 平坦で堅緻な床面。**竈** 東壁中央南より検出され、主軸方向N-86°-E、全長143cm、最大幅89cm、焚口部幅31cmを測る。構築材として、粘土を使用している。**重複** H-8と重複しており、新旧関係は本遺構→H-8の順である。**出土遺物** 土師器77点・須恵器26点・瓦1点。**備考** 時期は埋土や重複関係からHr-FP降下以降から10世紀代と考えられる。

#### H-8号住居跡 (Fig. 7)

**位置** X170、Y145グリッド **主軸方向** N-91°-E **形状等** 方形と推測される。東西(0.39)m、南北(1.20)m、壁現高55.0cmを測る。面積 (0.45)m<sup>2</sup> 床面 平坦な床面。**竈** 検出されず。**重複** H-7と重複しており、新旧関係はH-7→本遺構の順である。**出土遺物** 土師器6点・須恵器3点。**備考** 時期は埋土や出土遺物(床直羽釜破片出土)から10世紀代と考えられる。

## 2 溝 跡

#### W-1号溝跡 (Fig. 8)

**位置** X171・172、Y145～146グリッド **主軸方向** N-89°-W **形状等** U字形。長さ3.25m、深さ27.5cm、最大上幅190cm、最大下幅124cmを測る。**出土遺物** 土師器12点・須恵器4点。**備考** 流水の痕跡無し。時期は埋土からAs-B降下以降と考えられる。

#### W-2号溝跡 (Fig. 8、PL. 2)

**位置** X171・172、Y148グリッド **主軸方向** N-88°-W **形状等** U字形。長さ4.34m、深さ16.5cm、最大上幅68cm、最大下幅50cmを測る。**重複** W-3と重複しており、新旧関係はW-3→本遺構の順である。**出土遺物** 土師器73点・須恵器41点・鉄製品1点・灰釉陶器3点。**備考** 流水の痕跡無し。時期は埋土からAs-B降下以降と考えられる。

#### W-3号溝跡 (Fig. 8、PL. 2)

**位置** X171・172、Y147～151グリッド **主軸方向** 南北方向は北からN-4°-Eで4.75m、N-32°-Eで0.95

m、N-5°-Wで4.6m。東西方向はN-82°-E 形状等 U字形。南北方向の長さ10.3m、東西方向の長さ5.1m、深さ36.0cm、最大上幅112cm、最大下幅93cmを測る。重複 W-2・5・6・7・8と重複しており、新旧関係はW-6・7・8→本遺構→W-2・5の順である。出土遺物 土師器4点。備考 流水の痕跡無し。時期は埋土からAs-B降下以降と考えられる。

#### W-4号溝跡 (Fig. 8、PL. 2)

位置 X171・172、Y149グリッド 主軸方向 N-82°-E 形状等 U字形。長さ2.35m、深さ20.5cm、最大上幅53cm、最大下幅40cmを測る。備考 流水の痕跡無し。時期は埋土からAs-B降下以降と考えられる。

#### W-5号溝跡 (Fig. 8、PL. 2)

位置 X171・172、Y149・150グリッド 主軸方向 N-13°-W 形状等 U字形。長さ3.99m、深さ30.0cm、最大上幅73cm、最大下幅54cmを測る。重複 W-3と重複しており、新旧関係はW-3→本遺構の順である。備考 流水の痕跡無し。時期は埋土からAs-B降下以降と考えられる。

#### W-6号溝跡 (Fig. 8、PL. 2)

位置 X171、Y147・148グリッド 主軸方向 N-66°-W 形状等 U字形。長さ4.15m、深さ29.0cm、最大上幅92cm、最大下幅80cmを測る。重複 W-3と重複しており、新旧関係は本遺構→W-3の順である。出土遺物 土師器1点。備考 流水の痕跡無し。時期は埋土からAs-B降下以降と考えられる。

#### W-7号溝跡 (Fig. 8、PL. 2)

位置 X171、Y149グリッド 主軸方向 N-86°-W 形状等 U字形。長さ2.50m、深さ38.0cm、最大上幅87cm、最大下幅64cmを測る。重複 W-3と重複しており、新旧関係は本遺構→W-3の順である。備考 流水の痕跡無し。時期は埋土からAs-B降下以降と考えられる。

#### W-8号溝跡 (Fig. 8、PL. 2)

位置 X171、Y149グリッド 主軸方向 N-86°-E 形状等 U字形。長さ2.46m、深さ38.0cm、最大上幅106cm、最大下幅94cmを測る。重複 W-3と重複しており、新旧関係は本遺構→W-3の順である。備考 流水の痕跡無し。時期は埋土からAs-B降下以降と考えられる。

### 3 土坑・ピット (Fig. 8)

土坑・ピットについては、Tab.6-1「土坑・ピット計測表」(p.21)を参照のこと。

### 4 グリッド等出土遺物

遺物は、繩文土器8点・土師器275点・須恵器75点・瓦10点・鉄製品1点・灰釉陶器9点・中世陶器2点が出土した。

## 6 トレンチ

### 1 穫穴住居跡

H-1号住居跡 (Fig.10・32、PL. 3・13・19)

位置 X155、Y156・157グリッド 主軸方向 N-108°-E 形状等 方形と推定される。東西(2.05)m、南北(4.58)m、壁現高35.0cmを測る。面積 (6.39)m<sup>2</sup> 床面 平坦で堅緻な貼り床。竈 東壁中央南より検出され、主軸方向N-114°-E、全長100cm、最大幅70cm、焚口部幅30cmを測る。構築材として、粘土、川原石、瓦を使用している。重複 H-2と重複しており、新旧関係はH-2→本造構の順である。出土遺物 繩文土器1点・土師器172点・須恵器51点・鉄製品3点・石類1点・瓦29点。そのうち、かわらけ3点、瓦5点を図示した。備考 時期は埋土や出土遺物から11世紀代と考えられる。

H-2号住居跡 (Fig.10・11・32、PL. 4・13・14)

位置 X155・156、Y157・158グリッド 主軸方向 N-119°-E 形状等 長方形。東西4.24m、南北4.55m、壁現高39.5cmを測る。面積 17.37m<sup>2</sup> 床面 平坦で堅緻な貼り床。竈 東壁中央やや南より検出され、主軸方向N-123°-E、全長97cm、最大幅127cm、焚口部幅47cmを測る。構築材として、粘土を使用している。重複 H-1と重複しており、新旧関係は本造構→H-1の順である。出土遺物 土師器549点・須恵器62点・鉄製品4点・石類4点。そのうち、蓋1点、壺5点、甕1点を図示した。備考 時期は埋土や出土遺物から8世紀中葉と考えられる。

H-3号住居跡 (Fig.11・32、PL. 4・14)

位置 X155、Y158・159グリッド 主軸方向 N-114°-E 形状等 方形と推定される。東西(3.30)m、南北(4.17)m、壁現高31.5cmを測る。面積 (9.63)m<sup>2</sup> 床面 平坦で堅緻な貼り床。竈 検出されず。重複 H-6・8、D-4・5と重複しており、新旧関係はH-8→D-5→本造構→D-4の順である。(H-6との新旧関係は不明。)出土遺物 土師器235点・須恵器52点・鉄製品2点・石類1点・瓦1点。そのうち、かわらけ2点を図示した。備考 時期は埋土や出土遺物から11世紀代と考えられる。

H-4号住居跡 (Fig.11・32・33、PL. 4・14・20)

位置 X155・156、Y154・155グリッド 主軸方向 N-106°-E 形状等 長方形と推定される。東西(3.50)m、南北(3.62)m、壁現高50.0cmを測る。面積 (9.09)m<sup>2</sup> 床面 平坦で堅緻な貼り床。竈 東壁より検出され、主軸方向N-116°-E、全長(80)cm、最大幅(72)cm、焚口部幅44cmを測る。構築材として、粘土、川原石、瓦を使用している。重複 H-5と重複しており、新旧関係はH-5→本造構の順である。出土遺物 土師器211点・須恵器26点・鉄製品5点・石類2点・瓦16点。そのうち、かわらけ2点、土釜1点、瓦3点を図示した。備考 時期は埋土や出土遺物から11世紀代と考えられる。

H-5号住居跡 (Fig.11・32、PL. 4・14)

位置 X155、Y154グリッド 主軸方向 N-97°-E 形状等 方形と推測される。東西(1.52)m、南北(2.08)m、壁現高23.0cmを測る。面積 (2.38)m<sup>2</sup> 床面 平坦で堅緻な貼り床。竈 検出されず。重複 H-4と重複しており、新旧関係は本造構→H-4の順である。出土遺物 繩文土器7点・土師器157点・須恵器13点・石類4点・瓦4点。そのうち、壺1点を図示した。備考 時期は埋土や重複関係からHr-FP降下から11世紀

代と考えられる。

#### H-6号住居跡 (Fig.12・32・33、PL.4・5・14・18)

位置 X155・156、Y159～161グリッド 主軸方向 N-109°-E 形状等 長方形。東西4.00m、南北5.52m、壁現高39.0cmを測る。面積 20.63m<sup>2</sup> 床面 平坦で堅緻な貼り床。竈 東壁南隅より検出され、主軸方向N-123°-E、全長143cm、最大幅86cm、焚口部幅54cmを測る。構築材として、粘土、燃焼部両側にきれいに面取りした凝灰岩を使用している。重複 H-3と重複しているが、新旧関係は不明。出土遺物 織文土器2点・土師器419点・須恵器67点・鉄製品2点・石類2点・瓦7点。そのうち、壺1点、高台椀2点、甕1点、鉄鍛1点、刀子1点を図示した。備考 時期は埋土や出土遺物から11世紀前半と考えられる。

#### H-7号住居跡 欠番

#### H-8号住居跡 (Fig.13)

位置 X170、Y158・159グリッド 主軸方向 N-108°-E 形状等 方形と推測される。東西(1.28)m、南北(2.56)m、壁現高51.5cmを測る。面積 (2.16) m<sup>2</sup> 床面 平坦な床面。竈 D-4・5に壊されてるが、東壁より検出され、主軸方向N-108°-Eを測る。重複 H-3、D-4・5と重複しており、新旧関係は本遺構→D-5→H-3→D-4の順である。出土遺物 土師器15点・須恵器3点・石類1点。備考 時期は埋土や重複関係からHr-FP降低以降から11世紀代と考えられる。

## 2 土坑・ピット (Fig.13・32、PL.15)

土坑・ピットについては、Tab.6-2「土坑・ピット計測表」(p.22)を参照のこと。

なお、D-1の壺1点を図示した。

## 3 グリッド等出土遺物 (Fig.33、PL.15)

遺物は、土師器547点・須恵器154点・鉄製品8点・石類4点・瓦20点・灰釉陶器5点が出土した。そのうち、蓋1点・高台椀2点を図示した。なお、1点の高台椀(6-22)の内面には銅津が付着しており、坩埚に転用していると考えられる。

## 7 トレンチ

### 1 壓穴住居跡

#### H-1号住居跡 (Fig.15・34、PL.5・15)

位置 X109・110、Y164・165グリッド 主軸方向 N-94°-E 形状等 方形と推定される。西側に方形の張り出しを確認。東西(6.87)m、南北(3.37)m、壁現高104.5cmを測る。面積 (17.94) m<sup>2</sup> 床面 平坦で全体的に堅緻な床面。周溝有。張り出しの床も同レベルで堅緻。周溝も連続して巡る。竈 検出されず。重複 D-1と重複しており、本遺構→D-1の順である。出土遺物 土師器169点・須恵器13点・石類8点。そのうち、壺4点・甕1点・小型甕1点・甕1点を図示した。備考 時期は埋土や出土遺物から8世紀中葉と考えられる。

#### H-2号住居跡 欠番

H-3号住居跡 (Fig.16・34、PL.5・15)

位置 X114・115、Y163・164グリッド 主軸方向 N-98°-E 形状等 方形と推定される。東西(3.25)m、南北(2.61)m、壁現高72cmを測る。面積 (6.86)m<sup>2</sup> 床面 平坦で全体的に堅緻な床面。電 東壁より検出され、主軸方向N-103°-E、全長172cm、最大幅95cmを測る。構築材として粘土を使用している。重複 W-3・5と重複しており、新旧関係は本遺構→W-3・5の順である。出土遺物 繩文土器2点・土師器94点・須恵器10点。そのうち、蓋1点・壺3点を図示した。備考 時期は埋土や出土遺物から8世紀前半と考えられる。

H-4号住居跡 (Fig.15・34、PL.5)

位置 X113・114、Y164・165グリッド 主軸方向 N-102°-E 形状等 方形と推定される。東西(3.72)m、南北(3.10)m、壁現高54.5cmを測る。面積 (9.10)m<sup>2</sup> 床面 平坦な貼り床。電 検出されず 重複 D-7と重複しており、新旧関係はD-7→本遺構の順である。出土遺物 土師器303点・須恵器28点・石類1点・灰釉陶器3点。そのうち、壺1点を図示した。備考 時期は埋土や出土遺物から8世紀前半と考えられる。

## 2 壁穴状遺構

T-1号壁穴状遺構 (Fig.16)

位置 X125・126、Y164・165グリッド 主軸方向 N-79°-E 形状等 方形と推測される。東西(3.70)m、南北(0.74)m、壁現高34.5cmを測る。面積 (3.71)m<sup>2</sup> 床面 凹凸のある床面。出土遺物 土師器10点・須恵器8点。備考 セクションでは、ほぼ平坦に堆積している土層が認められたが、堅緻ではなかったため住居跡との断定は避けた。時期は埋土からHr-FP降下以降からAs-B降下以前と考えられる。

## 3 溝 跡

W-1号溝跡 (Fig.17、PL.6)

位置 X119・120、Y163～165グリッド 主軸方向 N-0°-W 形状等 U字形。長さ5.48m、深さ24.5cm、最大上幅120cm、最大下幅68cmを測る。出土遺物 土師器5点・須恵器3点。備考 流水の痕跡無し。溝の両側にピット列有。時期は埋土からAs-B降下以降と考えられる。

W-2号溝跡 (Fig.17)

位置 X117、Y163～165グリッド 主軸方向 N-4°-W 形状等 U字形。長さ北側5.28m、深さ17.5cm、最大上幅86cm、最大下幅53cmを測る。底部に硬化面有。出土遺物 土師器4点・須恵器1点。備考 流水の痕跡無し。時期は埋土からAs-B降下以降と考えられる。

W-3号溝跡 (Fig.17)

位置 X115・116、Y163～165グリッド 主軸方向 N-0°-W 形状等 U字形。長さ5.29m、深さ20.5cm、最大上幅149cm、最大下幅87cmを測る。重複 H-3と重複しており、新旧関係はH-3→本遺構の順である。出土遺物 土師器35点・須恵器3点・瓦1点。備考 流水の痕跡有。時期は埋土や重複関係から8世紀からAs-B降下以前と考えられる。

#### W-4号溝跡 (Fig.17)

位置 X112、Y163～165グリッド 主軸方向 N-0°～W 形状等 U字形。長さ5.23m、深さ5.5cm、最大上幅46cm、最大下幅31cmを測る。出土遺物 土師器4点・須恵器1点。備考 流水の痕跡無し。時期は埋土からHr-FP降下からAs-B降下以降と考えられる。

#### W-5号溝跡 (Fig.17)

位置 X114～115、Y163～165グリッド 主軸方向 N-12°～E 形状等 U字形。長さ5.39m、深さ17.5cm、最大上幅78cm、最大下幅60cmを測る。重複 H-3、D-6と重複しており、新旧関係はH-3、D-6→本遺構の順である。備考 流水の痕跡無し。時期は埋土や重複関係から8世紀からAs-B降下以前と考えられる。

#### W-6号溝跡 (Fig.17)

位置 X106、Y163～165グリッド 主軸方向 N-15°～E 形状等 U字形。長さ4.37m、深さ22.5cm、最大上幅136cm、最大下幅106cmを測る。出土遺物 土師器5点・須恵器11点。備考 流水の痕跡無し。時期は埋土からHr-FP降下以降からAs-B降下以前と考えられる。

#### W-7号溝跡 (Fig.17)

位置 X118～119、Y163～165グリッド 主軸方向 南北方向はN-2°～W、東西方向はN-87°～W 形状等 U字形。南北方向の長さは5.38m・東西方向の長さは4.08m、深さ11.5cm、最大上幅60cm、最大下幅46cmを測る。備考 溝上部が硬化しており、道路として利用した可能性が考えられる。時期は埋土からHr-FP降下以降からAs-B降下以前と考えられる。

#### W-8号溝跡 (Fig.17)

位置 X124、Y164～165グリッド 主軸方向 N-1°～W 形状等 U字形。長さ2.82m、深さ10.5cm、最大上幅48cm、最大下幅26cmを測る。備考 流水の痕跡無し。時期は埋土からAs-B降下以降と考えられる。

### 4 土坑・土坑墓・ピット (Fig.18・34、PL.6・15)

土坑・土坑墓・ピットについては、Tab.6-3「土坑・土坑墓・ピット計測表」(p.22・23)を参照のこと。

DB-2号土坑墓からは、かわらけ1点・内黒高台椀2点・灰釉高台椀1点を出土した。かわらけは、やや器内が厚く口縁端部が外反する。内黒高台椀は、酸化焰焼成で、腰部の張るやや深い体部で、高台部内側は回転撚で調整を行っている。灰釉高台椀は、腰部の張るやや深い体部で、口唇部内面・底部内面に沈線が巡る。搬入品の灰釉高台椀は、虎渓山1号窯式で10世紀後半と比定され、かわらけ及び内黒高台椀は11世紀前半のものと考えられる（中沢悟：群馬県埋蔵文化財調査事業団「清里・陣場遺跡」より）。また、埋土にAs-B軽石を含まないことから、埋葬時期については、11世紀前半からAs-B降下以前の時期と考えられる。

なお、D-1の蓋2点、DB-1の高台椀1点、DB-2のかわらけ1点・高台椀3点、DB-3のかわらけ2点を図示した。

### 5 グリッド等出土遺物 (Fig.38)

遺物は、繩文土器1点・土師器120点・須恵器34点・瓦7点・鉄製品1点・石類2点・古鏡1点・灰釉陶器1点

が出土した。そのうち、土製円盤1点を図示した。

## 8 トレンチ

### 1 積穴住居跡

H-1号住居跡 (Fig.20)

位置 X94・95、Y177・178グリッド 主軸方向 N-84°-E 形状等 方形と推定される。東西(1.34)m、南北(4.32)m、壁現高40.5cmを測る。面積 (4.63)m<sup>2</sup> 床面 平坦な床面。竈 検出されず。出土遺物 土師器61点・須恵器20点・瓦1点・石類3点。備考 時期は埋土からHr-FP降下以降からAs-B降下以前と考えられる。

H-2号住居跡 (Fig.20・35、PL. 7)

位置 X94、Y178・179グリッド 主軸方向 N-84°-E 形状等 方形と推定される。東西(0.95)m、南北(4.73)m、壁現高38.5cmを測る。面積 (3.18)m<sup>2</sup> 床面 平坦な床面。竈 東壁中央南より検出され、主軸方向N-84°-E、全長76cm、最大幅81cm、焚口部幅61cmを測る。構築材として粘土を使用している。重複 H-6と重複しており、新旧関係はH-6→本遺構の順である。出土遺物 土師器37点・須恵器33点・瓦2点・鉄類3点・灰釉陶器1点。そのうち、高台椀1点・羽釜1点・瓦1点を図示した。備考 時期は埋土や出土遺物から10世紀前半と考えられる。

H-3号住居跡 (Fig.20・35、PL. 7・8・16・18・19・20)

位置 X93・94、Y176・177グリッド 主軸方向 N-87°-E 形状等 方形と推定される。東西(2.32)m、南北(4.18)m、壁現高37cmを測る。面積 (7.83)m<sup>2</sup> 床面 ほぼ平坦な床面。竈 東壁中央南より検出され、主軸方向N-94°-E、全長87cm、最大幅92cm、焚口部幅38cmを測る。構築材として粘土、支脚に瓦を使用している。出土遺物 土師器114点・須恵器128点・瓦4点・鉄類1点・石類1点・灰釉陶器1点。そのうち、环3点・高台椀1点・甕1点・羽釜2点・鉄製鋤車1点・瓦3点を図示した。備考 時期は埋土や出土遺物から10世紀前半と考えられる。

H-4号住居跡 (Fig.21)

位置 X95、Y181・182グリッド 主軸方向 N-98°-E 形状等 方形と推定される。東西(2.23)m、南北(3.54)m、壁現高46.5cmを測る。面積 (5.70)m<sup>2</sup> 床面 ほぼ平坦な床面。竈 検出されず。重複 D-11と重複しており、新旧関係はD-11→本遺構の順である。出土遺物 繩文土器2点・土師器45点・須恵器8点・瓦10点。備考 時期は埋土からHr-FP降下以降からAs-B降下以前と考えられる。

H-5号住居跡 (Fig.21・36、PL. 8・16・17)

位置 X94・95、Y185グリッド 主軸方向 N-85°-E 形状等 方形と推測される。東西(1.02)m、南北(2.34)m、壁現高38cmを測る。面積 (1.98)m<sup>2</sup> 床面 平坦で全体的に堅緻な床面。竈 東壁より検出され、主軸方向N-93°-E、全長(114)cm、最大幅(51)cm、焚口部幅(31)cmを測る。構築材として粘土を使用している。重複 W-2と重複しており、新旧関係は本遺構→W-2の順である。出土遺物 繩文土器1点・土師器84点・瓦1点。そのうち、环2点・甕1点を図示した。備考 時期は埋土や出土遺物から7世紀末から8

世紀前半と考えられる。

#### H-6号住居跡 (Fig.21・36、PL. 8・17・18)

位置 X94、Y178・179グリッド 主軸方向 N-89°-E 形状等 方形と推定される。東西(1.67)m、南北(3.22)m、壁現高41cmを測る。面積 (4.53)m<sup>2</sup> 床面 平坦な床面。竈 東壁中央やや南より検出され、主軸方向N-102°-E、全長129cm、最大幅110cm、焚口部幅58cmを測る。構築材として粘土を使用している。重複 H-2と重複しており、新旧関係は本遺構→H-2の順である。出土遺物 土師器53点・須恵器20点・瓦5点・鉄類1点・灰釉陶器1点。そのうち、坏1点・高台碗1点・鉄製品1点を図示した。備考 時期は埋土や出土遺物、重複関係からH-2よりやや古い9世紀後半から10世紀前半と考えられる。

## 2 積穴状遺構

#### T-1号積穴状遺構 (Fig.22、PL. 8)

位置 X95・96、Y176グリッド 主軸方向 N-95°-E 形状等 方形と推定される。東西(2.87)m、南北(1.11)m、壁現高34cmを測る。面積 (2.51)m<sup>2</sup> 床面 ほぼ平坦な床面。出土遺物 土師器18点・須恵器7点・鉄類1点・石類3点・灰釉陶器1点。備考 東壁付近で川原石が集中して出土している。時期は埋土からAs-B降下以降と考えられる。

#### T-2号積穴状遺構 (Fig.22、PL. 8)

位置 X94・95、Y175・176グリッド 主軸方向 N-92°-E 形状等 長方形と推定される。東西(3.68)m、南北(4.56)m、壁現高74cmを測る。面積 (9.78)m<sup>2</sup> 床面 ほぼ平坦な床面。出土遺物 土師器12点・須恵器8点・鉄類1点。備考 時期は埋土からAs-B降下以降と考えられる。

## 3 溝 跡

#### W-1号溝跡 (Fig.23)

位置 X95、Y182・183グリッド 主軸方向 N-7°-W 形状等 U字形。北側は長さ0.91m・南側は長さ3.32m、深さ14.5cm、最大上幅38cm、最大下幅23cmを測る。備考 流水の痕跡無し。時期は埋土からHr-FP降下からAs-B降下以前と考えられる。

#### W-2号溝跡 (Fig.23、PL. 8)

位置 X94~96、Y183~185グリッド 主軸方向 N-76°-W 形状等 U字形。長さ7.99m、深さ97.5cm、最大上幅611cm、最大下幅204cmを測る。重複 H-5と重複しており、新旧関係はH-5→本遺構の順である。出土遺物 須恵器4点・瓦1点・石類4点。備考 部分的に硬化面有。時期は埋土からAs-B降下以降と考えられる。

## 4 土坑・ピット・井戸跡 (Fig.23・24)

土坑・ピット・井戸跡については、Tab.6-4「土坑・ピット・井戸跡計測表」(p.23・24)を参照のこと。

## 5 グリッド等出土遺物

遺物は、繩文土器 3 点・土師器 182 点・須恵器 97 点・瓦 2 点・石類 1 点・鉄製品 1 点・灰釉陶器 1 点が出土した。

### 9 トレンチ

#### 1 壊穴住居跡

H-1号住居跡 (Fig.26・36、PL. 9・17)

位置 X33~35、Y150~151グリッド 主軸方向 N-75°-E 形状等 方形と推定される。東西 (5.15) m、南北 (4.24) m、壁現高64cmを測る。面積 (16.29) m<sup>2</sup> 床面 ほぼ平坦で部分的に堅緻な床面。竈 東壁より検出され、主軸方向N-76°-E、全長190cm、最大幅147cm、焚口部幅63cmを測る。構築材として粘土を使用しており、袖部も全体を粘土で構築している。支脚には、凝灰岩を使用。重複 H-5と重複しており、新旧関係は本遺構→H-5の順である。出土遺物 繩文土器55点・土師器278点・須恵器70点・瓦4点・鉄類3点・円筒埴輪3点。そのうち、壺3点・盤2点・高壺1点・小型甕1点・瓶1点・壺1点を図示した。備考 時期は埋土や出土遺物から8世紀中葉と考えられる。

H-2号住居跡 (Fig.27、PL. 9)

位置 X34~35、Y152グリッド 主軸方向 N-70°-E 形状等 方形と推定される。東西 (3.68) m、南北 (4.24) m、壁現高26.5cmを測る。面積 (5.51) m<sup>2</sup> 床面 平坦な床面。竈 検出されず。重複 H-3と重複しており、新旧関係はH-3→本遺構の順である。出土遺物 繩文土器7点・土師器103点・須恵器13点・瓦3点・鉄類1点。備考 時期は埋土や重複関係から6世紀後半からAs-B障下以前と考えられる。

H-3号住居跡 (Fig.27・37、PL. 9・17)

位置 X35、Y152グリッド 主軸方向 N-88°-E 形状等 方形と推測される。東西 (1.38) m、南北 (1.80) m、壁現高28.5cmを測る。面積 (1.85) m<sup>2</sup> 床面 平坦な床面。竈 検出されず。重複 H-2と重複しており、新旧関係は本遺構→H-2の順である。出土遺物 繩文土器2点・土師器15点・須恵器1点・瓦1点・鉄類1点・灰釉陶器1点。そのうち、壺1点を図示した。備考 時期は埋土や出土遺物から6世紀後半と考えられる。

H-4号住居跡 (Fig.27・37)

位置 X32~33、Y152グリッド 主軸方向 N-76°-E 形状等 方形と推定される。東西 (3.54) m、南北 (1.57) m、壁現高59.5cmを測る。面積 (3.72) m<sup>2</sup> 床面 平坦な床面。竈 検出されず。出土遺物 土師器17点・須恵器22点。そのうち、甕1点を図示した。備考 時期は埋土や出土遺物から9世紀代と考えられる。

H-5号住居跡 (Fig.27・37、PL.10・18)

位置 X33~34、Y151~152グリッド 主軸方向 N-73°-E 形状等 正方形。東西 (2.45) m、南北 (2.70) m、壁現高34.5cmを測る。面積 (5.88) m<sup>2</sup> 床面 北側がやや低い。部分的に堅緻な床面。竈 東壁中央南より検出され、主軸方向N-96°-E、全長85cm、最大幅90cm、焚口部幅40cmを測る。構築材として粘土を使用している。重複 H-1と重複しており、新旧関係はH-1→本遺構の順である。出土遺物 繩文土器3点・

土師器229点・瓦11点・円筒埴輪1点。そのうち、坏1点・高台椀1点・甕1点を図示した。 備考 時期は埋土や出土遺物から9世紀中葉と考えられる。

## 2 溝 跡

W-1号溝跡 (Fig.28, PL.10)

位置 X31・32, Y151・152グリッド 主軸方向 N-4°-W 形状等 逆台形。長さ7.41m、深さ116.5cm、最大上幅(458)cm、最大下幅(204)cmを測る。 出土遺物 繩文土器29点・土師器150点・須恵器116点・瓦116点・石類13点・灰釉陶器3点・陶器16点。 備考 7枚の硬化面有。時期は埋土からAs-B降下以降と考えられる。

W-2号溝跡 (Fig.28)

位置 X36, Y151・152グリッド 主軸方向 N-1°-W 形状等 U字形。長さ7.80m、深さ32.0cm、最大上幅63cm、最大下幅40cmを測る。重複 W-3、D-4と重複しており、新旧関係はD-4→W-3→本遺構の順である。 出土遺物 繩文土器4点・土師器8点・須恵器3点・灰釉陶器1点。 備考 時期は埋土からAs-B降下以降と考えられる。

W-3号溝跡 (Fig.28, PL.10)

位置 X35・36, Y151・152グリッド 主軸方向 N-2°-W 形状等 逆台形。長さ7.80m、深さ24.0cm、最大上幅(328)cm、最大下幅(304)cmを測る。重複 W-2・4、D-1・2・3・4・5と重複しており、新旧関係はD-1・2・3・4・5→本遺構→W-2・4の順である。 出土遺物 繩文土器47点・土師器90点・須恵器21点・瓦7点・鉄製品1点。 備考 北に位置する過年度調査区で検出された溝跡の続きと思われる。基盤層の総社砂層を掘り込み、最下部にAs-C-Hr-FPを含む暗褐色の非常に堅くしまった層がある。時期は埋土や重複関係から7世紀後半からAs-B降下以前と考えられる。詳細については「Vまとめ」で記述する。

W-4号溝跡 (Fig.28)

位置 X36, Y152グリッド 主軸方向 N-2°-W 形状等 U字形。長さ3.68m、深さ56.5cm、最大上幅73cm、最大下幅38cmを測る。重複 W-3と重複しており、新旧関係はW-3→本遺構の順である。 出土遺物 繩文土器15点・土師器50点・須恵器21点・瓦6点・石類1点。 備考 時期は埋土からAs-B降下以降と考えられる。

## 3 土坑・ピット (Fig.28・37, PL.18)

土坑・ピットについては、Tab.6-5「土坑・ピット計測表」(p.24)を参照のこと。

なお、D-4の坏1点を図示した。

## 4 グリッド等出土遺物 (Fig.37・40, PL.18)

遺物は、繩文土器43点・土師器340点・須恵器183点・瓦60点・鉄製品1点・石類7点・灰釉陶器7点・陶器17点・埴輪3点が出土した。そのうち、坏1点・甕1点・埴輪1点・瓦1点を図示した。

### 〈5 トレンチ〉

Tab.4-1 穴穴住居跡一覧表／5 トレンチ

| 遺構名 | 位 置                | 規模 (m)    |           | 壁厚高<br>(cm)<br>東西 : 南北 | 面積<br>(m <sup>2</sup> ) | 主軸方向    | 伊・電     |          | 周<br>溝 | 主な出土遺物  |     |        |
|-----|--------------------|-----------|-----------|------------------------|-------------------------|---------|---------|----------|--------|---------|-----|--------|
|     |                    | 横幅<br>(m) | 縦幅<br>(m) |                        |                         |         | 位 置     | 構築材      |        | 土師器     | 頭蓋器 | その他    |
| H-1 | X171・172, Y143・144 | [3.78]    | [3.82]    | 54.5                   | [13.6]                  | N-72-E  | 東壁中央南   | 粘土       | —      | 环・甕     | —   | —      |
| H-2 | X171・172, Y143・144 | [2.73]    | [3.27]    | 53.5                   | [8.49]                  | N-97-E  | 東壁南     | —        | —      | —       | —   | 臼玉     |
| H-3 | X171・172, Y142・143 | (3.99)    | (4.55)    | 49.5                   | (11.58)                 | N-106-E | —       | —        | —      | —       | —   | —      |
| H-4 | X170・171, Y143・144 | (2.75)    | (3.90)    | 51.0                   | (8.52)                  | N-104-E | 東壁中央    | 粘土・川原石   | —      | 环・羽墨    | 刀子  | —      |
| H-5 | X171・172, Y144・145 | (2.40)    | (3.92)    | 35.0                   | (7.30)                  | N-100-E | —       | —        | —      | —       | —   | 臼白模・羽墨 |
| H-6 | X170・171, Y143・144 | 2.78      | 3.82      | 54.0                   | 9.39                    | N-98-E  | 東壁中央やや南 | 粘土・石・凝灰岩 | —      | 环・高台模・甕 | 筋鉛筆 | —      |
| H-7 | X170, Y144・145     | (9.90)    | (3.65)    | 76.0                   | (2.66)                  | N-83-E  | 東壁中央南   | 粘土       | —      | —       | —   | —      |
| H-8 | X170, Y145         | (0.39)    | (1.20)    | 55.0                   | (0.45)                  | N-91-E  | —       | —        | —      | —       | —   | —      |

Tab.5-1 溝跡計測表／5 トレンチ

| 遺構名 | 位 置  | 長さ (m) | 深さ (cm) |      | 上幅 (cm) |     | 下幅 (cm) |  | 主軸方向   | 断面形  | 備 考 (時 期) |
|-----|--|--------|---------|------|---------|-----|---------|--|--------|------|-----------|
|     |  |        | 最大      | 最小   | 最大      | 最小  | 最大      | 最小   |        |      |           |
| W-1 | X171・172, Y145・146                           | 3.25   | 27.5    | 21.0 | 190     | 139 | 124     | 58   | N-89-W | U字形  | 中世以降      |
| W-2 | X171・172, Y148                               | 4.34   | 16.5    | 2.5  | 68      | 57  | 50      | 40   | N-88-W | U字形  | 中世以降      |
| W-3 | X171・172, Y147~151<br>(9.3 (南北))<br>5.1 (東西) | 36.6   | 21.0    | 112  | 52      | 93  | 34      | 南北方向は北からN-4-Eで<br>4.75m進み、そこからN-32-E<br>で0.95m進み、さらにN-5-W<br>で4.6m進み南側にあたる。<br>東西方向はN-82-E | U字形    | 中世以降 |           |
| W-4 | X171・172, Y149                               | 2.35   | 29.5    | 16.0 | 53      | 33  | 40      | 16   | N-82-E | U字形  | 中世以降      |
| W-5 | X171・172, Y149・150                           | 3.99   | 30.0    | 21.0 | 73      | 64  | 54      | 43   | N-13-W | U字形  | 中世以降      |
| W-6 | X171, Y147・148                               | 4.15   | 29.0    | 15.5 | 92      | 82  | 80      | 65   | N-66-W | U字形  | 中世以降      |
| W-7 | X171, Y149                                   | 2.50   | 38.0    | 29.5 | 87      | 77  | 64      | 52   | N-86-W | U字形  | 中世以降      |
| W-8 | X171, Y149                                   | 2.46   | 38.0    | 34.5 | 106     | 96  | 94      | 81   | N-86-E | U字形  | 中世以降      |

Tab.6-1 土坑・ビット計測表／5 トレンチ

| 遺構名 | 位 置            | 長軸(cm) | 短軸(cm) | 別軸(cm) | 深さ(cm) | 形 状 | 備 考 (遺物) |
|-----|----------------|--------|--------|--------|--------|-----|----------|
| D-1 | X120・171, Y144 | 85     | 73     | 21.5   | —      | 椭円形 | 土 3・頭 2  |
| D-2 | X171, Y145     | 93     | 48     | 11.0   | —      | 椭円形 | —        |
| D-3 | X171, Y143     | 113    | 93     | 66.0   | —      | 椭円形 | —        |
| P-1 | X171, Y148     | 38     | 38     | 29.0   | —      | 円 形 | —        |
| P-2 | X171, Y148     | 36     | 33     | 27.0   | —      | 円 形 | —        |
| P-3 | X171, Y150     | 67     | 56     | 61.5   | —      | 椭円形 | —        |

\*圓・圓土器、土・土器、第一頭蓋器（かわらけを含む）、灰・灰陶陶器、鐵・鉄製品、石・石器（黒曜石を含む）

### 〈6 トレンチ〉

Tab.4-2 穴穴住居跡一覧表／6 トレンチ

| 遺構名 | 位 置                | 規模 (m)    |           | 壁厚高<br>(cm)<br>東西 : 南北 | 面積<br>(m <sup>2</sup> ) | 主軸方向    | 伊・電     |        | 周<br>溝 | 主な出土遺物  |     |      |
|-----|--------------------|-----------|-----------|------------------------|-------------------------|---------|---------|--------|--------|---------|-----|------|
|     |                    | 横幅<br>(m) | 縦幅<br>(m) |                        |                         |         | 位 置     | 構築材    |        | 土師器     | 頭蓋器 | その他  |
| H-1 | X155, Y156・157     | (2.00)    | (4.58)    | 35.0                   | (6.39)                  | N-108-E | 東壁中央南   | 粘土・瓦・石 | —      | —       | —   | かわらけ |
| H-2 | X155・156, Y157・158 | 4.24      | 4.55      | 39.5                   | 17.37                   | N-119-E | 東壁中央やや南 | 粘土     | —      | 甕・環・甕   | —   | —    |
| H-3 | X155, Y158・159     | (3.30)    | (4.17)    | 31.5                   | (9.63)                  | N-114-E | —       | —      | —      | —       | —   | かわらけ |
| H-4 | X155・156, Y154・155 | (3.50)    | (3.62)    | 50.0                   | (9.09)                  | N-106-E | 東壁      | 粘土・瓦・石 | —      | —       | —   | 土器   |
| H-5 | X155, Y154         | (1.32)    | (2.08)    | 23.0                   | (2.38)                  | N-97-E  | —       | —      | —      | —       | —   | 环    |
| H-6 | X155・156, Y159~161 | 4.00      | 5.32      | 39.0                   | 29.63                   | N-109-E | 東壁南隣    | 粘土・凝灰岩 | —      | 环・高台模・甕 | 鉄器  | —    |
| H-7 | 欠番                 |           |           |                        |                         |         |         |        |        |         |     | —    |
| H-8 | X155, Y158・159     | (1.20)    | (2.56)    | 51.5                   | (2.16)                  | N-108-E | 東壁      | —      | —      | —       | —   | —    |

Tab.6-2 土坑・ピット計測表／6トレンチ

| 遺構名 | 位 置            | 長幅(cm) | 別幅(cm) | 深さ(cm) | 形 状 | 備 考(遺物) |
|-----|----------------|--------|--------|--------|-----|---------|
| D-1 | X155, Y155・156 | 100    | 62     | 29.0   | 楕円形 | 土10・須1  |
| D-2 | X155, Y156     | 150    | 60     | 27.0   | 楕円形 | 土15・須2  |
| D-3 | X155・156, Y155 | 119    | 102    | 24.0   | 円形  |         |
| D-4 | X155, Y159     | 140    | (20)   | 37.5   | 半円形 |         |
| D-5 | X155, Y159     | 108    | (25)   | 29.0   | 半円形 |         |
| D-6 | X155・156, Y156 | 233    | 167    | 46.0   | 楕円形 | 土11・瓦3  |
| D-7 | X156, Y160     | 126    | (122)  | 59.0   | 円形  | 土17・須9  |
| P-1 | X155, Y154     | 50     | 46     | 62.0   | 円形  |         |
| P-2 | X156, Y154     | 65     | 36     | 14.0   | 楕円形 |         |
| P-3 | X155, Y156     | 60     | 54     | 58.0   | 円形  |         |
| P-4 | X155, Y157     | 66     | 56     | 37.0   | 楕円形 |         |

※圓…圓土器、土…土壌層、鉢…鉢形器(かわらけを含む)、灰…灰陶陶器、鐵…鉄製品、石…石類(黒曜石を含む)

&lt;7トレンチ&gt;

Tab.4-3 積穴住跡一覧表／7トレンチ

| 遺構名 | 位 置                | 規模 (m) |        |                      | 主軸方向    | 伊・電     |     | 周溝 | 主な出土遺物 |     |     |
|-----|--------------------|--------|--------|----------------------|---------|---------|-----|----|--------|-----|-----|
|     |                    | 東西     | 南北     | 面積 (m <sup>2</sup> ) |         | 位置      | 構築材 |    | 土師器    | 須恵器 | その他 |
| H-1 | X109・110, Y164・165 | (6.87) | (3.37) | 104.5                | (17.94) | N-94-E  | —   | —  | ○      | 坪・裏 | 壁   |
| H-2 |                    |        |        |                      |         | 穴 番     |     |    |        |     |     |
| H-3 | X114・115, Y163・164 | (3.25) | (2.61) | 72.0                 | (6.86)  | N-98-E  | 東壁  | 粘土 | ○      | 坪   | 蓋   |
| H-4 | X112・114, Y164・165 | (3.72) | (3.10) | 54.5                 | (9.10)  | N-102-E | —   | —  | ○      | 坪   | —   |
| T-1 | X125・126, Y164・165 | (3.70) | (0.74) | 34.5                 | (3.71)  | N-79-E  | —   | —  | —      | —   | —   |

Tab.5-3 溝跡計測表／7トレンチ

| 遺構名 | 位 置                | 長さ (m)                 | 深さ (cm) |      | 上幅 (cm) |     | 下幅 (cm) |    | 主軸方位                      | 断面形 | 備 考 (時期)         |
|-----|--------------------|------------------------|---------|------|---------|-----|---------|----|---------------------------|-----|------------------|
|     |                    |                        | 最大      | 最小   | 最大      | 最小  | 最大      | 最小 |                           |     |                  |
| W-1 | X119・120, Y163-165 | 5.48                   | 24.5    | 17.5 | 120     | 90  | 68      | 46 | N-0-W                     | U字形 | 中世以降             |
| W-2 | X117, Y163-165     | 5.28                   | 17.5    | 11.5 | 86      | 58  | 53      | 38 | N-4-W                     | U字形 | 中世以降<br>(底部硬化面有) |
| W-3 | X115・116, Y163-165 | 5.29                   | 29.5    | 11.5 | 149     | 117 | 87      | 52 | N-0-W                     | U字形 | 古 代              |
| W-4 | X112, Y163-165     | 5.23                   | 5.5     | 2.5  | 46      | 34  | 31      | 18 | N-0-W                     | U字形 | 古 代              |
| W-5 | X114・115, Y163-165 | 5.39                   | 17.5    | 7.5  | 78      | 51  | 60      | 29 | N-12-E                    | U字形 | 古 代              |
| W-6 | X106, Y163-165     | 4.37                   | 22.5    | 10.0 | 136     | 130 | 106     | 94 | N-15-E                    | U字形 | 古 代              |
| W-7 | X118・119, Y163-165 | 5.38 (東北)<br>4.08 (東西) | 11.5    | 1.5  | 60      | 47  | 46      | 32 | N-2-W (東北)<br>N-87-W (東西) | U字形 | 古 代<br>(上部硬化面)   |
| W-8 | X124, Y164-165     | 2.82                   | 10.5    | 5.0  | 48      | 30  | 26      | 18 | N-1-W                     | U字形 | 中世以降             |

Tab.6-3 土坑・土坑墓・ピット計測表／7トレンチ

| 遺構名  | 位 置                | 長幅(cm) | 別幅(cm) | 深さ(cm) | 形 状 | 備 考(遺物)     |
|------|--------------------|--------|--------|--------|-----|-------------|
| D-1  | X109, Y164         | 100    | 90     | 19.5   | 円形  | 須2          |
| D-2  | X114・115, Y165     | (90)   | 73     | 35.0   | 楕円形 |             |
| D-3  | X105, Y163・164     | 110    | (48)   | 61.0   | 半円形 | 鉄1          |
| D-4  | X118, Y164・165     | 114    | 67     | 46.5   | 楕円形 |             |
| D-5  | X118, Y164         | 107    | 98     | 38.5   | 円形  |             |
| D-6  | X114, Y165         | 100    | (57)   | 43.0   | 半円形 |             |
| D-7  | X114, Y165         | (110)  | (75)   | 44.5   | 不整形 | 土12・須2      |
| DB-1 | X111, Y164         | 163    | 89     | 20.5   | 楕円形 | 土7・須1       |
| DB-2 | X123, Y163・164     | 256    | 121    | 50.0   | 楕円形 | 須2・土5・須4・灰3 |
| DB-3 | X122・123, Y164・165 | 259    | 67     | 57.0   | 楕円形 | 須1・土8・須12   |

| 遺構名 | 位 置        | 長軸(cm) | 短軸(cm) | 深さ(cm) | 形 状 | 備 考(遺物) |
|-----|------------|--------|--------|--------|-----|---------|
| P-1 | X113, Y164 | 60     | 55     | 28     | 円形  |         |
| P-2 | X112, Y164 | 76     | 63     | 27.5   | 椭円形 | 土3・須2   |
| P-3 | X111, Y164 | 72     | 56     | 12.5   | 椭円形 |         |
| P-4 | X111, Y164 | 54     | 44     | 20.0   | 椭円形 |         |

\*調一縄文土器、土・土器器、須一頭壺器(かわらけを含む)、灰・灰釉陶器、鉄・鉄製品、石・石器(黒曜石を含む)

#### 〈8 トレンチ〉

Tab.4-4 積穴住居跡一覧表／8トレンチ

| 遺構名 | 位 置              | 規模(m)  |        | 壁厚高<br>(cm) | 面積<br>(m <sup>2</sup> ) | 主軸方向    | 伊・電     |      | 周<br>溝 | 主な出土遺物   |     |     |
|-----|------------------|--------|--------|-------------|-------------------------|---------|---------|------|--------|----------|-----|-----|
|     |                  | 東西     | 南北     |             |                         |         | 位置      | 横梁材  |        | 土器器      | 頭壺器 | その他 |
| H-1 | X94・95, Y177・178 | (1.30) | (4.32) | 40.5        | (4.63)                  | N-84°-E | —       | —    | —      | —        | —   | —   |
| H-2 | X94, Y178・179    | (9.61) | (4.73) | 38.5        | (3.18)                  | N-79°-E | 東壁中央南   | 粘土   | —      | 高台陶・羽量   | 瓦   |     |
| H-3 | X93・94, Y176・177 | (2.32) | (4.18) | 37.0        | (7.83)                  | N-87°-E | 東壁中央南   | 粘土・瓦 | —      | 壁・高台陶・羽量 | 瓦   |     |
| H-4 | X95, Y188・182    | (7.23) | (3.54) | 46.5        | (5.70)                  | N-98°-E | —       | —    | —      | —        | —   | —   |
| H-5 | X94・95, Y185     | (1.02) | (2.34) | 38.0        | (1.98)                  | N-85°-E | 東壁      | 粘土   | —      | 壁・壁      | —   |     |
| H-6 | X94, Y178・179    | (1.67) | (3.22) | 41.0        | (4.53)                  | N-89°-E | 東壁中央やや南 | 粘土   | —      | 壁・高台陶    | 鉄製品 |     |
| T-1 | X95・96, Y176     | (2.82) | (1.11) | 34.0        | (2.51)                  | N-95°-E | —       | —    | —      | —        | —   | —   |
| T-2 | X94・95, Y175・176 | (3.68) | (4.56) | 74          | (9.78)                  | N-92°-E | —       | —    | —      | —        | —   | —   |

Tab.5-4 溝跡計測表／8トレンチ

| 遺構名 | 位 置              | 長さ(m)                | 深さ(cm) |      | 上幅(cm) |     | 下幅(cm) |     | 主軸方位    | 断面形 | 備 考(時 期) |
|-----|------------------|----------------------|--------|------|--------|-----|--------|-----|---------|-----|----------|
|     |                  |                      | 最大     | 最小   | 最大     | 最小  | 最大     | 最小  |         |     |          |
| W-1 | X95, Y182・183    | 0.91(北側)<br>3.32(南側) | 14.5   | 3.0  | 38     | 26  | 23     | 12  | N-7°-W  | U字形 | 古代       |
| W-2 | X94・96, Y183～185 | 7.99                 | 97.5   | 88.0 | 611    | 570 | 284    | 173 | N-76°-W | U字形 | 中世以降     |

Tab.6-4 土坑・ビット・戸井跡計測表／8トレンチ

| 遺構名  | 位 置           | 長軸(cm) | 短軸(cm) | 深さ(cm) | 形 状 | 備 考(遺物)  |
|------|---------------|--------|--------|--------|-----|----------|
| D-1  | X94, Y178     | 77     | 75     | 12.0   | 円形  |          |
| D-2  | X94, Y178・179 | 107    | 64     | 12.5   | 椭円形 | 土6       |
| D-3  | X94, Y177     | 70     | 69     | 22.0   | 円形  |          |
| D-4  | X94・95, Y177  | 74     | 74     | 15.0   | 方形  |          |
| D-5  | X94, Y179・180 | 90     | 28     | 9.0    | 椭円形 |          |
| D-6  | X94, Y174     | 160    | 142    | 25.0   | 円形  | 土3・須1・瓦1 |
| D-7  | X94, Y177     | 148    | 55     | 17.0   | 椭円形 | 土6・須3・石1 |
| D-8  | X93・94, Y177  | 81     | 52     | 22.5   | 半円形 | 土1・須2    |
| D-9  | X95, Y183     | 95     | 89     | 21.0   | 円形  | 須2       |
| D-10 | X95, Y182・183 | 102    | 58     | 12.5   | 椭円形 |          |
| D-11 | X95, Y180・181 | 251    | 127    | 58.0   | 半円形 | 土8・須3・石1 |
| P-1  | X94, Y177     | 34     | 30     | 30.5   | 円形  |          |
| P-2  | X94, Y176・177 | 32     | 28     | 35.5   | 円形  |          |
| P-3  | X94, Y178     | 31     | 25     | 23.5   | 椭円形 |          |
| P-4  | X94, Y178     | 35     | 25     | 26.0   | 椭円形 |          |
| P-5  | X94・95, Y178  | 27     | 19     | 18.5   | 椭円形 |          |
| P-6  | X94, Y179     | 27     | 22     | 14.0   | 椭円形 |          |
| P-7  | X94, Y178     | 26     | 29     | 12.5   | 椭円形 |          |
| P-8  | X94, Y179     | 32     | 24     | 22.5   | 椭円形 |          |
| P-9  | X94, Y178     | 29     | 25     | 19.5   | 円形  |          |
| P-10 | X94, Y178     | 23     | 23     | 23.5   | 円形  |          |

| 遺構名  | 位 置           | 長軸(cm) | 短軸(cm) | 深さ(cm) | 形 状 | 備 考(遺物) |
|------|---------------|--------|--------|--------|-----|---------|
| P-11 | X93, Y177     | 31     | 31     | 19.5   | 円形  |         |
| P-12 | X94, Y177     | 53     | 45     | 29.5   | 楕円形 |         |
| P-13 | X95, Y182・183 | 68     | 60     | 41.0   | 楕円形 |         |
| P-14 | X94, Y183     | 41     | 41     | 48.5   | 円形  |         |
| P-15 | X95, Y183     | 51     | 42     | 45.0   | 不整形 |         |
| P-16 | X94, Y183     | 46     | 42     | 37.0   | 円形  |         |
| P-17 | X95, Y183     | 53     | 50     | 49.5   | 円形  | 土3      |
| P-18 | X95, Y183     | 50     | 42     | 50.0   | 楕円形 |         |
| P-19 | X95, Y183     | 56     | 37     | 35.5   | 楕円形 |         |
| P-20 | X94, Y182・183 | 88     | 50     | 50.5   | 楕円形 | 土6      |
| P-21 | X94, Y181・182 | 55     | 43     | 41.5   | 楕円形 | 土4      |
| P-22 | X94, Y181     | 49     | 44     | 40.5   | 円形  |         |
| P-23 | X94, Y181     | 52     | 46     | 33.0   | 円形  |         |
| P-24 | X94, Y182     | 80     | 50     | 41.0   | 楕円形 | 土7      |
| I-1  | X96, Y176     | 87     | 83     | —      | 円形  | 土5・鉄1   |

\*圓…圓文土器、土…土師器、須…須恵器（かわらけを含む）、灰…灰陶陶器、鉄…鉄製品、石…石頬（黒曜石を含む）

〈9トレンチ〉

Tab.4-5 壁穴住居跡一覧表／9トレンチ

| 遺構名 | 位 置              | 規模 (m) |        | 壁高<br>(cm) | 面積<br>(m <sup>2</sup> ) | 主軸方向    | 炉・竈   |        | 周<br>溝 | 主な出土遺物 |          |     |
|-----|------------------|--------|--------|------------|-------------------------|---------|-------|--------|--------|--------|----------|-----|
|     |                  | 東西     | 南北     |            |                         |         | 位置    | 構築材    |        | 土師器    | 須恵器      | その他 |
| H-1 | X33～35, Y150・151 | (5.15) | (4.24) | 68         | (16.29)                 | N-75°-E | 東壁    | 粘土・凝灰岩 | —      | 灰・灰    | 灰・高环・瓶・灰 | —   |
| H-2 | X34・35, Y152     | (3.60) | (2.48) | 28.5       | (5.51)                  | N-70°-E | —     | —      | —      | —      | —        | —   |
| H-3 | X35, Y152        | (1.30) | (1.80) | 28.5       | (1.85)                  | N-88°-E | —     | —      | —      | —      | —        | —   |
| H-4 | X32・33, Y152     | (3.50) | (1.57) | 59.5       | (3.72)                  | N-76°-E | —     | —      | —      | —      | —        | —   |
| H-5 | X33・34, Y151・152 | 2.45   | 2.70   | 34.5       | 5.88                    | N-73°-E | 東壁中央南 | 粘土     | —      | 灰      | 灰・高台輪    | —   |

Tab.5-5 溝跡調査表／9トレンチ

| 遺構名 | 位 置              | 長さ (m) |       | 深さ (cm) | 上幅 (cm) |       | 下幅 (cm) |       | 主軸方位   | 断面形 | 備 考 (時 期) |
|-----|------------------|--------|-------|---------|---------|-------|---------|-------|--------|-----|-----------|
|     |                  | 最大     | 最小    |         | 最大      | 最小    | 最大      | 最小    |        |     |           |
| W-1 | X31・32, Y151・152 | 7.41   | 116.5 | 99.0    | (450)   | (404) | (204)   | 172   | N-4°-W | 逆台形 | 中世以降      |
| W-2 | X36, Y151・152    | 7.80   | 32.0  | 20.0    | 63      | 43    | 40      | 27    | N-1°-W | U字形 | 中世以降      |
| W-3 | X35・36, Y151・152 | 7.80   | 24.0  | 7.0     | (320)   | (274) | (304)   | (253) | N-2°-W | 逆台形 | 古 代       |
| W-4 | X36, Y152        | 3.68   | 56.5  | 46.5    | 73      | 54    | 38      | 18    | N-2°-W | U字形 | 中世以降      |

Tab.6-5 土坑・ピット計画表／9トレンチ

| 遺構名 | 位 置           | 長軸(cm) | 短軸(cm) | 深さ(cm) | 形 状 | 備 考(遺物)          |
|-----|---------------|--------|--------|--------|-----|------------------|
| D-1 | X35, Y151・152 | 237    | 170    | 54.5   | 楕円形 | 圓6・土29・須11・瓦1・石1 |
| D-2 | X35, Y151     | 232    | 168    | 58.5   | 楕円形 | 圓3・土3・須7         |
| D-3 | X35・36, Y151  | (214)  | (46)   | 52.0   | 不整形 |                  |
| D-4 | X36, Y151     | (96)   | (58)   | 52.0   | 半円形 | 土9               |
| D-5 | X35, Y151     | 130    | (123)  | 38.0   | 円形  |                  |
| P-1 | X26, Y151     | 73     | (40)   | 19.5   | 半円形 |                  |

\*圓…圓文土器、土…土師器、須…須恵器（かわらけを含む）、灰…灰陶陶器、鉄…鉄製品、石…石頬（黒曜石を含む）

Tab. 7-1 奈良・平安時代出土土器観察表／5 トレンチ

| 番号 | 通巻番号 | 層位                  | 器種   | ①D1径<br>②器高        | ③胎土焼成<br>④色調⑤存復度         | 器種の特徴・整形・調整技術   | 登録番号             | 備考       |
|----|------|---------------------|------|--------------------|--------------------------|---|------------------|----------|
| 1  | H-1  | 埋土                  | 环土師器 | ①(13.2)<br>②3.8    | ③にいよい色4/3/5              | 口縁部：短く内側、内・外面横擦で。底部：浅い丸底、内面擦で、外面部削り。                                      | 45ほか             |          |
| 2  | H-1  | 床直                  | 環土師器 | ①(15.0)<br>②(14.7) | ③細粒②良好<br>④にいよい色4/破片     | 口縁部：外傾、内・外面横擦で。肩部：下半を欠損。やや膨らみ中位にV字とは逆型で器軸大径。内面擦で、外面部斜め削り。                 | 10               |          |
| 3  | H-3  | 埋土                  | 环土窓器 | ①(12.1)<br>②4.6    | ③灰白色3/3/4                | 椭圆形、口縁・体部：外傾から口縁端部やや外反、内・外面擦で。底部：径5.8cmの平底、内面擦で、外面部斜め削り。                  | H-2-2            | 焼成焙燒成    |
| 4  | H-3  | 高台輪<br>床直           | 环土窓器 | ①(12.4)<br>②4.9    | ③細粒②良好<br>④灰色4/完形        | 椭圆形。口縁・体部：外傾から口縁端部やや外反、内・外面擦で。底部：内面擦で、外面部斜め削り後付け高台。                       | H-2-1            | いぶし焼成    |
| 5  | H-3  | 高台輪<br>床直           | 环土窓器 | ①(12.0)<br>②5.1    | ③細粒②良好<br>④灰白色4/4/5      | 椭圆形。口縁・体部：外傾から口縁端部やや外反、内・外面擦で。底部：内面擦で、外面部斜め削り後付け高台。                       | 5ほか              |          |
| 6  | H-3  | 土並                  | 环土窓器 | ①(26.7)<br>②(15.7) | ③細粒②良好<br>④褐色4/破片        | 椭圆形。全体的に器内が厚い。口縁部：直立気味から短く外反、内・外面擦で。底部：下部を欠損。内面擦で、外面部削り。                  | 6ほか              |          |
| 7  | H-4  | 床直                  | 环土窓器 | ①(12.4)<br>②3.9    | ③細粒②良好<br>④明黄色4/はぼ完形     | 椭圆形。口縁・体部：外傾から口縁端部外反、内・外面擦で。底部：径5.5cmの平底、内面擦で、外面部斜め削り。                    | 28ほか             |          |
| 8  | H-4  | 环<br>床直             | 环土窓器 | ①(12.6)<br>②3.9    | ③細粒②良好<br>④灰黄色4/はぼ完形     | 椭圆形。全体的に器内が厚い。口縁・体部：外傾、内・外面擦で。底部：内面擦で、外面部斜め削り。底部：径6.0cmの平底、内面擦で、外面部斜め削り。  | 10<br>体部外面部<br>擦 |          |
| 9  | H-4  | 埋土                  | 环土窓器 | ①(12.6)<br>②4.1    | ③細粒②良好<br>④にいよい色4/完形     | 椭圆形。全体的に器内が厚い。口縁・体部：外傾、内・外面擦で。底部：内面擦で、外面部斜め削り。底部：径7.6cmの平底、内面擦で、外面部手持ち削り。 | 60               |          |
| 10 | H-4  | 床直                  | 环土窓器 | ①(11.8)<br>②3.5    | ③細粒②良好<br>④淡黄色3/4        | 椭圆形。全体的に器内が厚い。口縁・体部：外傾、内・外面擦で。底部：内面擦で、外面部斜め削り。底部：径8.8cmの平底、内面擦で、外面部斜め削り。  | 30               |          |
| 11 | H-4  | 高台輪<br>床直           | 环土窓器 | ①(13.1)<br>②5.2    | ③細粒②良好<br>④灰黄色4/はぼ完形     | 椭圆形。口縁・体部：外傾から口縁端部外反、内・外面擦で。底部：内面擦で、外面部斜め削り後付け高台。                         | 11<br>体部外面部<br>擦 |          |
| 12 | H-4  | 高台輪<br>床直           | 环土窓器 | ①(14.4)<br>②5.3    | ③細粒②良好④オリエ<br>⑤灰黄色4/はぼ完形 | 椭圆形。口縁・体部：外傾から口縁端部やや外反、内・外面擦で。底部：内面擦で、外面部斜め削り後付け高台。                       | 20<br>いぶし焼成      |          |
| 13 | H-4  | 高台輪<br>床直           | 环土窓器 | ①(13.3)<br>②5.2    | ③中粒②良好<br>④灰黄色4/2        | 椭圆形。口縁・体部：外傾から口縁端部やや外反、内・外面擦で。  | 40               |          |
| 14 | H-4  | 高台輪<br>床直           | 环土窓器 | ①(12.6)<br>②5.1    | ③細粒②良好<br>④灰白色4/4        | 椭圆形。口縁・体部：外傾から口縁端部やや外反、内・外面擦で。底部：内面擦で、外面部斜め削り後付け高台。                       | 33               |          |
| 15 | H-4  | 羽金<br>電内            | 羽金   | ①(22.0)<br>②(24.7) | ③細粒②良好<br>④灰白色4/1/3      | 椭圆形。口縁部：内傾、内・外面擦で。跨部：断面三角形でやや上向きに付く。底部：内・外面擦で。外面上下斜め削り。底部：欠損。             | 51ほか             | 焼成焙燒成    |
| 16 | H-4  | 羽並<br>電内            | 羽    | ①(18.2)<br>②(24.1) | ③細粒②良好<br>④淡黄色4/1/3      | 椭圆形。口縁部：内傾、内・外面擦で。跨部：断面三角形でほぼ上向きに付く。底部：内・外面擦で。外面上下斜め削り。底部：欠損。             | 36ほか             | 焼成焙燒成    |
| 17 | H-4  | 羽<br>床直             | 羽    | ①(23.4)<br>②(25.4) | ③細粒②良好<br>④灰白色4/4        | 椭圆形。口縁部：内傾、内・外面擦で。跨部：断面三角形でやや上向きに付く。底部：内・外面擦で。外面上下斜め削り。底部：欠損。             | 29ほか             |          |
| 18 | H-5  | 縫<br>P <sub>3</sub> | 縫    | ①<br>②             | ③細粒②良好<br>④オリエ4/破片       | 内面模様か。  |                  |          |
| 19 | H-5  | 高台輪<br>床直           | 高台輪  | ①<br>②             | ③細粒②良好<br>④模様            | 椭圆形。高台輪の高台部を避にして転用。径5.0cm、高さ2.9cm、内面に漆付る。                                 | 22               | 転用       |
| 20 | H-5  | 羽<br>床直             | 羽    | ①(22.0)<br>②(22.6) | ③細粒②良好<br>④にいよい色4/破片     | 椭圆形。口縁部：やや内傾、内・外面擦で。跨部：断面三角形で木下に付く。底部：内・外面擦で。外面上斜め削り。底部：欠損。               | 17               |          |
| 21 | H-6  | 环<br>床直             | 环    | ①(10.5)<br>②4.3    | ③細粒②良好<br>④黒褐色4/はぼ完形     | 椭圆形。口縁・体部：外傾から口縁端部外反、内・外面擦で。底部：径5.0cmの平底、内面擦で、外面部斜め削り。                    | H-1-12           | 小型・いぶし焼成 |
| 22 | H-6  | 环<br>床直             | 环    | ①(10.5)<br>②4.3    | ③細粒②良好<br>④褐色4/完形        | 椭圆形。全体的に器内が厚い。口縁・体部：外傾、内・外面擦で。底部：内面擦で、外面部斜め削り。                            | 14               | 小型・焼     |
| 23 | H-6  | 高台輪<br>床直           | 高台輪  | ①(11.7)<br>②5.1    | ③細粒②良好④にいよい色4/4          | 椭圆形。全体的に器内が厚い。口縁・体部：外傾、内・外面擦で。底部：内面擦で、外面部斜め削り後付け高台。                       | 12               | 化・焙燒成    |
| 24 | H-6  | 高台輪<br>床直           | 高台輪  | ①(11.3)<br>②5.0    | ③細粒②良好<br>④にいよい色4/完形     | 椭圆形。口縁・体部：外傾、内・外面擦で。底部：内面擦で、外面部斜め削り後付け高台。                                 | 49               | 化・焙燒成・煤  |
| 25 | H-6  | 高台輪<br>床直           | 高台輪  | ①(12.2)<br>②4.8    | ③細粒②良好<br>④にいよい色4/3/4    | 椭圆形。口縁・体部：外傾、内・外面擦で。底部：内面擦で、外面部斜め削り後付け高台。                                 | 16ほか             |          |
| 26 | H-6  | 高台輪<br>床直           | 高台輪  | ①(15.4)<br>②7.2    | ③細粒②良好<br>④にいよい色4/4      | 椭圆形。全体的に器内が厚い。口縁・体部：外傾から口縁端部外反、内・外面擦で。底部：内面擦で、外面部斜め削り後付け高い高台を付す。          | 4                | 化・焙燒成・煤  |
| 27 | H-6  | 高台輪<br>床直           | 高台輪  | ①(14.6)<br>②6.7    | ③細粒②良好④にいよい色4/4          | 椭圆形。全体的に器内が厚い。口縁・体部：外傾、内・外面擦で。底部：内面擦で、外面部斜め削り後付け高い高台を付す。                  | 2                | 化・焙燒成・煤  |
| 28 | H-6  | 高台輪<br>床直           | 高台輪  | ①(15.8)<br>②6.7    | ③細粒②良好<br>④にいよい色4/3/4    | 椭圆形。全体的に器内が厚い。口縁・体部：外傾から口縁端部やや外反、内・外面擦で。底部：内面擦で、外面部斜め削り後付け高い高台を付す。        | 1                | 化・焙燒成    |
| 29 | H-6  | 床直                  | 軸    | ①(14.7)<br>②4.9    | ③細粒②良好<br>④灰白色4/3/5      | 椭圆形。釉薬は濁けがけ。口縁・体部：腰部がやや張り、内・外面擦で。底部：内・外面擦で。高台部：角形の高台。                     | H-1-4            |          |

| 番号 | 通巻番号 | 器種 | ①口径<br>②器高           | ①胎土焼成<br>③色調④遺存度       | 器種の特徴・整形・調整技術  | 登録番号         | 備考    |
|----|------|----|----------------------|------------------------|--|--------------|-------|
| 30 | H-6  | 羽釜 | ①(19.2)<br>床底<br>須恵器 | ②(22.5)<br>③にいよい黄色色②/5 | 施釉整形。口縁部：内側。内・外面擦で。跨部：断面三角形ではば水平に付く。胴部：内・外面擦で。外面下位斜め置削り。底部：欠組。 | 38ほか         | 焼化焰燒成 |
| 31 | H-6  | 瓶  | ①—<br>床底<br>須恵器      | ②(20.9)<br>③浅黄色④脚部     | 施釉整形。口縁部：欠損。胴部下位：上位に向かって大きく膨らむ。内面擦で、外面回転削り。脚部：水平方向に大きく外反。      | H-1 43<br>ほか | 僅     |

Tab. 8-1 鉄製品観察表／5トレンチ

| 番号 | 遺構・層位 | 器種  | 最大径    | 最大幅   | 最大厚   | 重さ   | 遺存度 | 登録番号 | 備考     |
|----|-------|-----|--------|-------|-------|------|-----|------|--------|
| 1  | H-4・埋 | 土刀子 | (12.0) | 1.5   | (0.6) | 18.0 | 1/2 | 8    | 両開き造。  |
| 2  | H-5・埋 | 土刀子 | (8.5)  | (1.2) | (0.4) | 8.0  | 破片  | 10   | 方開き造。  |
| 3  | H-6・埋 | 砧鉗車 | (21.4) | (1.4) | (1.0) | 28.0 | 4/5 | 39   | 彷彿部のみ。 |

Tab. 9-1 石製品観察表／5トレンチ

| 番号 | 遺構・層位 | 器種 | 最大長 | 最大幅 | 最大厚 | 重さ  | 石材 | 遺存度 | 登録番号 | 備考 |
|----|-------|----|-----|-----|-----|-----|----|-----|------|----|
| 1  | H-2・埋 | 臼玉 | 1.3 | 1.1 | 0.8 | 2.3 | 滑石 | 完形  |      |    |

Tab. 7-2 奈良・平安時代出土土器観察表／6トレンチ

| 番号 | 通巻番号     | 器種                    | ①口径<br>②器高               | ①胎土焼成<br>③色調④遺存度   | 器種の特徴・整形・調整技術 | 登録番号           | 備考 |
|----|----------|-----------------------|--------------------------|--|---------------|----------------|----|
| 1  | H-1・かわらけ | ① 8.0<br>床底<br>須恵器    | ② 1.7<br>③にいよい黄色色④完形     | 施釉整形。全体的に器内が厚い。口縁・体部：外傾。内・外面擦で。底部：径5.0cmの平底。内面擦で。外周回転削り。   | 18            | 輝              |    |
| 2  | H-1・かわらけ | ① 8.1<br>床底<br>須恵器    | ② 1.7<br>③にいよい黄色色④完形     | 施釉整形。全体的に器内が厚い。口縁・体部：外傾。内・外面擦で。底部：径5.2cmの平底。内面擦で。外周回転削り。   | 19            | 輝              |    |
| 3  | H-1・かわらけ | ① [8.2]<br>埋土<br>理土   | ② 1.7<br>③にいよい黄色色④1/3    | 施釉整形。全体的に器内が厚い。口縁・体部：外傾。内・外面擦で。底部：径5.2cmの平底。内面擦で。外周回転削り。   | 20ほか          |                |    |
| 4  | H-2・蓋    | ① 10.9<br>床底<br>須恵器   | ② 3.5<br>③灰黄色④3/4        | 施釉整形。口縁：宝珠彫み。天井部：縁から外側から口縁端部水引ほか平気味。端部：僅かな凹有。内面擦で、外周回転削削。  | 21            | 輝              |    |
| 5  | H-2・坏    | ① 10.1<br>床底<br>土師器   | ② 3.1<br>③褐色④完形          | 口縁部：短く内彎。内・外面横擦で。底部：丸底。内面擦で、外周回転削り。                        | 1             | 小型             |    |
| 6  | H-2・坏    | ① 9.8<br>床底<br>土師器    | ② 3.4<br>③褐色④完形          | 口縁部：短く直立。内・外面横擦で。底部：丸底。内面擦で、外周回転削り。                        | 133           | 小型             |    |
| 7  | H-2・坏    | ① 10.6<br>床底<br>土師器   | ② 3.0<br>③褐色④2/3         | 口縁部：短く直立。内・外面横擦で。底部：丸底。内面擦で、外周回転削り。                        | 123ほか         | 小型             |    |
| 8  | H-2・坏    | ① 10.7<br>床底<br>土師器   | ② 3.2<br>③褐色④2/3         | 口縁部：短く直立。内・外面横擦で。底部：丸底。内面擦で、外周回転削り。                        | 71            | 小型             |    |
| 9  | H-2・坏    | ① 10.7<br>床底<br>土師器   | ② 3.4<br>③褐色④1/2         | 口縁部：短く内汽氣味。内・外面横擦で。底部：丸底。内面擦で、外周回転削り。                      | 67ほか          | 小型             |    |
| 10 | H-2・要    | ① 23.2<br>床底<br>土師器   | ② [33.3]<br>③褐色④3/4      | 口縁部：器最大径。大きく外汽氣味。内・外面横擦で。底部：やや膨らみを持ち、内面擦で、外周回転削り。底部：欠損。    | 58ほか          |                |    |
| 11 | H-3・かわらけ | ① 10.2<br>床底<br>須恵器   | ② 2.0<br>③褐色灰色④2/3       | 施釉整形。口縁・体部：大きくな外傾。内・外面擦で。底部：径4.7cmの平底。内面擦で、内面回転削り。         | 3             | 輝              |    |
| 12 | H-3・かわらけ | ① 10.2<br>電内<br>須恵器   | ② 2.0<br>③にいよい褐色④1/2     | 施釉整形。口縁・体部：大きくな外傾。内・外面擦で。底部：径5.7cmの平底。内面擦で。外周回転削り。         |               |                |    |
| 13 | H-4・かわらけ | ① [8.7]<br>電内<br>須恵器  | ② 1.7<br>③褐色灰色④3/4       | 施釉整形。口縁・体部：外傾。内・外面擦で。底部：径5.0cmの平底。内面擦で、外周回転削り。             |               |                |    |
| 14 | H-4・かわらけ | ① [8.8]<br>電内<br>須恵器  | ② 1.8<br>③にいよい褐色④1/3     | 施釉整形。口縁・体部：外傾。内・外面擦で。底部：径4.7cmの平底。内面擦で、外周回転削り。             |               |                |    |
| 15 | H-4・土釜   | ① [28.8]<br>床底<br>須恵器 | ② 5.7<br>③にいよい褐色④破片      | 施釉整形。口縁部：直立から短く外反。内・外面擦で。底部：内面擦で、外周回転削り。                   | 1             |                |    |
| 16 | H-5・坏    | ① [4.1]<br>床底<br>須恵器  | ② 2.3<br>③オーバーカラーブル色④1/3 | 施釉整形。口縁・体部：外傾から口縁端部やや外反気味。内・外面擦で。底部：径2.5cmの平底。内面擦で、外周回転削り。 |               | ミニチュア・<br>黒色処理 |    |
| 17 | H-6・坏    | ① —<br>床底<br>須恵器      | ② (3.8)<br>③灰黄色④破片       | 施釉整形。口縁部：欠損。体部：やや膨らみ外傾。内・外面擦で。底部：内面擦で、回転削り切。               |               | 焼化焰燒成・輝        |    |
| 18 | H-6・高台碗  | ① 17.2<br>電内<br>須恵器   | ② 5.7<br>③にいよい褐色④2/3     | 施釉整形。全体的に器内が厚い。口縁・体部：大きくな外傾。内・外面擦で。底部：内面擦で、外周回転削り後高い高台を付す。 | 34ほか          | 焼化焰燒成          |    |
| 19 | H-6・高台碗  | ① 15.3<br>電内<br>須恵器   | ② 4.7<br>③にいよい褐色④2/3     | 施釉整形。口縁部：大きくな外傾から口縁端部外反。内・外面擦で。底部：内面擦で、外周回転削り後や高い高台を付す。    | 24ほか          | 焼化焰燒成          |    |
| 20 | H-6・要    | ① [23.4]<br>電内<br>須恵器 | ② [21.4]<br>③褐色④破片       | 施釉整形。口縁部：内縁膨らみから外傾。内・外面擦で。底部：下位を欠損。内面擦で、外周回転削り。            | 25ほか          | 焼化焰燒成          |    |

| 番号 | 通巻番号<br>部位   | 器種         | ①口径<br>②断面高      | ①胎土焼成<br>③色調④遺存度    | 器種の特徴・整形・調整技術  | 登録番号 | 備考   |
|----|--------------|------------|------------------|---------------------|--|------|------|
| 21 | D-1          | 环          | ① 10.0<br>② 3.2  | ①細粒②良好<br>③黄灰色④完形   | 輪轂整形。口縁・体部：外傾、内・外面横擦。底部：径5.5cmの平底、内面削で、外周回転系切り。        |      |      |
| 22 | X156<br>Y157 | 高台輪<br>羽惠州 | ① —<br>② —       | ①細粒②良好<br>③明赤褐色④2/3 | 輪轂焼成の高台輪を埠場に転用。内面に銅厚付着。                                |      | 転用埠場 |
| 23 | X156<br>Y157 | 高台輪<br>灰 軸 | ①(15.9)<br>② 5.3 | ①細粒②良好<br>③灰褐色④1/2  | 輪轂整形。釉薬は濁けがけ。口縁・体部：腰部がやや張り、内・外面無擦。底部：内・外面削で。高台部：角形の高台。 |      |      |
| 24 | 表探           | 蓋          | ①(11.6)<br>② 2.0 | ①細粒②良好<br>③褐色④1/2   | 輪轂整形。輪轂：無。天蓋：水平から緩やかに外傾。口縁端部重下。端部：返り無。内面削で、外周回転系切り。    |      |      |

Tab.8-2 鉄器・鉄製品観察表／6トレンド

| 番号 | 道構・部位   | 器種 | 最大長    | 最大幅 | 最大厚 | 重さ   | 遺存度  | 登録番号 | 備考            |
|----|---------|----|--------|-----|-----|------|------|------|---------------|
| 1  | H-6・床 直 | 刀子 | (18.6) | 1.8 | 0.4 | 32.2 | 4/5  | 169  | 両開直造。         |
| 2  | H-6・床 直 | 鉄織 | 15.4   | 1.5 | 0.5 | 18.4 | ほぼ完形 | 7・23 | 長頭開闊被丸造長三角形式。 |

Tab.7-3 館林・平安時代出土土器観察表／7トレンド

| 番号 | 通巻番号<br>部位                | 器種  | ①口径<br>②断面高        | ①胎土焼成<br>③色調④遺存度     | 器種の特徴・整形・調整技術  | 登録番号 | 備考      |
|----|---------------------------|-----|--------------------|----------------------|--|------|---------|
| 1  | H-1<br>底直<br>土師器          | 环   | ① 10.8<br>② 3.4    | ①細粒②良好<br>③棕色④3/4    | 口縁部：短く直立。内・外面横擦で。底部：丸底。内面削で、外面削り。                            | 23   |         |
| 2  | H-1<br>底直<br>土師器          | 环   | ① 10.3<br>② 3.4    | ①細粒②良好<br>③棕色④完形     | 口縁部：短くや内傾。内・外面横擦で。底部：丸底。内面削で、外面削り。                           | 24   |         |
| 3  | H-1<br>底直<br>土師器          | 环   | ①(18.2)<br>② (4.9) | ①中粒②良好<br>③棕色④破片     | 口縁部：短くや内傾。内・外面横擦で。底部：下平を欠損。丸底。                               | 36ほか |         |
| 4  | H-1<br>底直<br>土師器          | 环   | ①(18.2)<br>② 7.5   | ①細粒②良好<br>③棕色④1/2    | 口縁部：短く直立。内・外面横擦で。底部：丸底。内面削で、外面削り。                            | 9ほか  |         |
| 5  | H-1<br>底直<br>羽惠州          | 环   | ① —<br>② 7.5       | ①細粒②良好<br>③灰褐色④1/2   | 輪轂整形。口縁部：欠損。体部：厚みのあるそろばん珠形、上位に器蓋なし。内面削で、外側上位削り・下位削り。底部：欠損。   | 32ほか |         |
| 6  | H-1<br>埋土<br>土師器          | 小型壺 | ①(10.6)<br>② (8.7) | ①細粒②良好<br>③棕色④破片     | 口縁部：やや内傾。内・外面横擦で。体部：中位が膨らみ器最大径。内面削で、外面削り。底部：欠損。              | 39ほか |         |
| 7  | H-1<br>底直<br>土師器          | 要   | ①(17.2)<br>② (9.4) | ①細粒②良好<br>③にいき棕色④破片  | 口縁部：外傾。内・外面横擦で。削部：下半を欠損。内面削で、外側上位削り。                         | 16   |         |
| 8  | H-3<br>底直<br>羽惠州          | 蓋   | ① 19.0<br>② 3.7    | ①細粒②良好<br>③灰褐色④ほぼ完形  | 輪轂整形。輪轂：扁平な宝珠形。天井部：内面削で、外面手持ち。端部：返り有。内・外面削り。                 | 28   |         |
| 9  | H-3<br>埋土<br>土師器          | 环   | ①(14.4)<br>② 4.4   | ①中粒②良好<br>③にいき棕色④1/2 | 口縁部：短くむすび内傾。内・外面横擦で。底部：丸底。内面削で、外側削り。                         | 29   |         |
| 10 | H-3<br>底直<br>土師器          | 环   | ① 13.3<br>② 5.5    | ①細粒②良好<br>③棕色④完形     | 口縁部：短くや内傾。内・外面横擦で。底部：丸底。内面削で、外側削り。                           | 37ほか |         |
| 11 | H-3<br>底直<br>土師器          | 环   | ①(17.8)<br>② 4.3   | ①細粒②良好<br>③棕色④1/2    | 口縁部：やや外傾。内・外面横擦で。底部：浅い丸底。内面削で、外側削り。                          | 40   |         |
| 12 | H-4<br>底直<br>土師器          | 环   | ①(15.2)<br>② (4.1) | ①中粒②良好<br>③にいき棕色④破片  | 口縁部：やや外傾。内・外面横擦で。底部：下位を欠損。浅い丸底。                              | 17   |         |
| 13 | D-1<br>底直<br>羽惠州          | 蓋   | ① 16.2<br>② 2.2    | ①細粒②良好<br>③灰褐色④ほぼ完形  | 輪轂整形。輪轂：無。天井部：内面削で、外面削り。端部：返り有。内・外面削で。                       | 1    | 灰付着     |
| 14 | D-1<br>底直<br>羽惠州          | 蓋   | ①(27.0)<br>② (2.1) | ①細粒②良好<br>③灰褐色④1/5   | 輪轂整形。輪轂：欠損。天井部：内面削で、外面削り。端部：返り有。内・外面削。                       | 2    |         |
| 15 | DB-1<br>高台輪<br>羽惠州        | 高台輪 | ① 9.8<br>② 4.5     | ①中粒②良好<br>③棕色④完形     | 輪轂整形。口縁・体部：外傾。内・外面削り。高台部：外側ながら圓高台。                           | 1    | 輪轂焼成    |
| 16 | DB-2<br>かわらけ<br>底直<br>灰 軸 | 环   | ① 9.7<br>② 3.2     | ①中粒②良好<br>③にいき黄色④完形  | 輪轂整形。輪轂：外傾から口縁端部外反。内・外面削で。底部：径4.7cmの平底。内面削で、外周回転系切り。         | 4    | 輪轂焼成    |
| 17 | DB-2<br>高台輪<br>羽惠州        | 高台輪 | ① 15.6<br>② 5.8    | ①細粒②良好<br>③棕色④ほぼ完形   | 輪轂整形。口縁外側より内面を黑色施釉。口縁・体部：腰部が張るやや深く、内面削き、外側上位削ぎ、下位削。底部：内・外面削。 | 3    | 内黒、輪轂焼成 |
| 18 | DB-2<br>高台輪<br>羽惠州        | 高台輪 | ① 15.7<br>② 6.9    | ①中粒②良好③にいき黄色④ほぼ完形    | 輪轂整形。口縁外側より内面を黑色施釉。口縁・体部：腰部が張るやや深く、内面削き、外側上位削ぎ、下位削。底部：内・外面削。 | 8    | 内黒、輪轂焼成 |
| 19 | DB-2<br>高台輪<br>灰 軸        | 高台輪 | ① 15.8<br>② 6.9    | ①細粒②良好<br>③灰褐色④完形    | 輪轂整形。輪轂は濁けがけ。口縁・体部：腰部が張るやや深い体部。口縁内側に施釉。内・外面削で。底部：内・外面削。      | 1    | 境溪山1号窯式 |
| 20 | DB-3<br>かわらけ<br>底直<br>灰 軸 | 环   | ① 10.0<br>② 2.8    | ①細粒②良好<br>③淡黄褐色④完形   | 輪轂整形。口縁・体部：外傾。内・外面削で。底部：径5.3cmの平底。内面削で、外周静止系切り。              |      |         |
| 21 | DB-3<br>かわらけ<br>底直        | 环   | ① 9.6<br>② 3.0     | ①細粒②良好<br>③明黄褐色④ほぼ完形 | 輪轂整形。口縁・体部：外傾。内・外面削で。底部：径4.9cmの平底。内面削で、外周回転系切り。              |      |         |

Tab.9-2 土製品観察表／7トレンチ

| 番号 | 遺構・層位     | 器種   | 最大長 | 最大幅 | 最大厚 | 重さ   | 石材  | 遺存度 | 登録番号 | 備考 |
|----|-----------|------|-----|-----|-----|------|-----|-----|------|----|
| 1  | X115・Y164 | 土製円盤 | 3.4 | 3.2 | 0.8 | 13.4 | 須恵器 | 不明  |      |    |

Tab.7-4 奈良・平安時代出土土器観察表／8トレンチ

| 番号 | 遺構号<br>層位      | 器種                | ①口径<br>②器高     | ③胎土焼成<br>④色彩4遺存度 | 器種の特徴・整形・調整技術  | 登録番号  | 備考    |
|----|----------------|-------------------|----------------|------------------|--|-------|-------|
| 1  | H-2 高台輪<br>埋土  | 羽釜<br>須恵器         | ①(15.1)<br>2.5 | ③灰褐色④板片          | 施釉整形。口縁・体部：外側。内・外面擦で。底部：内面擦で、外・面回転系切り後付け高台。                                  | 8・13  |       |
| 2  | H-2 羽釜<br>須恵器  | ②(11.8)<br>4.0    | ③灰褐色④1/3       |                  | 施釉整形。口縁部：内側。内・外面擦で。跨筋：断面三角形で上向き付く。制脚：下位を欠損。内・外面擦で。                           | 48ほか  | 施化粧焼成 |
| 3  | H-3 环<br>床直    | 羽釜<br>須恵器         | ①(12.8)<br>4.3 | ③灰褐色④1/3         | 施釉整形。口縁・体部：外側から口縁部外反。内・外面擦で。底部：内面擦で、外・面回転系切り。                                | 39    |       |
| 4  | H-3 环<br>床直    | 羽釜<br>須恵器         | ①(13.5)<br>4.3 | ③灰褐色④は完全形        | 施釉整形。口縁・体部：外側から口縁部外反。内・外面擦で。底部：内面擦で、外・面回転系切り。                                | 127   |       |
| 5  | H-3 环<br>床直    | 羽釜<br>須恵器         | ①(14.3)<br>4.8 | ③にいよい黄色④完形       | 施釉整形。口縁・体部：外側から口縁部外反やや肥厚。内・外面擦で。底部：径6.3cmの平底。内面擦で、外・面回転系切り。                  | 52    |       |
| 6  | H-3 高台輪<br>床直  | 羽釜<br>須恵器         | ①(13.5)<br>3.7 | ③灰褐色④は完全形        | 施釉整形。口縁・体部：腰やかに外側する浅い体部から口縁部強く外反。内・外面擦で。底部：内面擦で、外・面回転系切り後付け高台。               | 1・2   |       |
| 7  | H-3 瓢<br>土師器   | ①(18.4)<br>24.9   | ③にいよい赤褐色④1/2   |                  | 口縁部：直立から外反。内・外面横擦で、指圧痕有。胴部：上位に膨らみを持ち腰膨大。内面擦で、外・面回転系切り。                       | 107ほか |       |
| 8  | H-3 羽釜<br>須恵器  | ①(20.6)<br>27.0   | ③灰褐色④1/2       |                  | 施釉整形。底部：径6.1cmの平底。内面擦で、外・面上位擦で・下位窪削有。  | 110ほか | 施化粧焼成 |
| 9  | H-3 瓢<br>須恵器   | ①(17.6)<br>(16.0) | ③灰褐色④2/5       |                  | 施釉整形。完全に歪む。口縁部：内側。内・外面擦で。跨筋：断面三角形でほどん形でやや上向きに付く。制脚：下位を欠損。上位が膨らみ器最大膨大。内・外面擦で。 | 84ほか  | 施化粧焼成 |
| 10 | H-5 环<br>床直    | 羽釜<br>土師器         | ①(13.8)<br>3.8 | ③にいよい橙色④1/2      | 口縁部：直立。内・外面横擦で。底部：丸底。内面擦で、外・面回転系切り。  | 9ほか   |       |
| 11 | H-5 环<br>床直    | 羽釜<br>土師器         | ①(15.9)<br>4.1 | ③にいよい赤褐色④4/5     | 口縁部：やや外側。内・外面横擦で。底部：丸底。内面擦で、外・面回転系切り。  | 13ほか  |       |
| 12 | H-5 長財袋<br>須恵器 | ①(25.0)<br>27.0   | ③浅黄色④1/2       |                  | 石舟を多量に含む脂胎。口縁部：器最大径。外反。内・外面横擦で。底部：半を欠損。内面擦で、外・面回転系切り。                        | 43ほか  |       |
| 13 | H-6 环<br>床直    | 羽釜<br>須恵器         | ①(13.3)<br>4.1 | ③灰褐色④2/3         | 施釉整形。口縁・体部：外側。内・外面擦で。底部：径6.1cmの平底。   | 39    |       |
| 14 | H-6 高台輪<br>床直  | 羽釜<br>須恵器         | ①(14.1)<br>5.0 | ③灰褐色④1/4         | 施釉整形。口縁・体部：外側から口縁部外反。内・外面擦で。底部：内面擦で、外・面回転系切り後付け高台。                           | 34    |       |

Tab.8-3 鉄製品観察表／8トレンチ

| 番号 | 遺構・層位  | 器種  | 最大長   | 最大幅   | 最大厚   | 重さ   | 遺存度  | 登録番号 | 備考 |
|----|--------|-----|-------|-------|-------|------|------|------|----|
| 1  | H-3・床直 | 紡錘車 | 5.5   | —     | 0.3   | 23.2 | ほぼ完形 | 31-1 |    |
| 2  | H-3・床直 | 不 明 | (4.4) | (1.1) | (0.9) | 5.5  | 破片   | 31-2 |    |
| 3  | H-6・床直 | 不 明 | (4.1) | (1.8) | (0.7) | 6.2  | 破片   | 19   |    |

Tab.7-5 古墳・奈良・平安時代出土土器観察表／9トレンチ

| 番号 | 遺構号<br>層位            | 器種               | ①口径<br>②器高            | ③胎土焼成<br>④色彩4遺存度  | 器種の特徴・整形・調整技術  | 登録番号 | 備考 |
|----|----------------------|------------------|-----------------------|-------------------|--|------|----|
| 1  | H-1 环<br>床直          | 羽釜<br>土師器        | ①(10.0)<br>3.4        | ③細粒④良好<br>③褐色④1/2 | 口縁部：短くやや内凹。内・外面横擦で。底部：丸底。内面擦で、外・面回転系削り。  | 104  |    |
| 2  | H-1 环<br>埋土<br>土師器   | ①(13.8)<br>4.5   | ③にいよい赤褐色④破片           |                   | 口縁部：短くやや内凹。内・外面横擦で。底部：丸底。内面擦で、外・面回転系削り。  | 76ほか |    |
| 3  | H-1 环<br>貯糞穴<br>土師器  | ①(12.1)<br>4.8   | ③細粒④4/5               |                   | 口縁部：短く内凹。内・外面横擦で。底部：丸底。内面擦で、外・面回転系削り。  | 29   |    |
| 4  | H-1 瓢<br>床直<br>須恵器   | ①(21.0)<br>(3.7) | ③細粒④1/5               |                   | 施釉整形。胸み：欠損。天井部：内面擦で、外・面回転系削り。端部：裏り無。内・外面擦で。                                    | 73ほか |    |
| 5  | H-1 瓢<br>床直<br>須恵器   | ①(29.6)<br>4.4   | ③中粒④良好<br>③灰褐色④破片     |                   | 施釉整形。天井部：上平を欠損。内面擦で、外・面回転系削り。端部：裏り無。内・外面擦で。                                    | 103  |    |
| 6  | H-1 小型甕<br>床直<br>土師器 | ①(10.5)<br>9.6   | ③細粒④良好<br>③にいよい褐色④1/2 |                   | 口縁部：外側。内・外面横擦で。体部：中位が膨らみ器最大径。内・面回転系削り。底部：丸底。外・面回転系削り。                          | 74ほか |    |
| 7  | H-1 平 瓢<br>床直<br>須恵器 | ① —<br>(8.9)     | ③細粒④良好<br>③暗灰色④4/5    |                   | 施釉整形。口縁部：欠損。体部：扁平なそろん珠形。内面上位に土粒接合痕有。内面擦で、外面上位擦で・下位持ち笠削り。底部：径7.8cmの平底。外・面持ち笠削り。 | 29   |    |

| 番号 | 通巻番号<br>部位                | 器種 | ①口徑高<br>②断面        | ①胎土焼成<br>③色調④遺存度    | 器種の特徴・整形・調整技術  | 登録番号  | 備考  |
|----|---------------------------|----|--------------------|---------------------|--|-------|-----|
| 8  | H-1<br>床直<br>須恵器          | 甕  | ①(20.0)<br>②21.1   | ①細粒②良好<br>③灰褐色④1/6  | 瓶蓋整形。口部底：やや外側。内・外面擦で。体部：中位が膨らみ最大径。内面上位擦で・下位に青面状叩き目文。器底：浅い丸底。                           | 54ほか  |     |
| 9  | H-3<br>床直<br>土師器          | 壺  | ①(11.0)<br>② 3.8   | ①細粒②良好<br>③明赤褐色④1/5 | 口部底：やや外側。内・外面横擦で。交換点に棱有。底部：浅い丸底。内面擦で、外側削り。   | 22    |     |
| 10 | H-4<br>床直<br>土師器          | 壺  | ①(19.0)<br>② (7.4) | ①細粒②良好<br>③にせい橙色④破片 | 口部底：直立から弱く外反。内・外面横擦で。肩部：下半を欠損。内面擦で、外側削り。   | 11    |     |
| 11 | H-5<br>环<br>床直<br>須恵器     | 甕  | ①(13.0)<br>② 4.0   | ①細粒②良好<br>③灰褐色④完形   | 瓶蓋整形。口部・体部：外側から口部底や外反。内・外面擦で。底底：径5.7cmの平底。内面擦で、外側削り。                                   | 50    |     |
| 12 | H-5<br>高台輪<br>土師器         | 甕  | ①(14.6)<br>② 5.4   | ①中粒②良好<br>③橙色④完形    | 瓶蓋整形。口部・体部：腰部が張る体部から口部外反。内・外面擦で。底部：外側削で、外側削り糸切り後付け高台。                                  | 40    | 尻付着 |
| 13 | H-5<br>甕<br>床直<br>土師器     | 甕  | ①(19.6)<br>② (9.2) | ①細粒②良好<br>③橙色④破片    | 口部底：直立から弱く外反。内・外面横擦で。肩部：下半を欠損。内面擦で、外側削り。   | 17ほか  |     |
| 14 | D-4<br>环<br>床直<br>土師器     | 甕  | ① (11.0)<br>② 4.5  | ①細粒②良好<br>③橙色④破片    | 口部底：ほぼ直立。内・外面横擦。底部：浅い丸底。内面擦で、外側削り。   |       |     |
| 15 | X32<br>Y151<br>円筒<br>輪    | 輪  | ①(10.7)            | —                   | 外観：縱方向の削毛目後、断面台の突起點。内面：縱方向の削毛目後、縱方向の擦で。  |       |     |
| 16 | X32<br>Y151<br>环<br>須恵器   | 甕  | ① (9.9)<br>② 3.5   | ①細粒②良好<br>③灰褐色④1/6  | 瓶蓋整形。口部・体部：外傾。底部：径6.8cmの平底気味。内面擦で、外側手持ち足見り。  |       |     |
| 17 | X32<br>Y151<br>長頸瓶<br>須恵器 | 甕  | ① 8.0<br>②(21.7)   | ①細粒②良好<br>③灰褐色④3/4  | 瓶蓋整形。口部底：長い頸部から口部底に向かって広がるラッパ形。下方に2条の擦縫有。内・外面擦で。体部：肩部が長いそろばん珠形。内面擦で、外面上位擦で・下位削り。底部：欠損。 | O-1-1 |     |

Tab.10 瓦觀察表

| トレ<br>ンダ | 番号 | 通巻番号<br>部位     | 器種 | ①長さ<br>②断面        | ①胎土焼成<br>③色調④遺存度     | 器種の特徴・整形・調整技術   | 登録番号  | 備考          |
|----------|----|----------------|----|-------------------|----------------------|---|-------|-------------|
| 6        | 1  | H-1<br>床直      | 瓦  | ① (37.5)<br>② 1.3 | ①細粒②良好<br>③灰褐色④2/3   | 行基式。広端部上部幅19.9cm。黒色の微粒子がわずかに混じる細かい胎土。凹面：布目。凸面：叩きき後盤状工具によるか模様有。書き文字「大」。側面：面取り3回。 | カマド#1 | 図書き文字       |
|          | 2  | H-1<br>床直      | 瓦  | ①(16.0)<br>② 1.8  | ①中粒②良好<br>③灰褐色④破片    | 行基式。凹面：布目。凸面：模様削り、擦で。側面：面取り2回。  | 27    | 対立袖に使<br>用  |
|          | 3  | H-1<br>床直      | 瓦  | ①(16.5)<br>② 1.4  | ①中粒②良好<br>③灰褐色④破片    | 行基式。凹面：布目。凸面：擦で。側面：面取り3回。   | カマド   |             |
|          | 4  | H-1<br>床直      | 平瓦 | ①(16.3)<br>② 2.5  | ①中粒②良好<br>③灰褐色④破片    | 一枚作り。凹面：布目。凸面：擦で。書き文字「真(?)」。  | 22    | 図書き文字       |
|          | 5  | H-1<br>埋土<br>瓦 | 瓦  | ①(16.0)<br>② 2.9  | ①中粒②良好<br>③灰褐色④破片    | 軒瓦か。凹面：布目。押印文字「方」。凸面：擦で。側面：面取り2回。   | 24    | 押印文字        |
|          | 6  | H-4<br>床直      | 平瓦 | ①(24.0)<br>② 2.2  | ①中粒②良好<br>③にせい黄褐色④破片 | 一枚作り。凹面：布目。凸面：擦で。側面：面取り2回。  | カマド   |             |
|          | 7  | H-4<br>床直      | 平瓦 | ①(25.4)<br>② 2.3  | ①中粒②良好<br>③黄褐色④破片    | 一枚作り。凹面：布目。凸面：擦で。側面：面取り3回。  | カマド   | 粘土付着        |
|          | 8  | H-4<br>床直      | 平瓦 | ①(19.8)<br>② 1.8  | ①中粒②良好<br>③黄褐色④破片    | 一枚作り。凹面：布目。凸面：擦で。側面：面取り2回。  | 8     | 粘土付着        |
| 8        | 9  | H-2<br>床直      | 平瓦 | ① —<br>② 1.3      | ①細粒②良好<br>③灰褐色④破片    | 凹面：布目。凸面：削り・無地。図書き文字有。(3文字?)。   | 57    | 図書き文字       |
|          | 10 | H-3<br>床直      | 平瓦 | ①(21.6)<br>② 2.6  | ①中粒②良好<br>③灰褐色④破片    | 一枚作り。凹面：布目。凸面：擦で。側面：複数回の面取りにより、やや丸みを帯びる。  | 132   | 支脚として<br>使用 |
|          | 11 | H-3<br>床直      | 瓦  | ① (49.6)<br>② 2.1 | ①中粒②良好<br>③灰褐色④完形    | 行基式。広端部上部幅19.2cm、重量3,620g。凹面：布目。凸面：叩きき後削。側面：部分的に面取り3回。                          | 63・64 |             |
|          | 12 | H-3<br>床直      | 平瓦 | ① (18.0)<br>② 1.8 | ①中粒②良好<br>③灰褐色④破片    | 凹面：布目。凸面：擦で。側面：面取り1回。   | 38    |             |
|          | 9  | 表採             | 平瓦 | ① —<br>② 2.8      | ①中粒②良好<br>③明赤褐色④破片   | 凹面：布目。凸面：平行叩き。図書き文字有。   |       | 図書き文字       |

注) ①部位は、「床直」：床面より10cm以上の部位からの検出。「埋土」：床面より11cm以上の部位からの検出の2段階に分けた。窓内での検出については「窓内」と記載した。

②口径、最高の単位はcmであり、重きの単位はkgである。現存値を( )、復元値を[ ]で示した。

③胎土は、颗粒(0.9mm以下)、中粒(1.0~1.9mm以下)、粗粒(2.0mm以上)とし、特徴的な颗粒が入る場合に颗粒名等を記載した。

④焼成は、極良・良好・不良の3段階とした。

⑤色調は土器外面で観察し、色名は新飯塚標準土色紙(小山・竹原1976)によった。

⑥最大長・最大幅・最大厚の単位はcmであり、重きの単位はkgである。現存値を( )で示した。

## V ま と め

### 1 集落の広がりと変遷

本遺跡の調査区（5～9トレンチ）は、推定上野国府域（木津1998）の西側、東西約600m・南北200mの範囲に分散する。5～7トレンチは推定国府域北西部縁辺に位置し、8・9トレンチは、国府域西側線からそれぞれ100mおよび350mほど西に位置する。9トレンチは染谷川河岸に近い微高地上に立地する。各トレンチはいずれも調査面積が狭く、検出した遺構も限定的であるため、それぞれのトレンチ内だけで集落跡を概観することは難しい。そのためここでは、各トレンチ周辺の状況と照らし合わせながら、国府域西側の集落の広がりと変遷を概観してみたい。なお時代区分については、元総社蒼海遺跡群で從来行われているものを踏襲し、I期（～7世紀前半：律令期以前）、II期（7世紀後半～10世紀初頭：律令期）、III期（10世紀前半～：律令期以後）の3期に大別する。

#### （1）本遺跡で検出された竪穴住居跡

本調査で検出された竪穴住居跡の検出数を時期別に分類し、表1にまとめた。

表1 時期別竪穴住居跡検出数

| 時期区分<br>(調査面積)          | I期        |           | II期       |           |           |           | III期      |            | 不明         |   |   |
|-------------------------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|------------|------------|---|---|
|                         | 6世紀<br>後半 | 7世紀<br>前半 | 7世紀<br>後半 | 8世紀<br>前半 | 8世紀<br>後半 | 9世紀<br>前半 | 9世紀<br>後半 | 10世紀<br>前半 | 11世紀<br>後半 |   |   |
| 5トレ（172m <sup>2</sup> ） | —         | —         | —         | —         | 1         | —         | —         | 2          | 3          | — | 2 |
| 6トレ（176m <sup>2</sup> ） | —         | —         | —         | —         | 1         | —         | —         | —          | —          | 5 | 1 |
| 7トレ（396m <sup>2</sup> ） | —         | —         | —         | 2         | 1         | —         | —         | —          | —          | — | — |
| 8トレ（380m <sup>2</sup> ） | —         | —         | 1         | —         | —         | —         | 1         | 2          | —          | — | 2 |
| 9トレ（152m <sup>2</sup> ） | 1         | —         | —         | —         | 1         | —         | 2         | —          | —          | — | 1 |

個々のトレンチ内での時期的傾向としては、5・6トレンチでは、III期に属する住居跡が比較的密に検出された。7・8トレンチは、遺構自体が薄い調査区であったが、7トレンチではII期、8トレンチではII・III期の所産と思われる住居跡が検出された。9トレンチではII期のものとともにI期の住居跡が検出された。

以上のことから今回の調査に限っていえば、国府域西側の集落分布および変遷について、I期は国府域からやや離れた染谷川河岸近くに分布し、II期になると全体的に増加傾向となり、III期では国府域縁辺でも集落形成がなされたことが看取できる。ただ、これは非常に狭い限定された調査区の中での傾向であり、もう少し全体を見ていく必要がある。

#### （2）過年度調査の分析

近年、元総社蒼海地区では土地区画整理事業に伴う調査が継続的に行われておらず、新たな知見が蓄積されつつある。そこで、集落の分布や変遷について、過年度調査のデータと今回の調査のデータとを比較・対照し、国府域西側での様相を概観してみたい。

対象としたのは、小見遺跡（2000年）・小見II遺跡（2002年）・小見III遺跡（2002年）・草作V遺跡（2002年）・小見内IV遺跡（2002年）・小見V遺跡（2003年）・小見VI遺跡（2003年）・小見内VII遺跡A区（2003年）・小見VI遺跡（2005年）・小見VII遺跡（2005年）・小見内IX遺跡（2005年）・小見内X遺跡（2005年）の計12遺跡である（括弧内は報告書発刊年）。いずれも元総社蒼海地区土地区画整理事業に伴うもので、当調査團が主体となり調査を行ったものである。

分析方法は以下の通りである。

- 遺跡別・調査区別の堅穴住居跡の集計。
- 調査区面積の計測（200分の1全体図、プラニメーター使用）。
- 報告書の記述により堅穴住居跡の年代をI～III期に分類。
- 遺跡毎・調査区毎に時期別堅穴住居跡の密度（100m<sup>2</sup>あたり）を算出。
- 今回の調査区の密度（表2）を基準に4段階に区分。

→ 0軒：無、～1軒未満：薄い、1軒以上～2軒未満：やや濃い、2軒以上～：濃い。

表2 時期別堅穴住居跡の密度

| 調査区域   | 調査面積<br>(m <sup>2</sup> ) | 時期別検出数と密度(軒／100m <sup>2</sup> ) |      |     |      |      |      |
|--------|---------------------------|---------------------------------|------|-----|------|------|------|
|        |                           | I期                              |      | II期 |      | III期 |      |
|        |                           | 検出数                             | 密度   | 検出数 | 密度   | 検出数  | 密度   |
| 5トレンチ  | 172                       | 0                               | —    | 1   | 0.58 | 5    | 2.91 |
| 6トレンチ  | 176                       | 0                               | —    | 1   | 0.57 | 5    | 2.84 |
| 7トレンチ東 | 197                       | 0                               | —    | 0   | —    | 0    | —    |
| 7トレンチ西 | 205                       | 0                               | —    | 3   | 1.47 | 0    | —    |
| 8トレンチ  | 380                       | 0                               | —    | 2   | 0.53 | 2    | 0.53 |
| 9トレンチ  | 152                       | 1                               | 0.65 | 3   | 1.97 | 0    | —    |

なお、年代が不明確な住居跡については時期区分を行わなかった。また、調査区がおよそ50mを超えるものについては、2分割して調査面積・密度を計測・算出した。

以上のように方法を用いて分析を行った結果、図1のようになった。

### (3) 国府域西側の集落分布と変遷

ここまで分析をふまえ、国府域西側の集落分布・変遷について概観してみたい。

#### I期（4～7世紀前半）

古墳時代の遺構は、国府域からやや離れた場所で多く検出されており、とくに染谷川河岸の微高地上に立地する小見II・VI遺跡や小見遺跡2～7区で顕著である。中心となるのは古墳時代後期の集落跡であるが、小見VI遺跡では、石田川式土器を伴う住居跡が検出されており、古墳時代初頭の集落の広がりも考えられる。今回の調査でも、これらの調査区に隣接する9トレンチで6世紀後半の住居跡（H-6号住）が検出されている。

また、国府域隣接地では当期の住居跡は希薄であり、集落の形成は見られない。5～7トレンチでも当期の住居跡は検出されていない。このように国府設置前の時期には、後に国府が置かれる場所からはやや離れた河岸沿いに集落が形成されていたことが看取される。

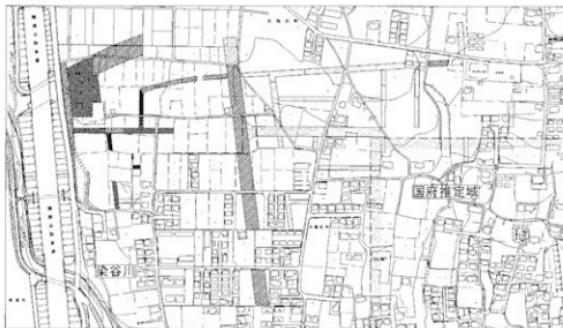
#### II期（7世紀後半～10世紀初頭）

この時期は、国府が成立し機能していた時期である。I期と比べ住居跡は全体的に増加傾向にある。今回は、時期を細分して集計していないが、おそらく8世紀頃を画期とし増加するものと思われる。国府域隣接地では、小見内IV遺跡や小見内VIII遺跡A区などでそのような傾向が見られるが、なお希薄な場所もある。染谷川河岸沿いではI期に引き続き濃密な分布が認められる。今回の調査でも、5～8トレンチでは希薄で、9トレンチでは濃密という、これまでの調査と同様の傾向が見られた。

#### III期（10世紀前半～11世紀）

この時期は、国府衰退・廃絶の時期に当たる。国府域隣接地ではI・II期は希薄であった場所で増加傾向になり、染谷川河岸沿いではI・II期と比べるとやや減少傾向にある。今回の調査で特筆すべきは、国府城縁辺部の5・6トレンチで当期の住居跡が主体を占めることである。このことは、国府城縁辺部の土地利用に関する規制と関係があると思われるが、不確定な部分が多いため、ここではこれ以上言及せず今後の課題としたい。

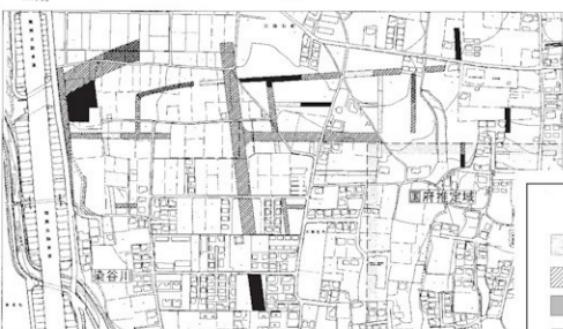
I期



II期



III期



| 凡例                      |          |
|-------------------------|----------|
| (100m <sup>2</sup> あたり) | 0軒       |
|                         | 1軒未満     |
|                         | 1軒以上2軒未満 |
|                         | 2軒以上     |

図1 集落変遷図（1：6,000）

#### (4) まとめと今後の課題

このように、国府西側縁辺部から染谷川河岸にかけての地域においては、Ⅰ期で河岸沿いを中心に集落が広がり、Ⅱ期で住居跡が全体的に増加し、Ⅲ期で河岸沿いの集落の減少と国府縁辺部での新たな集落形成という傾向が看取できよう。これは、今回の調査結果ともほぼ符合するものである。

ただ今回は、国府城西側という非常に限られた地域を対象にしたため、「国府のマチの広がり」という点では、不十分である。例えば、国府東側の元總社明神遺跡や南西の鳥羽・中尾遺跡、国府北西に位置する国分尼寺・僧寺中間地城や北側の牛池河岸の調査、さらに北側の山王庵寺周辺まで広げて、国府のマチがどのように広がり、変遷していったのかを検討していく必要がある。また、今回は国府成立から衰退・廃絶に至る時期をⅡ期・Ⅲ期に区分したが、この地域においてどこに時代の画期があり、どのような時期区分とするかは、今後さらなる資料の集積とその分析をもとに検討していく必要があろう。今後も元總社菅海地区では発掘調査が継続して行われる予定であり、「国府のマチ」だけでなく国府中枢部についても新たな見知り得られるであろう。そのような資料を加えながら、さらに上野国府の全体像が明らかになっていくことを期待したい。

## 2 凝灰質砂岩製の竈構築材について

6トレンチは、推定上野国府域北西部縁辺に位置する調査地である。本調査地からは11世紀代の所産と推測されるものを中心にして、堅穴住居跡が7軒検出された。そのうちH-6号住居跡では、焚口部から燃焼部にかけて壁全面に凝灰質砂岩を用いて竈を構築していた。そこでここでは、周辺の「竈構築材探掘地」を概観することにより、当住居跡の竈に用いられた構築材について若干の分析を行いたい。

#### (1) H-6トレンチH-6号住居跡および竈の概要

H-6号住居跡は調査区南側から検出され、住居の規模は東西辺4.00m、南北辺5.52mを測る。時期については、埋土や出土遺物から11世紀前半頃と考えられる。竈は東壁南隅に付設され、全長143cm・最大幅86cm・焚口部幅54cmを測る。焚口部から燃焼部壁まで全面に凝灰質砂岩を組んでおり（図2、口絵1・2）、その周りを粘土で被覆して構築していたものと思われる。崩壊して原形をとどめないものもあったが、全部で10個体の構築材を確認できた。構築材はすべて直方体に加工されており、残存状況のよいもので長辺20~25cm、短辺10~11cm、高さ30cm~35cmとある程度の規格性を認めることができた（表3）。また、表面には盤状工具で加工したと見られる工具痕が看取できた。

表3 H-6号住居跡竈構築材のサイズ

| No | 長辺 | 短辺 | 高さ   |
|----|----|----|------|
| 1  | 22 | 10 | 36   |
| 2  | 22 | 11 | 30   |
| 3  | 25 | 11 | 35   |
| 4  | 17 | 11 | 35   |
| 5  | 20 | 10 | 37   |
| 6  | 24 | 10 | 35   |
| 7  | 24 | 10 | 34   |
| 8  | 20 | 10 | 36   |
| 9  | 15 | 11 | (14) |
| 10 | 24 | 9  | 33   |

注) ①単位はすべてcmである。

②原形を留めないものについては、現存値を( )で示した。

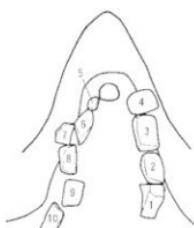


図2 H-6号住居跡竈掘り方平面図 (1:30)

## (2) 凝灰質砂岩探掘地について

管見によれば、凝灰質砂岩探掘地は現在のところ県内7ヶ所で発見されている（表4・図3）。大規模な探掘坑群は、①鳥羽遺跡O・L区（群馬県埋文事業団1990）、②大屋敷遺跡（大山・坂口編1995）、③福荷塚道東遺跡（群馬県埋文事業団2003）で検出されており、④上野国分僧寺・尼寺中間地域I区（群馬県埋文事業団1992）、⑤元總社小見内VI遺跡A区（高橋・高坂編2003）でも小規模の探掘坑検出例がある。いずれの遺跡においても探掘坑とともに、その石材を用いて構築されたと思われる竈を伴う住居跡が検出されている。また今年度、本調査団が実施した⑥トレンチの東側に隣接する場所での調査（元總社蒼海遺跡群（6））や⑦元總社公民館建設に伴う調査（元總社蒼海遺跡群（7））でも探掘坑が検出されており、⑦では古代の大溝の溝縁部から検出されている。

表4 凝灰質砂岩探掘坑の概要

| No | 遺跡名         | 検出数（基） | 面積（m <sup>2</sup> ） | 規模（単位：m、平均値）    | 探掘場所  |
|----|-------------|--------|---------------------|-----------------|-------|
| 1  | 鳥羽遺跡O・L区    | 315    | 211                 | 長軸：0.61、短軸：0.17 | 台地縁辺部 |
| 2  | 大屋敷遺跡       | 42     | 35                  | 長軸：0.64、短軸：0.19 | 溝縁    |
| 3  | 福荷塚道東遺跡     | 130    | 93                  | 長軸：0.88、短軸：0.36 | 溝縁    |
| 4  | 中間地域I区      | 3      | —                   | —               | —     |
| 5  | 小見内VI遺跡A区   | 97     | 14                  | 長軸：0.55、短軸：0.23 | 溝縁    |
| 6  | 元總社蒼海遺跡群（6） | —      | —                   | —               | —     |
| 7  | 元總社蒼海遺跡群（7） | 35     | —                   | —               | 溝縁    |

いずれも本調査区周辺の遺跡で、榛名山南東麓に広がる相馬ヶ原扇状地の東縁に立地しており、河川の段丘上に位置していることや、標高が120～125mであることなど、共通点が多い。ここでは、調査報告書により詳細が確認できた鳥羽遺跡・大屋敷III遺跡・福荷塚道東遺跡・小見内VI遺跡を取り上げ比較したい。

4遺跡を比較すると、鳥羽の検出数・面積が突出しており、大規模な探掘坑群であること、また探掘坑の規模においては福荷塚道東が0.88×0.36mと他の3遺跡と比べて大きいことが分かる。また、鳥羽では台地縁辺部の凝灰岩質層の露出している場所を中心に大規模な探掘を行っているのに対して、他の3遺跡ではいずれも溝の縁辺部を利用して探掘している。さらに鳥羽では、探掘に従事した人々の仮説的跡と考えられる構造も検出されており（群馬県埋文事業団1990:358-9）、他の遺跡と比べると計画的に探掘され、探掘された石材は周辺集落へ供給されていた可能性も考えられる。

探掘方法に関しては、いずれも同じ方法で探掘されており、まず平面に対し垂直方向に切り込み、次に水平方向に切り出して探掘を行っている。同じ電構築材として使用される川原石などと比較すると、探掘に手間や時間を要することが指摘されていたが、探掘実験により探掘はそれほど難しくなく、時間も要さないことが分かっている（群馬県埋文事業団2003:146）。

探掘時期については、鳥羽遺跡では、同遺跡内で検出された電構築材に凝灰質砂岩を用いている住居跡の年代から奈良・平安時代に探掘が行われたと推測している。また、大屋敷III・福荷塚道東・小見内VI遺跡では、住居跡の年代および溝跡の埋没時期からそれぞれ、大屋敷：6世紀代～12世紀、福荷塚道東：7世紀前半～12世紀・小見内：8世紀後半～10世紀中頃と推測している。



図3 凝灰質砂岩探掘地位置図

（1:50,000地形図「前橋」）

注)図中の番号は、文章中の丸番号および表4のNo.と対応。

### (3) まとめと今後の課題

奈良・平安時代においては、竪穴住居跡の竪に構築材や補強材として、粘土・土器・瓦・川原石などとともに凝灰質砂岩も一般的に使用される。凝灰質砂岩を構築材に利用する利点としては、川原石などに比べて自由に加工できることや耐熱性に優れていることなどが指摘されている。先に述べたように探掘時間を要するという欠点については、それほど時間を要しないということでも分かっており、凝灰岩質層が露出するような場所（河岸段丘沿いや溝縁部）では、容易に入手することができたであろう。今回の調査でも、凝灰質砂岩を竪に使用している住居跡が6トレンチH-6号住の他に2例確認できた。5トレンチH-6号住では天井部に、9トレンチH-1号住では支脚に、それぞれ凝灰質砂岩を構築材として使用している。ただ、これらの構築材がどこの探掘地からもたらされたものなのかを明らかにするのは難しい。

これまで指摘されてきているように、いずれの遺跡でも探掘坑から切り出された石材が電構築材として使用されたという直接の証明は得られていない。すなわち含有物の鑑定等の理化学的分析により、石材が同一のものであるという確証は得られていないというのが現状であろう。探掘時期についても、探掘された石材と電構築材とが同一のものという前提のうえで、供給先の住居跡の年代と関連づけて導き出しているが、やはりそのためには、まず前提についてある程度の客観的証拠が求められるのではなかろうか。

稻荷塚道東では探掘された石材の用途について、他遺跡との比較のなかで探掘坑の規模や探掘時期の相違から、「初めは（電構築材以外の）他の目的で探掘した」可能性や「周辺遺跡への電構築材の供給地であった」可能性など新たな問題提起を行っている（群馬県埋文事業団2003：147）。このような視点からも探掘された石材の用途については検討していく必要があろう。上野国分寺の調査では金堂周辺から「凝灰岩切石」が出土している。原位置を保っているものは確認されていないが、その出土状況から金堂基壇の化粧石の部材として使用されていた可能性が指摘されている（群馬県教委1988：63・300）。この石材については、「凝灰岩切石」ということ以外に詳細は不明であるが、探掘された凝灰質砂岩が電構築材以外にも使用されていた可能性は十分にあると言えよう。このようなことから従来用いられてきた「電構築材探掘坑」という用語については、用途について直接の証明が得られない以上、「凝灰質砂岩探掘坑」等の用語を用いるのが適当ではなかろうか。

今後の調査においては、電構築材や探掘地の石材について、ある程度客観的な基準から岩質等を見ていく必要性があると思われる。岩石の分類については門外漢のためここで詳しく述べることはできないが、当地域において電構築材に使用されるいわゆる「凝灰岩」は、粒子の大きさなどにより分類することが可能であると思われる。6トレンチH-6号住で使用されたものは粒子がおおよそ2mm以下であることから凝灰質砂岩に分類できよう。鳥羽遺跡調査報告書では検出した石材について可視分析を試みており、岩質や歯物組成について言及している（群馬県埋文事業団1990：356）。このような分類・分析により、探掘地についてある程度限定できたり、石材同士の類似性や、電構築材として良質な石材か否かということについても、ある程度の判断材料を得られるのではないかと思われる。

探掘地については、凝灰岩質層が広がる地域ではどこでも探掘は可能なため、現在確認されている遺跡以外にも多数存在した可能性があり、今後調査事例は増加するであろう。電構築材および凝灰質砂岩探掘地について、今後の調査・研究の進展に期待したい。

## 3 9トレンチW-3号溝跡について

9トレンチ西側で検出されたW-3号溝跡は、X35・36グリッド付近を主軸方向N-2°-Eで南北に走行する。部分的な検出のため形状・規模については確定的ではないが、確認できた部分で、断面の形状は逆台形、確認面からの深さ7~24cm、上幅(2.74)~(3.28)m、下幅(2.53)~(3.04)mである。埋土は、As-C-Hr-FP軽石

を含む暗褐色土が主体で、As-B軽石は含まない。掘削時期については、この溝が7世紀末と思われる土坑(D-4号土坑)を切っていることからこの時期を遡らないものと推測でき、As-B軽石降下以前に埋没したものと思われる。埋土中層から下層にかけて、硬化面が3層確認でき、最下面でも、非常に堅く綺った層が確認できた。

9トレンチ北側で行われた過年度調査で、当溝跡と形状や埋土が類似し、走行方向から続きになるものと思われる溝跡が検出されている。

平成14年度に調査された小見II遺跡は、本遺跡9トレンチからおよそ100m北に位置する遺跡である。調査区東側から検出されたW-4号溝跡は、主軸方向N=0°-Eで南北に走行する。形状は逆台形、規模は深さ70cm、上幅4.43m、下幅3.48mを測り、底面で0.42~0.62m幅の両側溝（路面幅2.26m）が確認されている。黒褐色土を主体とした埋土で、底面から中層にかけて数面の硬化面が確認されている（山武考古学研究所編2002）。

平成16年度には、小見II遺跡の北側に隣接する場所で調査が行われている（小見VII遺跡）。この調査でもX35・36グリッド付近を南北に走行する溝（W-1号溝）が検出されており、小見II遺跡のW-4号溝の続きであることが確認されている（スナガ環境測設編2005）。この溝は、断面逆台形で、上幅4.50m~6.25m、下幅3.20~4.80m、深さ75~82cmを測り、底面では、溝状の掘り込みが4条確認されている。埋土中層に複数の硬化面があるが、底面では硬化面は確認されていない。この溝は、7世紀前半の住居（H-2号住）を切っていることから、掘削時期はそれ以降と推測される。また、上層がAs-B軽石層に覆われていることから、As-B降下以前には埋没したと考えられる。

以上のことを勘案すると、今回の調査で検出された溝と小見II遺跡・小見VII遺跡で確認された溝は走行方向・形状・埋土などから同一のものと見てよいだろう。この溝跡の共通する特徴としては、掘り方が比較的浅いこと（最深部で80cmほど）、中層から底面にかけて何枚かの硬化面を有することが挙げられる。時期については、8世紀以降に掘削され、12世紀前半には埋没したと考えられる。

小見II遺跡では、底面に硬化部が認められ、開削当初から道路として使用されていた可能性も考えられる。調査報告書では、この溝が側溝や轍状の小溝を有することから道路状造構とみなし、国分僧寺東限線から3町の位置にあたること、国分尼寺の西側線にあたることを指摘している（山武考古学研究所編2002：18）。一方、小見VII遺跡では、中層には複数の硬化面を有するものの、底面では硬化部が認められず人の歩いた形跡はない。そのため、開削当初は溝として使用され、その後洪水等による埋没過程において道路として使用された可能性が指摘されている（スナガ環境測設編2005：28）。

以上のように、この溝状造構の性格は定まっていないのが現状である。今回の調査でも、最下部に硬化面が確認できたものの側溝や轍状の小溝は認められず、開削当初から道路としての機能を持っていたかどうかについては疑問が残る。しかし、中層で硬化面が複数認められたことから、埋没する過程において幾度か道路として使用された可能性は高い。この溝跡がさらに北側の国分尼寺周辺まで続くのかどうかを含め、今後の調査により、この造構の性格が明らかになることを期待したい。

## 〈引用参考文献〉

- 側群馬県埋蔵文化財調査事業団 「清里・陣場遺跡」 1981年
- 側群馬県埋蔵文化財調査事業団 「中尾」 1984年
- 板口一 「奈良・平安時代の土器の編年」 群馬県史編さん委員会編「群馬県史研究24」 1986年
- 側群馬県埋蔵文化財調査事業団 「上野国分寺跡・尼寺中間地城1)~(8)」 1986年~
- 群馬県教育委員会 「史跡上野国分寺跡」 1988年
- 群馬県教育委員会・側群馬県埋蔵文化財調査事業団 「鳥羽遺跡 L・M・N・O区」 1990年
- 東京都埋蔵文化財センター 「資料目録」 側東京都教育文化財団東京都埋蔵文化財センター 1991年
- 大山知久・板口好孝編 「大根敷遺跡群」 前橋市埋蔵文化財発掘調査団 1995年
- 木津博明 「上野国『駿河の国府 in WAYO』」 1998年
- 山武考古学研究所編 「總社閑泉明神北道路」 前橋市埋蔵文化財発掘調査団 1999年
- 真塙明男・飯田祐二編 「上野国分尼寺古墳確認調査」 前橋市埋蔵文化財発掘調査団 2000年
- 鈴木雅浩・高橋一彦編 「元總社宅地遺跡・上野国分尼寺守城確認調査」 前橋市埋蔵文化財発掘調査団 2000年
- 山武考古学研究所編 「元總社菅海道跡群・元總社小見山遺跡」 前橋市埋蔵文化財発掘調査団 2000年
- 山武考古学研究所編 「元總社菅海道跡群・元總社小見山内田遺跡」 前橋市埋蔵文化財発掘調査団 2001年
- 齊木一敏・近藤雅順編 「元總社菅海道跡群・總社甲福荷原大道西道路・總社閑泉明神北日道路・總社甲福荷原大道西日道路」 前橋市埋蔵文化財発掘調査団 2001年
- 齊木一敏・高坂麻子編 「元總社菅海道跡群・元總社小見内IV道路」 前橋市埋蔵文化財発掘調査団 2002年
- 高橋一彦・近藤薰編 「元總社菅海道跡群・元總社小見II道路」 前橋市埋蔵文化財発掘調査団 2002年
- 山武考古学研究所編 「元總社菅海道跡群・元總社小見II道路」 前橋市埋蔵文化財発掘調査団 2002年
- 山武考古学研究所編 「元總社菅海道跡群・元總社小見III道路・元總社志作V道路」 前橋市埋蔵文化財発掘調査団 2002年
- 高橋一彦・高坂麻子編 「元總社菅海道跡群・元總社小見V道路・元總社小見VI道路」 前橋市埋蔵文化財発掘調査団 2003年
- 高橋一彦・高坂麻子編 「元總社菅海道跡群・元總社小見IV道路」 前橋市埋蔵文化財発掘調査団 2003年
- 近藤雅順・植短慎太郎編 「元總社菅海道跡群・元總社小見VI道路」 前橋市埋蔵文化財発掘調査団 2003年
- 近藤雅順・植短慎太郎編 「元總社菅海道跡群・元總社小見IV道路」 前橋市埋蔵文化財発掘調査団 2003年
- 側群馬県埋蔵文化財調査事業団 「稻荷町東遺跡」 2003年
- 岩崎琢郎・高坂麻子編 「元總社菅海道跡群・元總社小見IX道路・總社閑泉明神北V道路」 前橋市埋蔵文化財発掘調査団 2005年
- 山武考古学研究所編 「元總社菅海道跡群・元總社小見IX道路」 前橋市埋蔵文化財発掘調査団 2005年
- スナガ環境調査株式会社編 「元總社菅海道跡群(3)・元總社小見VII道路」 前橋市埋蔵文化財発掘調査団 2005年

## 5 トレンチ

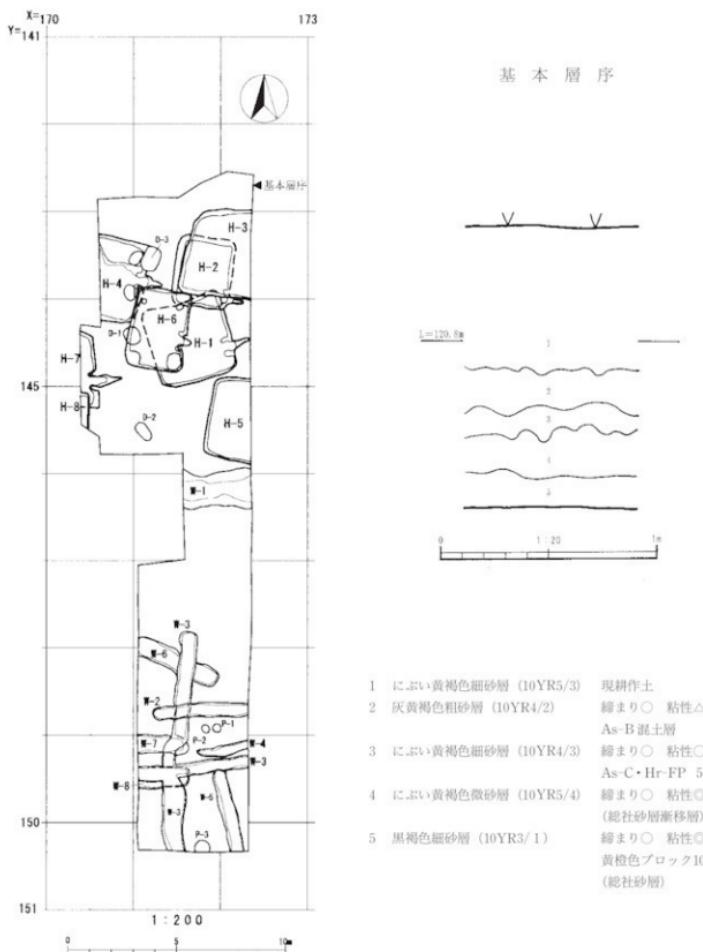


Fig. 4 5 トレンチ全体図と基本層序

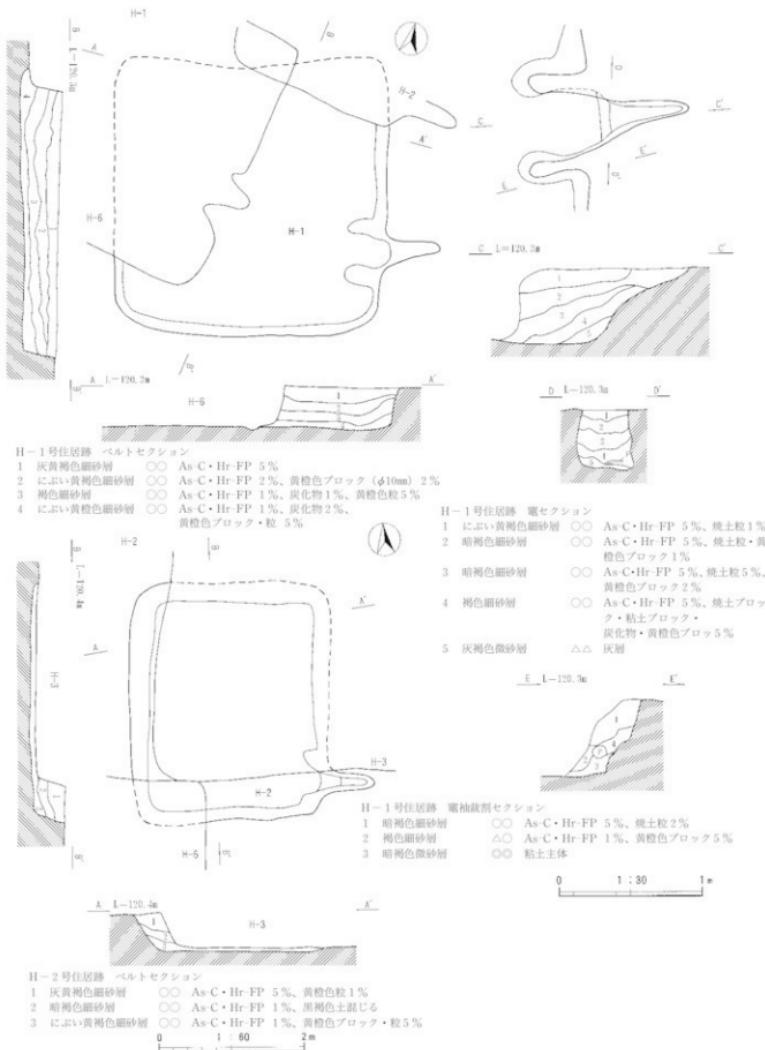


Fig. 5 5トレーナー/H-1・2号住居跡

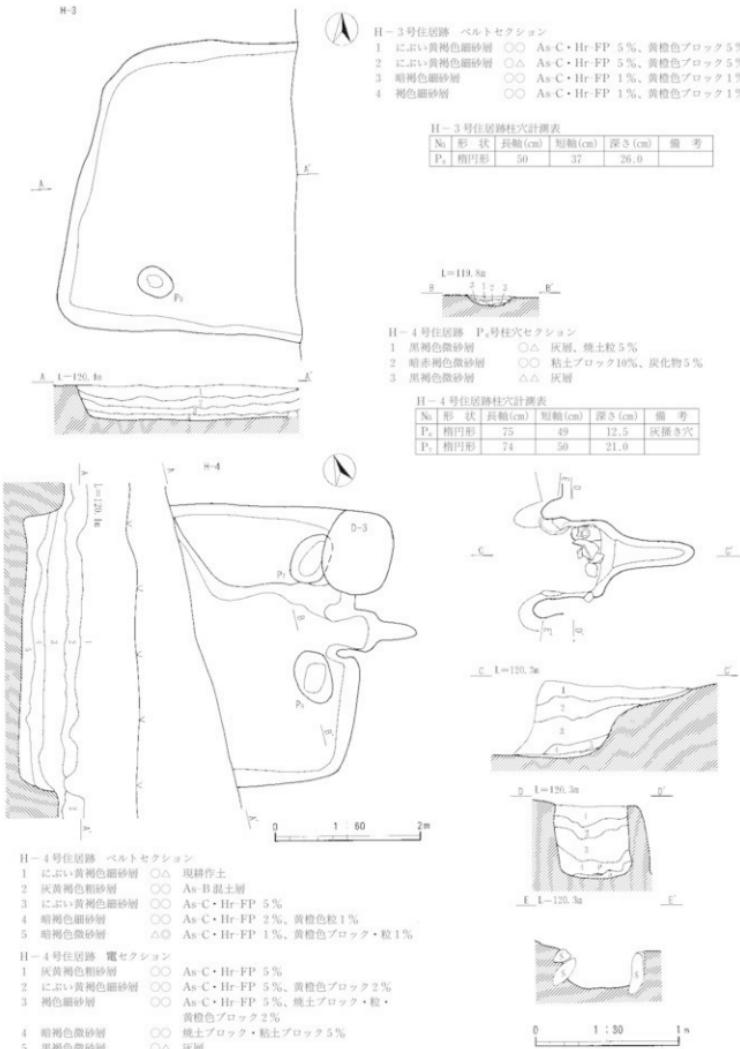


Fig. 6 5トレーナ/H-3・4号住居跡

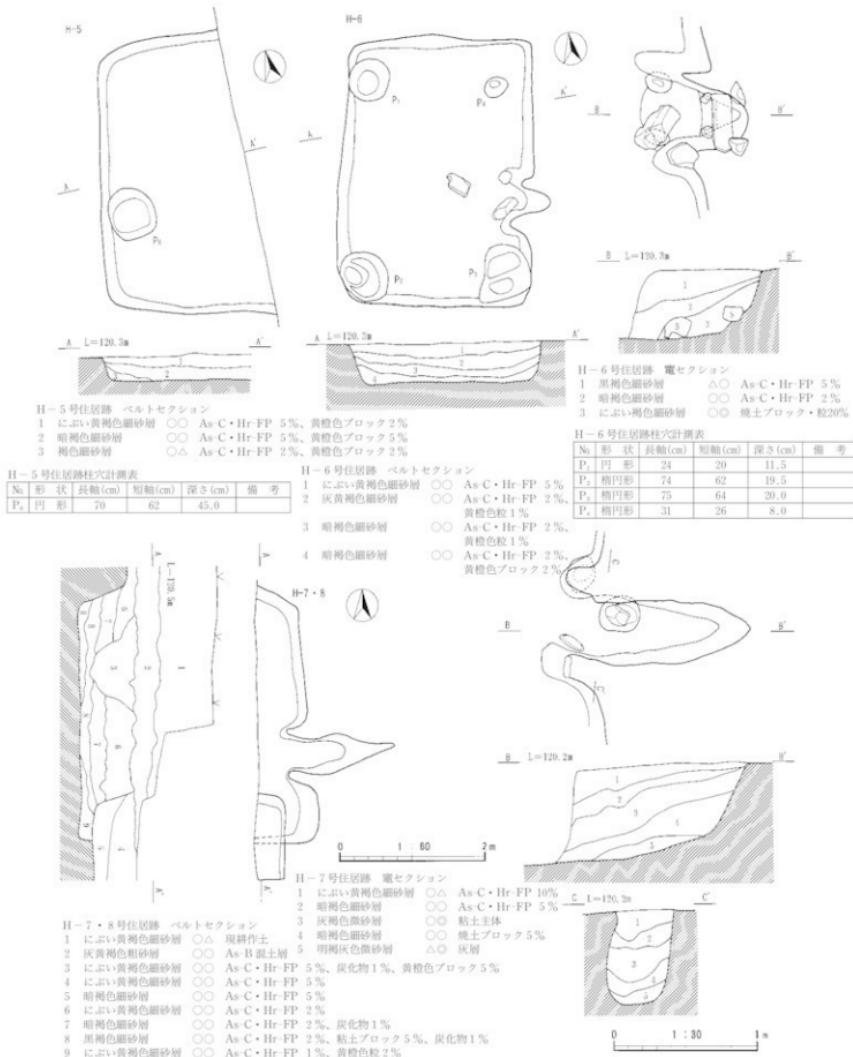


Fig. 7 5トレンチ/H-5～8号住居跡

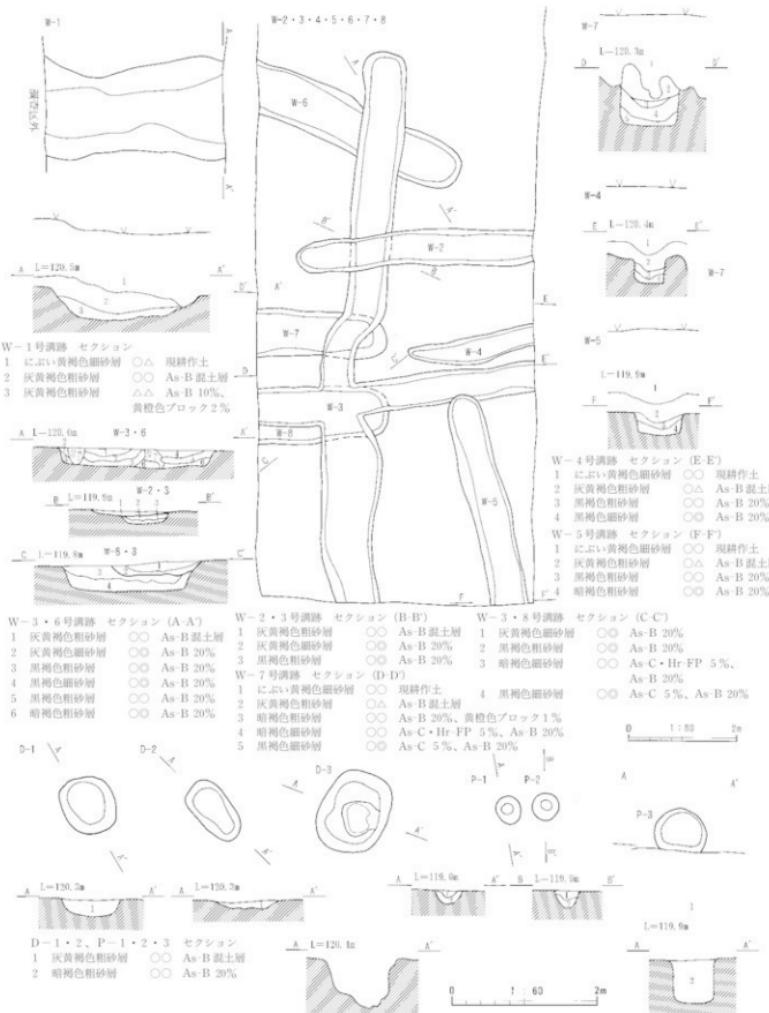


Fig. 8 5トレンチ/溝跡、土坑、ピット

## 6 トレンチ

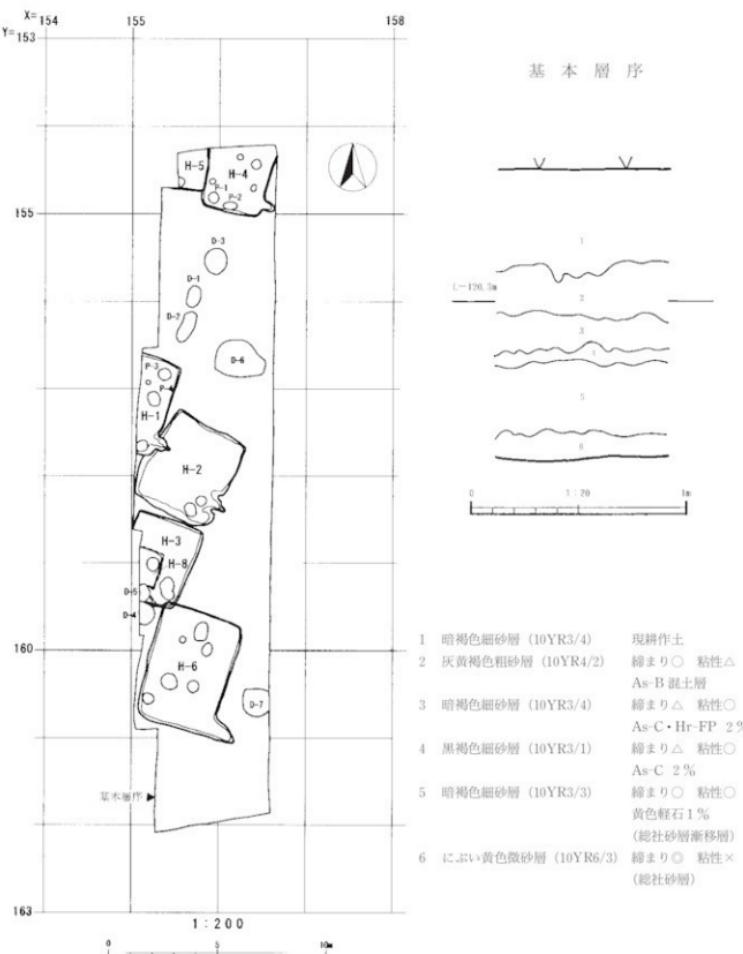
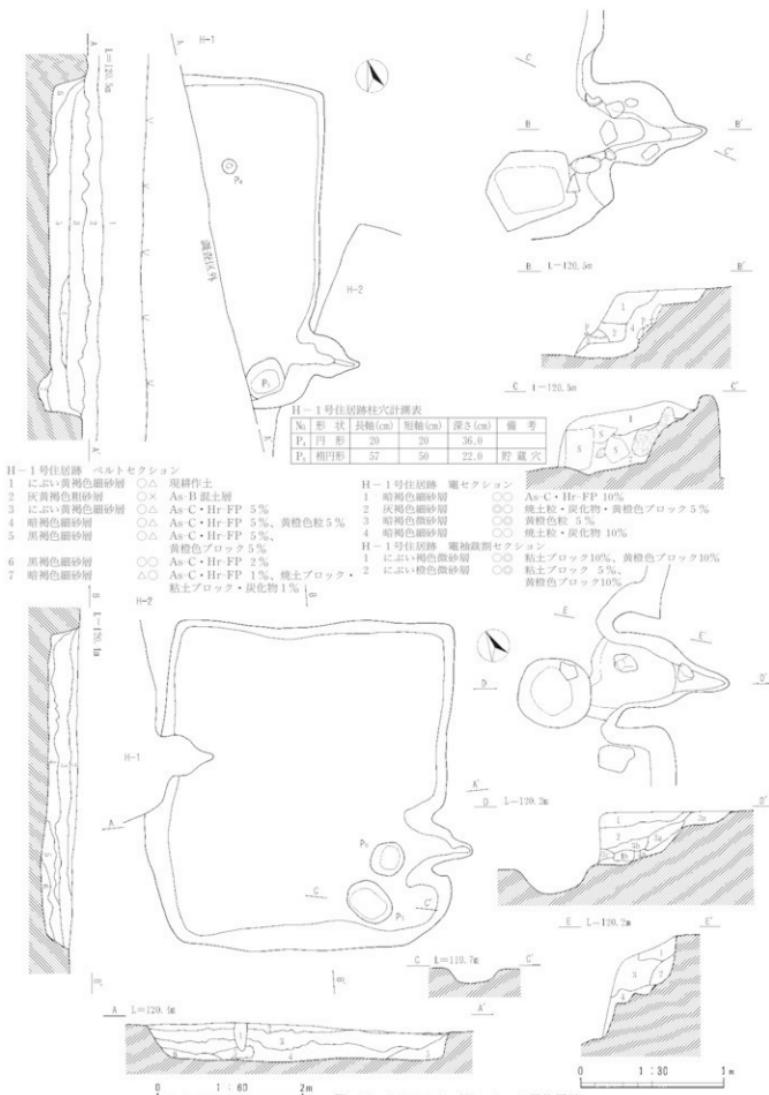


Fig. 9 6 トレンチ全体図と基本層序



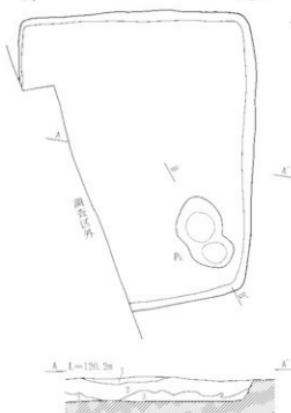
H-2号住居跡 ベルトセクション

- 1 にい黄褐色細砂層 ○△ As-C・Hr-FP 5%
- 2 黄褐色細砂層 ○△ As-C・Hr-FP 2%、黄褐色粒 1%
- 3 前褐色細砂層 ○△ As-C・Hr-FP 10%、黄褐色ブロック 5%
- 4 黑褐色細砂層 ○△ As-C・Hr-FP 2%、黄褐色ブロック 2%
- 5 黄褐色細砂層 △△ As-C・Hr-FP 1%、黄褐色ブロック 1%

H-2号住居跡穴調査表

| No             | 形 状 | 長軸(cm) | 短軸(cm) | 深さ(cm) | 備 考  |
|----------------|-----|--------|--------|--------|------|
| P <sub>1</sub> | 楕円形 | 66     | 49     | 25.0   | 貯蔵穴  |
| P <sub>2</sub> | 円 形 | 47     | 44     | 36.5   | 灰褐色穴 |

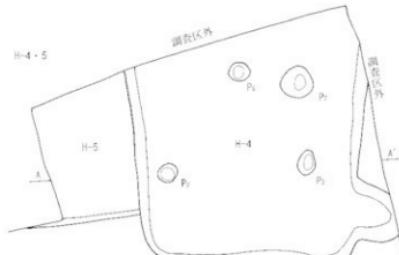
H-3



B-L=118.5m



H-4・5



H-2号住居跡 電セクション

- 1 灰黃褐色細砂層 ○△ As-C・Hr-FP 10%、燒土粒 1%
- 2 黄褐色細砂層 ○△ As-C・Hr-FP 5%
- 3 燒土粒・粘土体
- 4 黄褐色微砂層 △△ 燃土ブロック 2%、灰褐色物 2%
- 5 黄褐色微砂層 ○○ 燃土ブロック 5%、燒土ブロック 1%
- 6 黄褐色微砂層 ○○ 燃土ブロック 2%、灰褐色物 2%
- 7 黄褐色微砂層 ○○ 燃土ブロック 10%、燒土粒 5%
- 8 黄褐色微砂層 ○○ 粘土体・黄褐色粒 2%
- 9 黄褐色微砂層 ○○ 黄褐色粒 5%

H-2号住居跡 電池試験セクション

- 1 黒褐色細砂層 ○△ As-C・Hr-FP 2%、黄褐色粒 2%

- 2 オーラーの褐色細砂層 △△ 黄褐色ブロック 2%

- 3 灰黄褐色細砂層 ○○ 粘土体・黄褐色粒 2%

- 4 黑褐色細砂層 ○○ 黄褐色粒 5%

H-2号住居跡穴調査表

| No             | 形 状 | 長軸(cm) | 短軸(cm) | 深さ(cm) | 備 考   |
|----------------|-----|--------|--------|--------|-------|
| P <sub>1</sub> | 不整形 | 104    | 64     | 49.5   | 柱孔 2つ |

H-3号住居跡 ベルトセクション

- 1 灰黄褐色細砂層 ○△ As-C・Hr-FP 2%、As-B 5%
- 2 にい黄褐色細砂層 ○△ As-C・Hr-FP 5%、黄褐色粒 1%
- 3 前褐色細砂層 ○△ As-C・Hr-FP 10%、黄褐色ブロック 5%
- 4 前褐色細砂層 ○△ As-C・Hr-FP 2%、燒土粒 2%
- 5 黑褐色細砂層 ○△ As-C・Hr-FP 1%、燒土粒・灰褐色物 5%
- 6 明黄褐色細砂層 △△ As-C・Hr-FP 1%、黄褐色ブロック 1%
- 7 明黄褐色細砂層 ○○ As-C・Hr-FP 1%、黄褐色ブロック 5%
- 8 にい黄褐色細砂層 △△ As-C・Hr-FP 5%、黄褐色粒 2%
- 9 にい黄褐色細砂層 ○○ As-C・Hr-FP 5%
- 10 前褐色細砂層 ○○ As-C・Hr-FP 5%、黄褐色ブロック 1%
- 11 前褐色細砂層 ○○ As-C・Hr-FP 2%、黄褐色ブロック 1%
- 12 黑褐色細砂層 ○○ As-C・Hr-FP 1%

H-3号住居跡穴調査表

| No             | 形 状 | 長軸(cm) | 短軸(cm) | 深さ(cm) | 備 考 |
|----------------|-----|--------|--------|--------|-----|
| P <sub>1</sub> | 円 形 | 28     | 26     | 27.0   |     |
| P <sub>2</sub> | 楕円形 | 34     | 24     | 22.0   |     |
| P <sub>3</sub> | 円 形 | 46     | 45     | 15.0   |     |
| P <sub>4</sub> | 円 形 | 28     | 26     | 33.0   |     |

H-4号住居跡穴調査表

| No             | 形 状 | 長軸(cm) | 短軸(cm) | 深さ(cm) | 備 考 |
|----------------|-----|--------|--------|--------|-----|
| P <sub>1</sub> | 円 形 | 28     | 26     | 27.0   |     |
| P <sub>2</sub> | 楕円形 | 34     | 24     | 22.0   |     |
| P <sub>3</sub> | 円 形 | 46     | 45     | 15.0   |     |
| P <sub>4</sub> | 円 形 | 28     | 26     | 33.0   |     |

H-4号住居跡 電セクション

- 1 明褐色細砂層 ○△ As-C・Hr-FP 1%
- 2 にい褐色細砂層 ○○ 燃土粒 10%
- 3 前褐色細砂層 ○○ As-C・Hr-FP 5%、燒土粒・粘土粒・灰褐色物 5%
- 4 明褐色細砂層 ○○ 燃土ブロック・粒 10%

カラム  
1 : 30 1 : 10

Fig.11 6トレチナ/H-3～5号住居跡

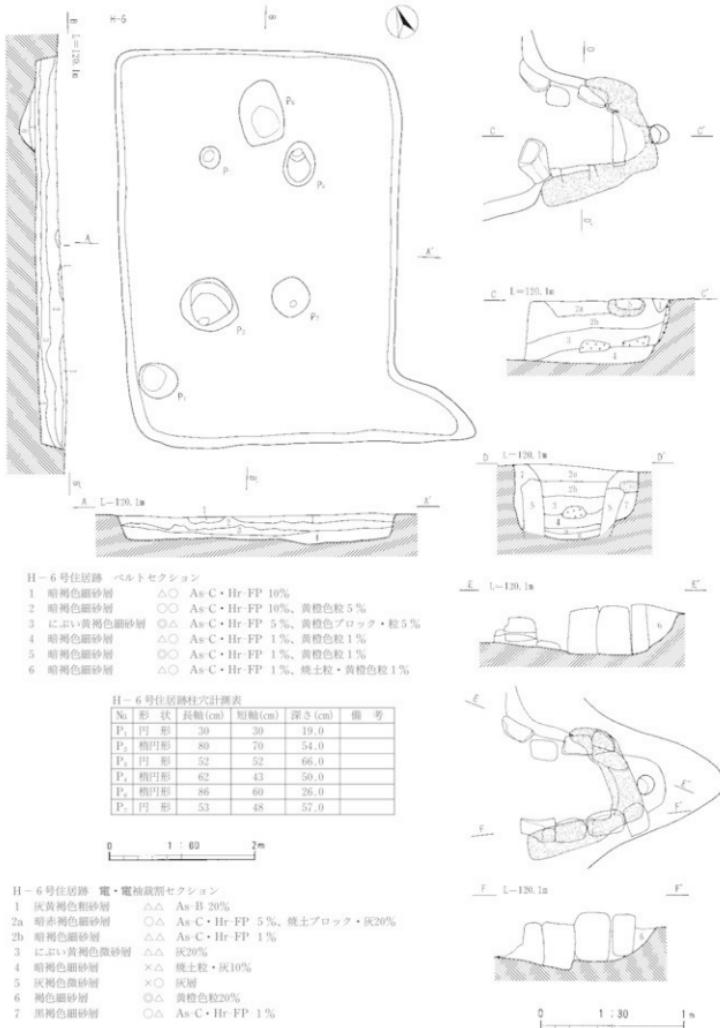


Fig.12 6トレンチ/H-6号住居跡

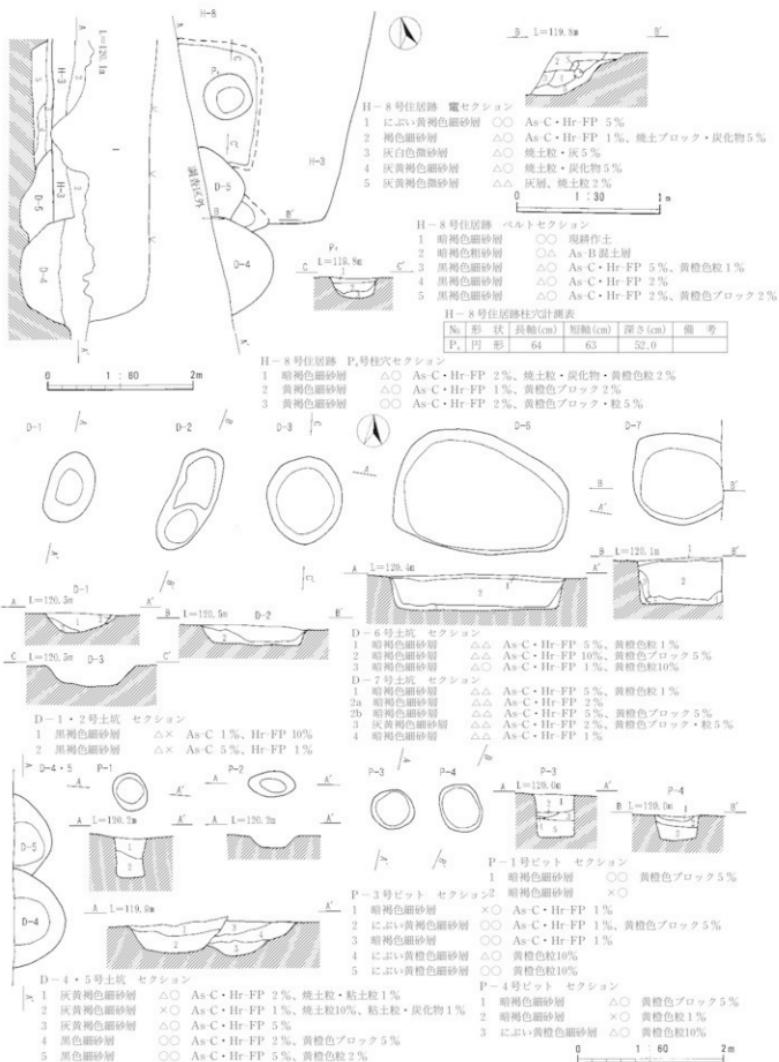


Fig.13 6トレンチ/H-8号住居跡、土坑、ピット

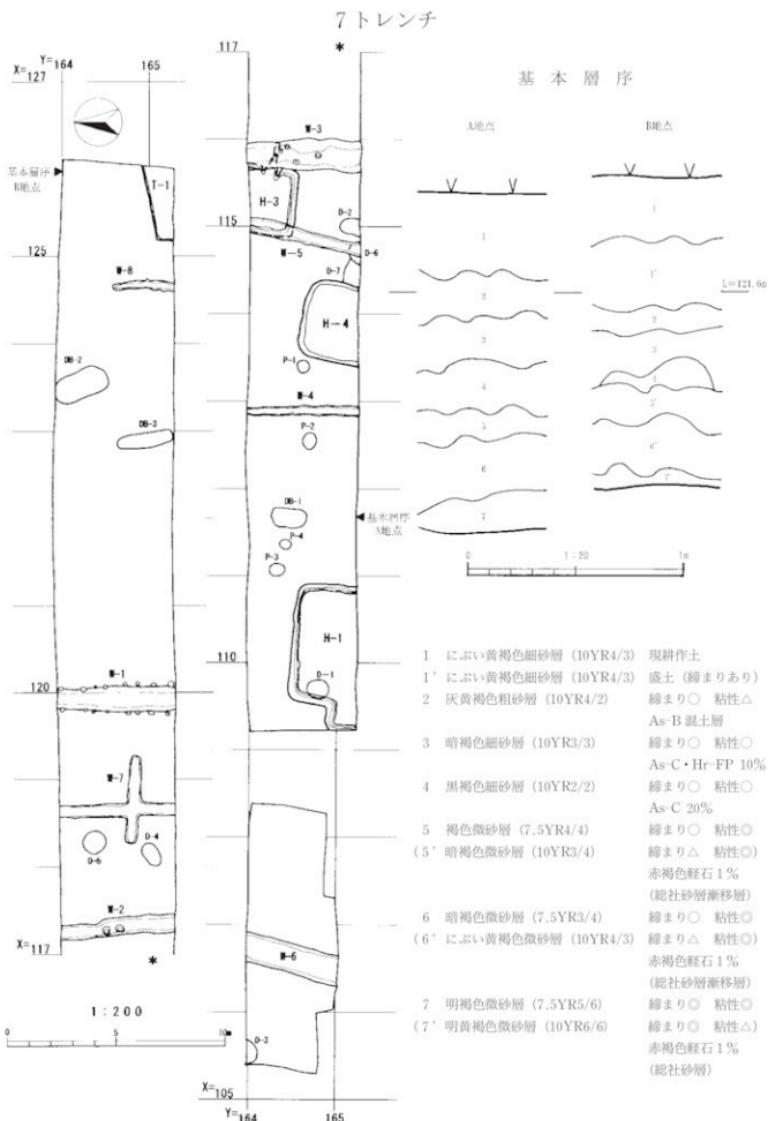


Fig.14 7 トレンチ全体図と基本層序

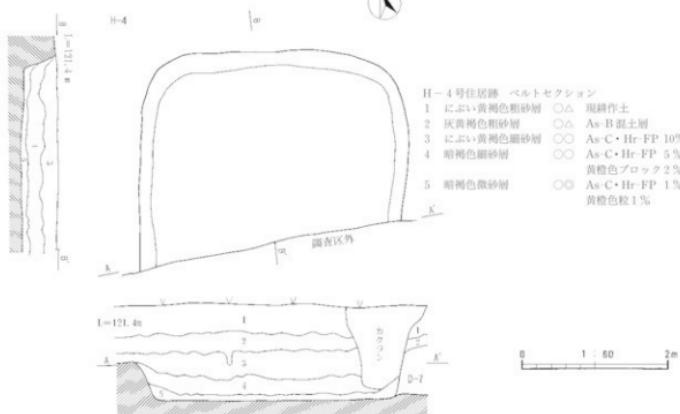
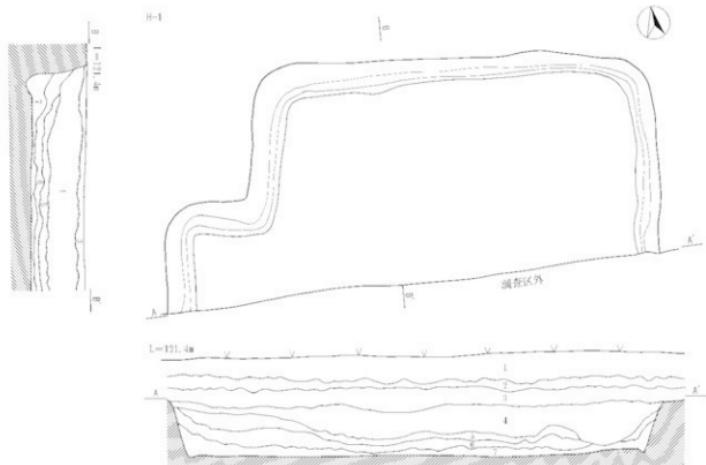


Fig.15 7トレーナー/H-1・4号住居跡

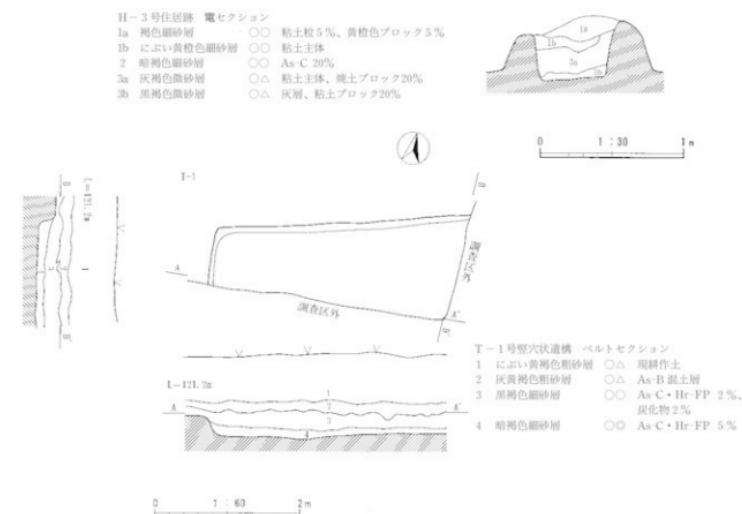
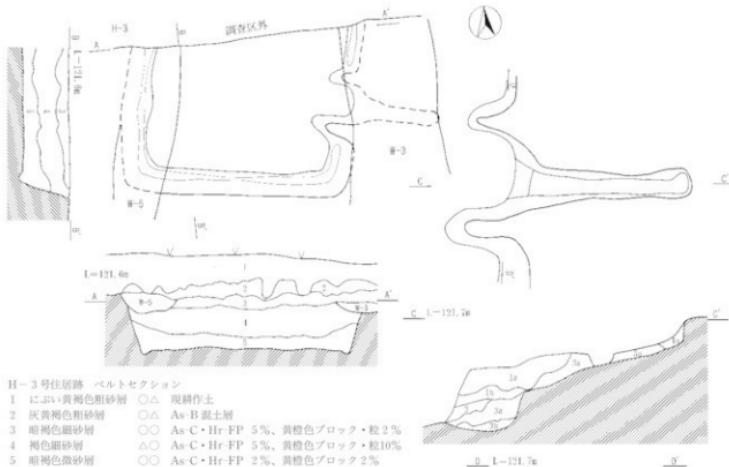


Fig.16 7トレンチ/H-3号住居跡、T-1号堅穴状遺構

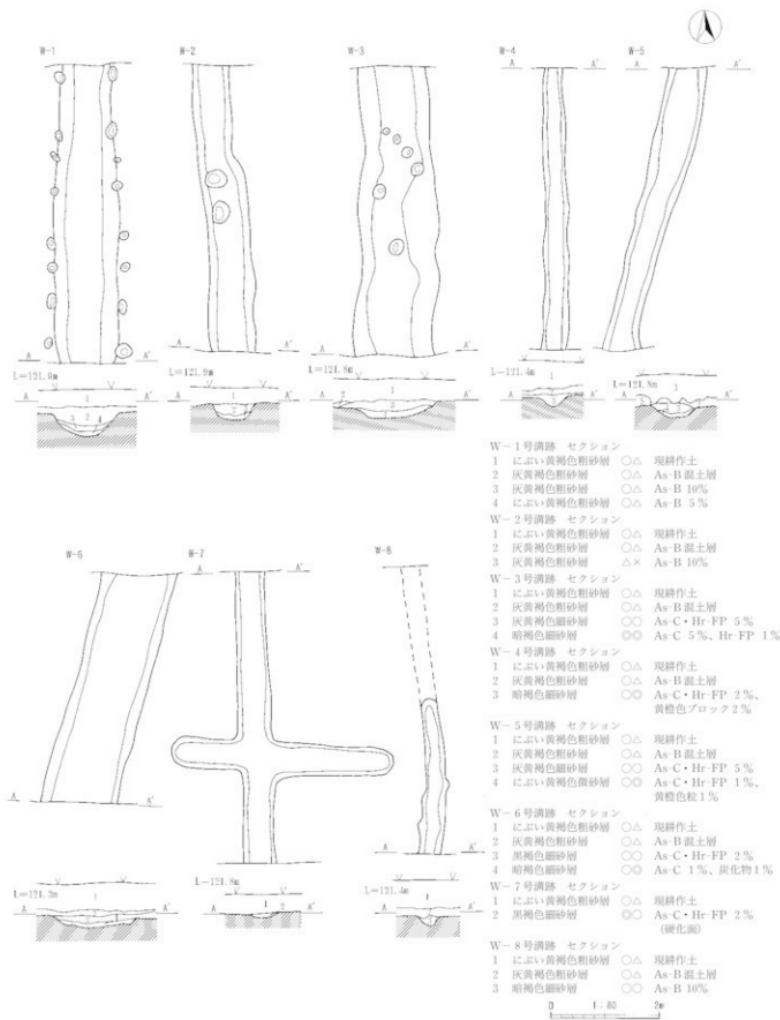


Fig.17 7トレンチ/W-1～8号溝跡

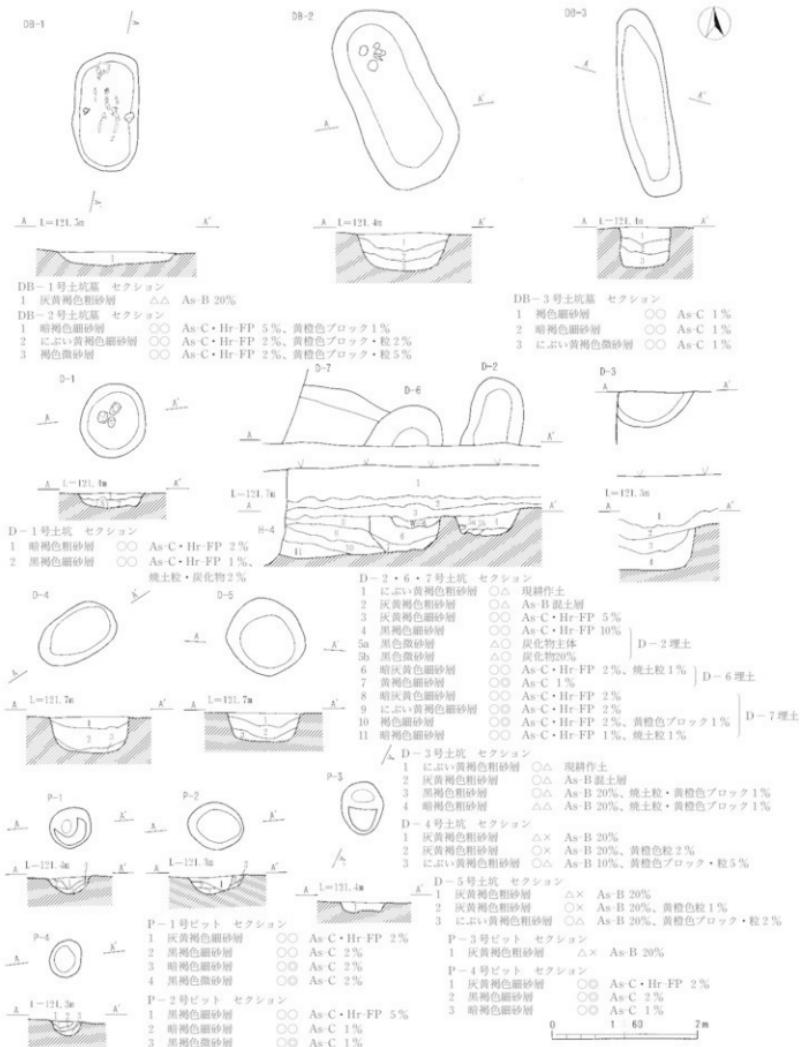


Fig.18 7トレンチ／土坑墓、土坑、ビット

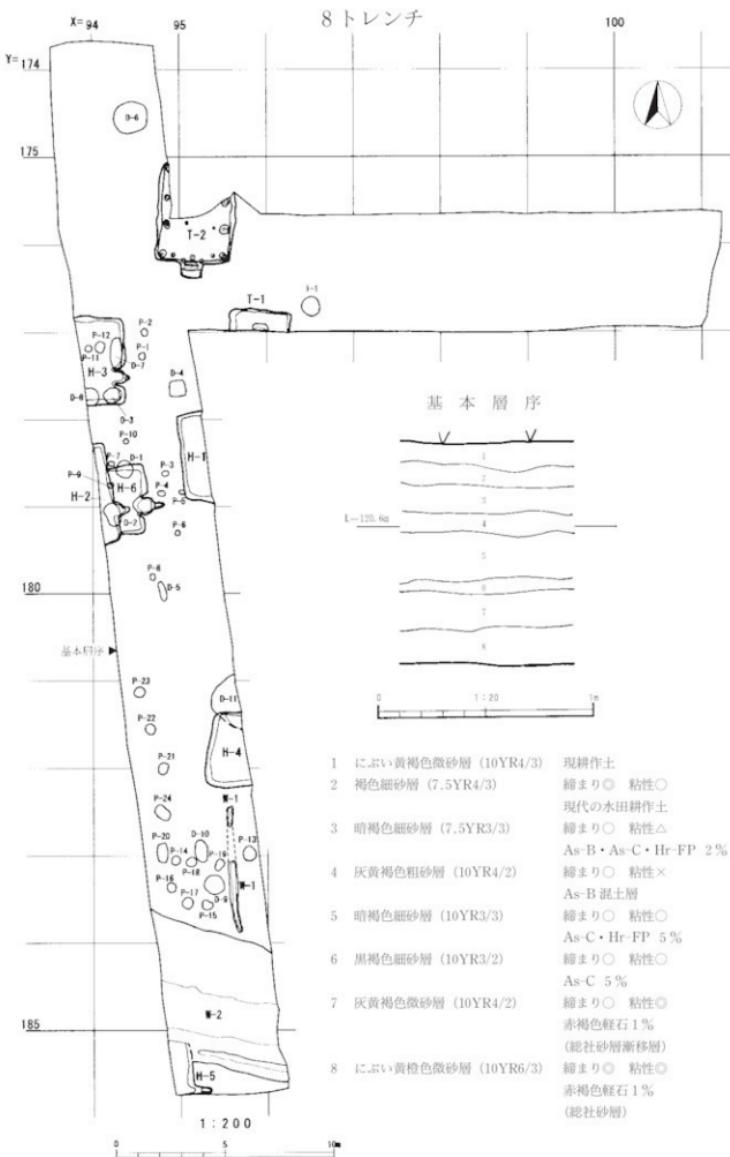


Fig.19 8 トレンチ全体図と基本層序

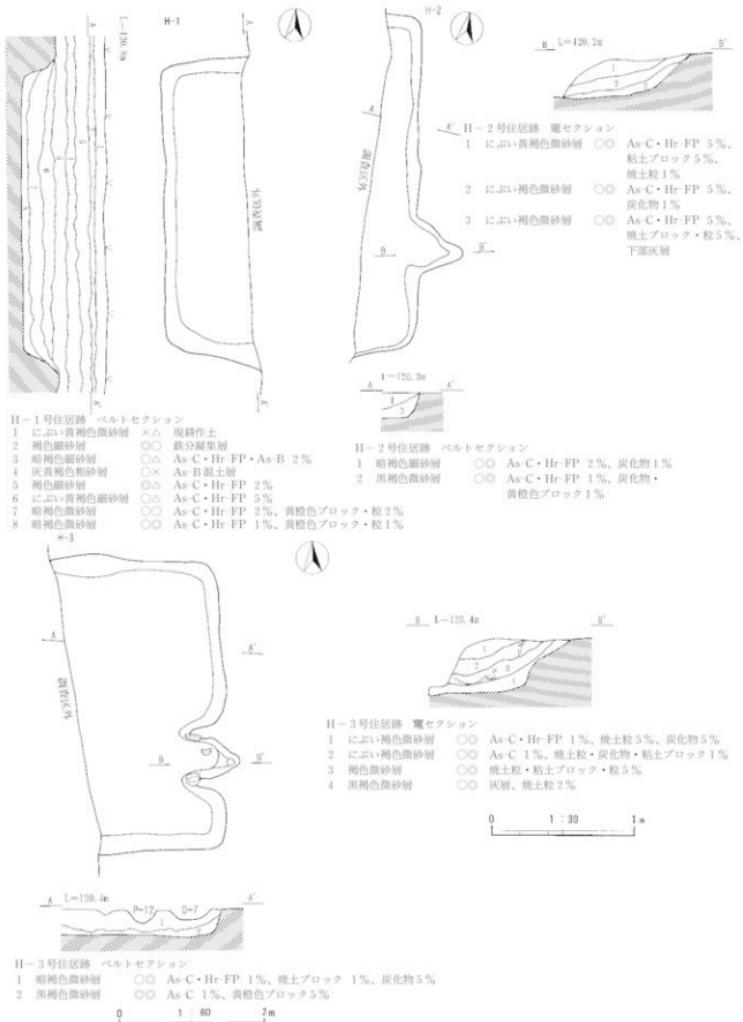
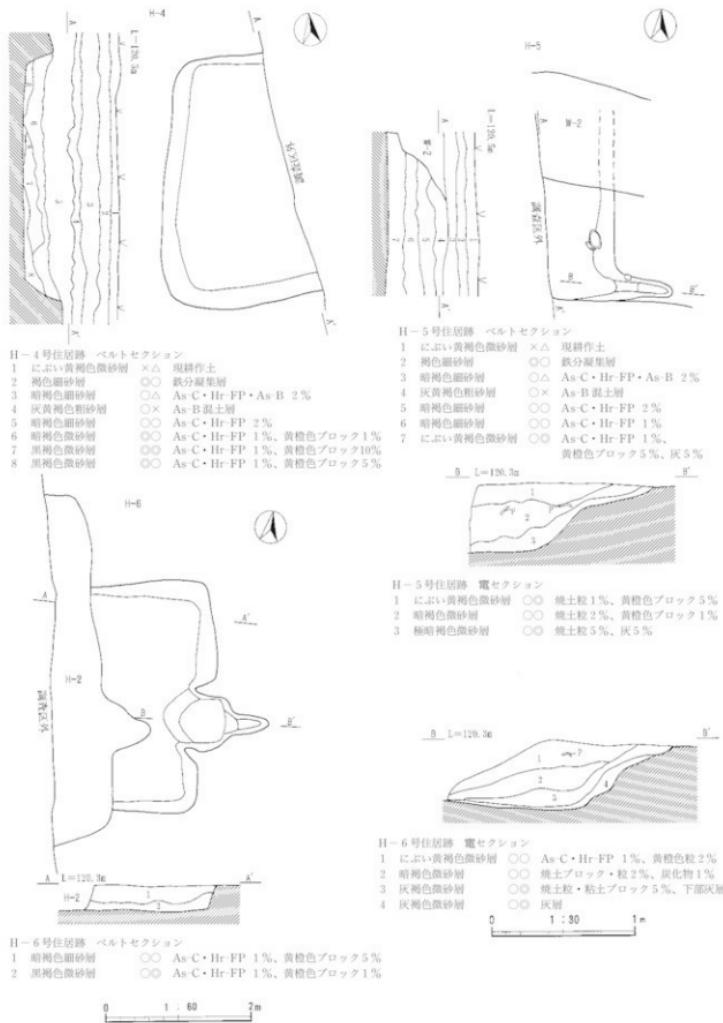


Fig.20 8トレーナー/H-1～3号住居跡



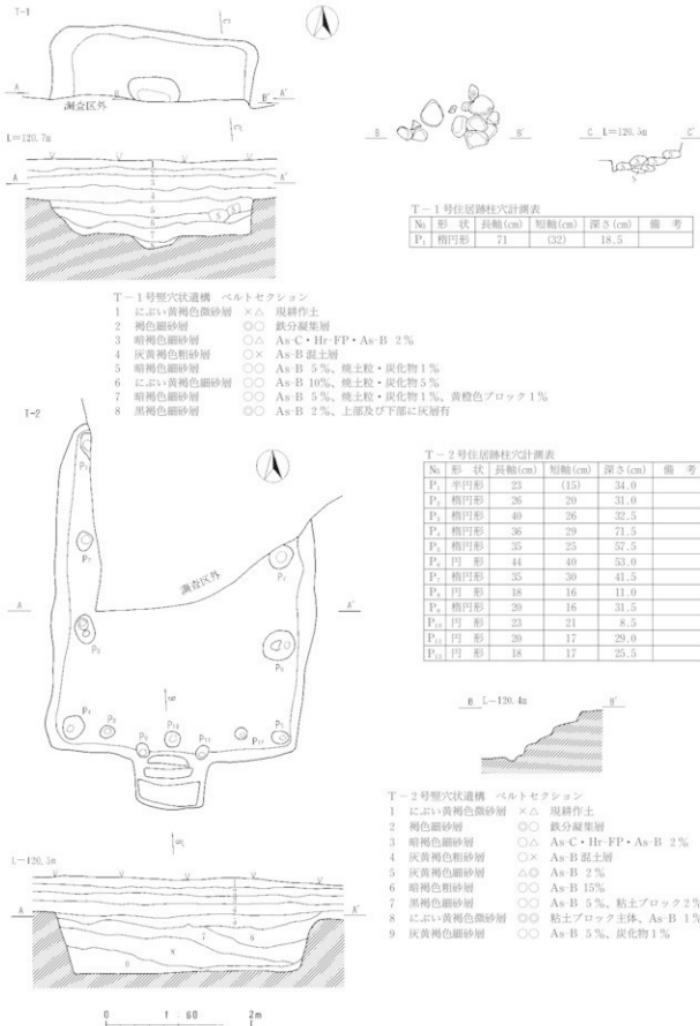


Fig.22 8 トレーナー/T-1・2号柱穴計測表

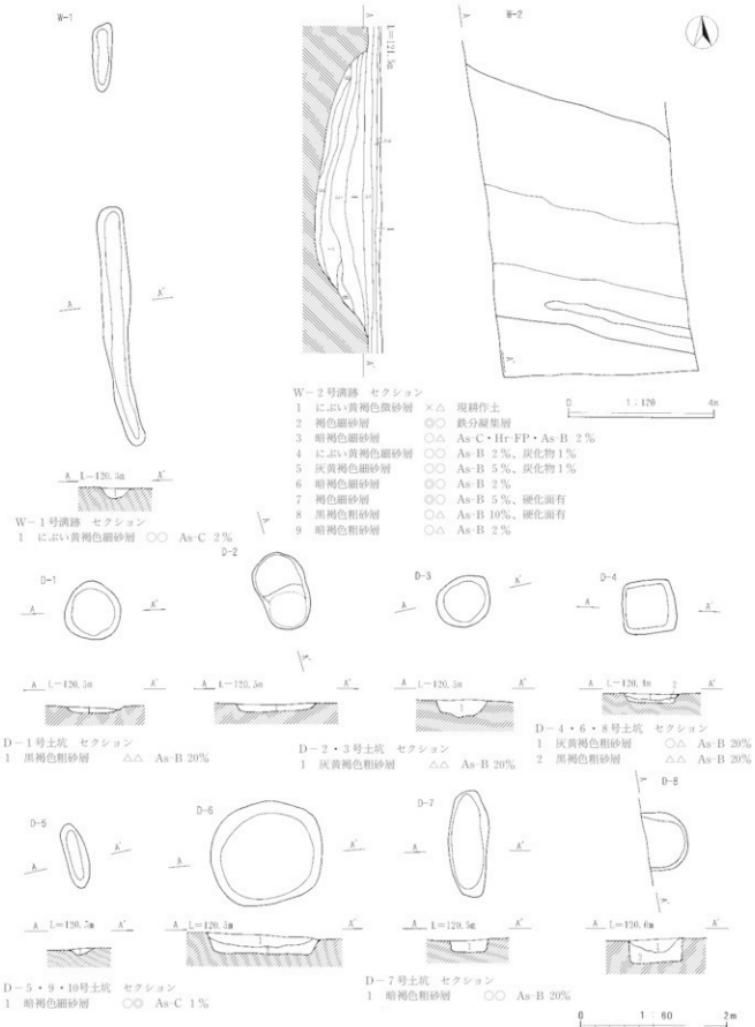


Fig.23 8 トレンチ/溝路、D-1～8号土坑

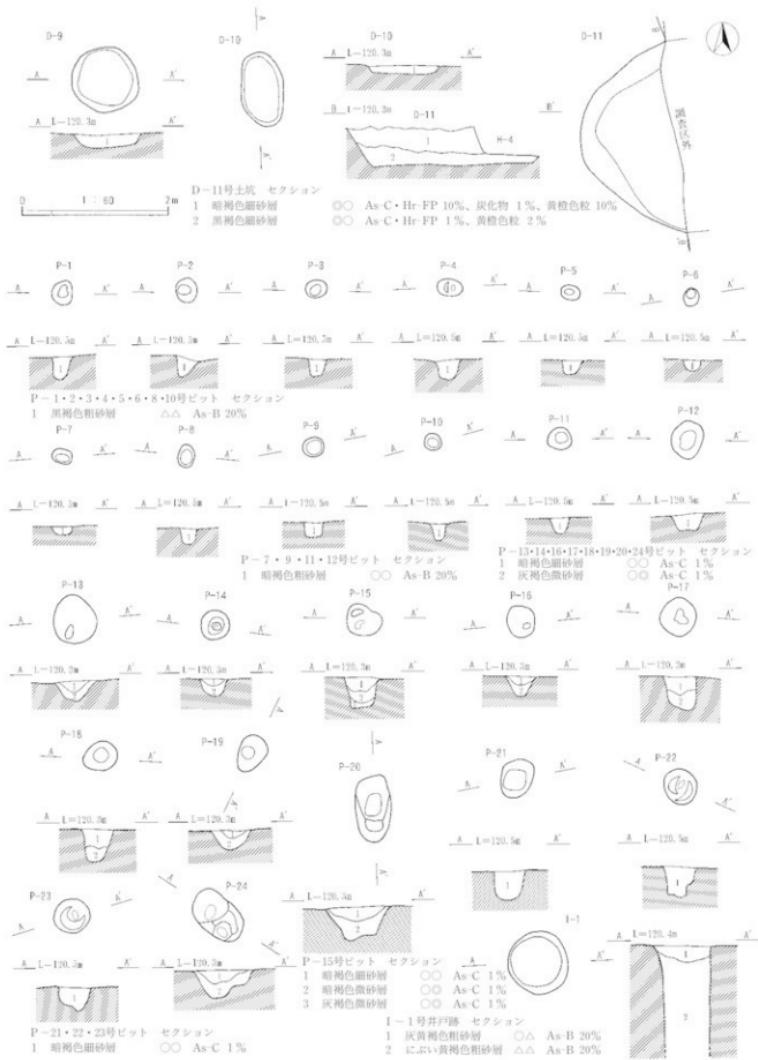
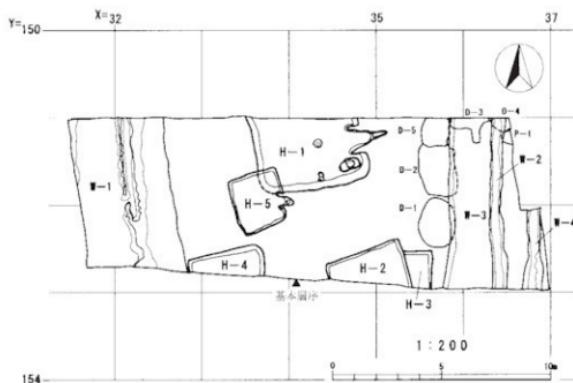


Fig.24 8 トレンチ／D- 9～11号土坑、ピット、井戸跡

## 9 トレンチ



### 基本層序

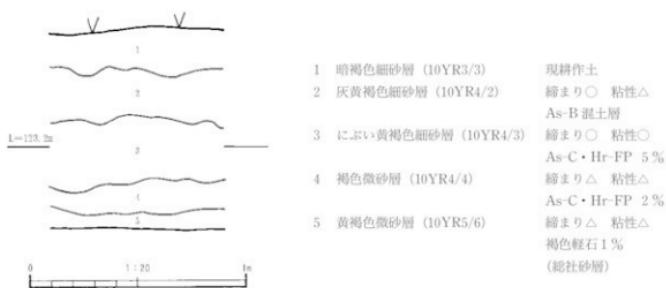


Fig.25 9 トレンチ全体図と基本層序

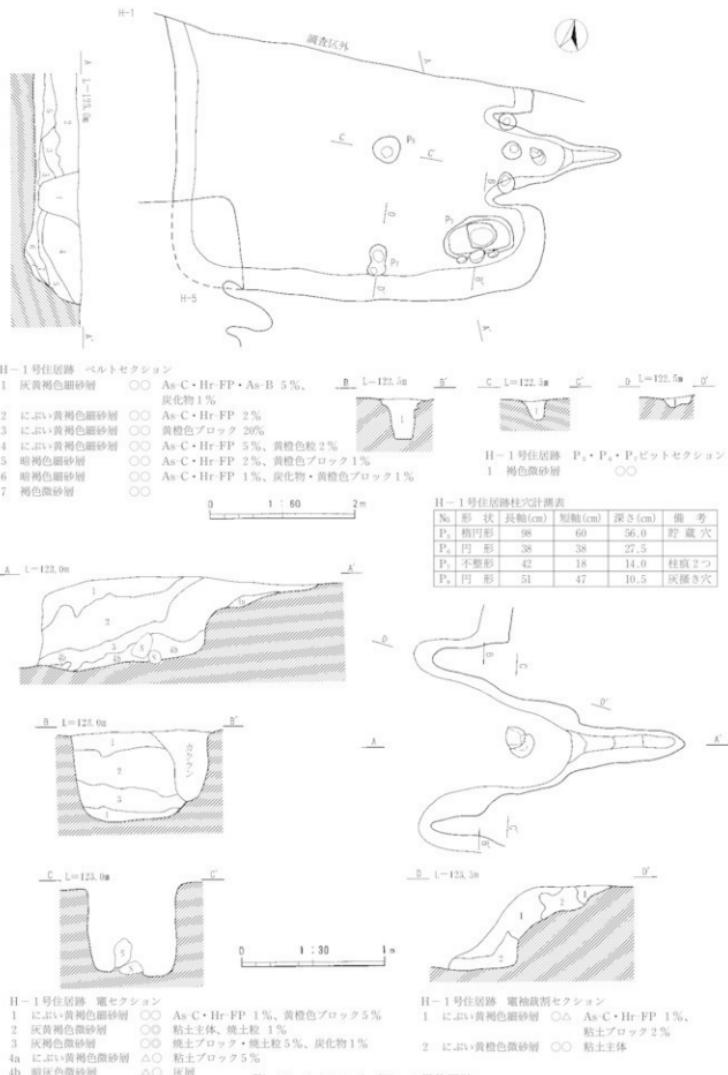


Fig.26 9 トレンチ/H-1号住居跡

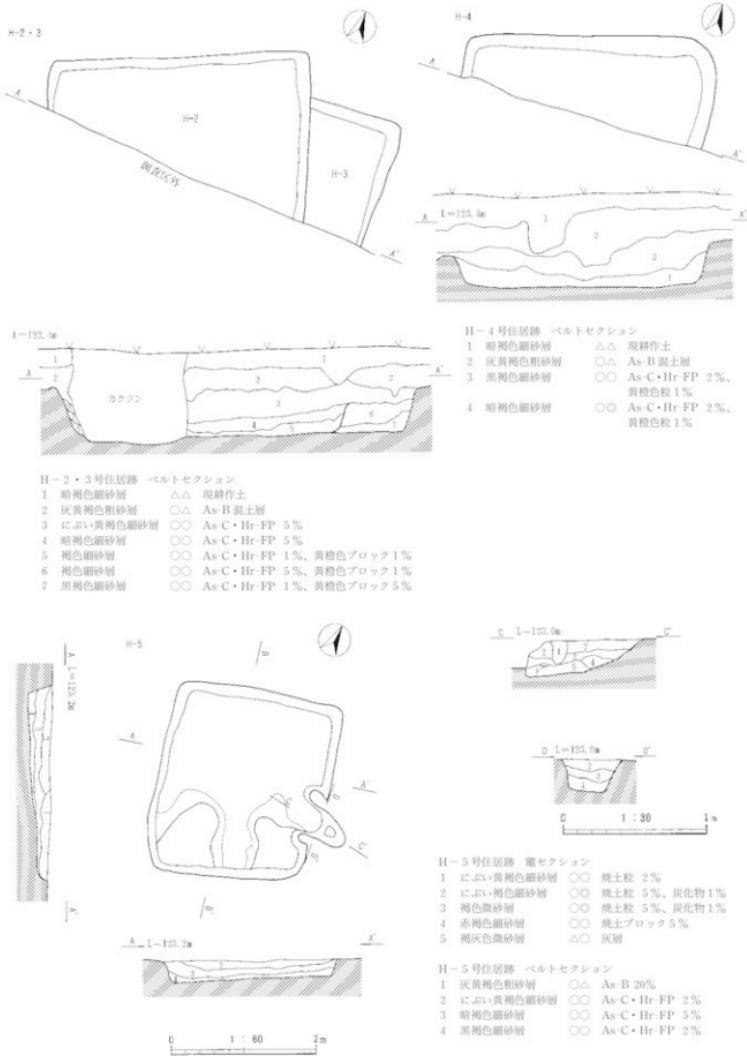


Fig.27 9トレンチ/H-2～5号住居跡

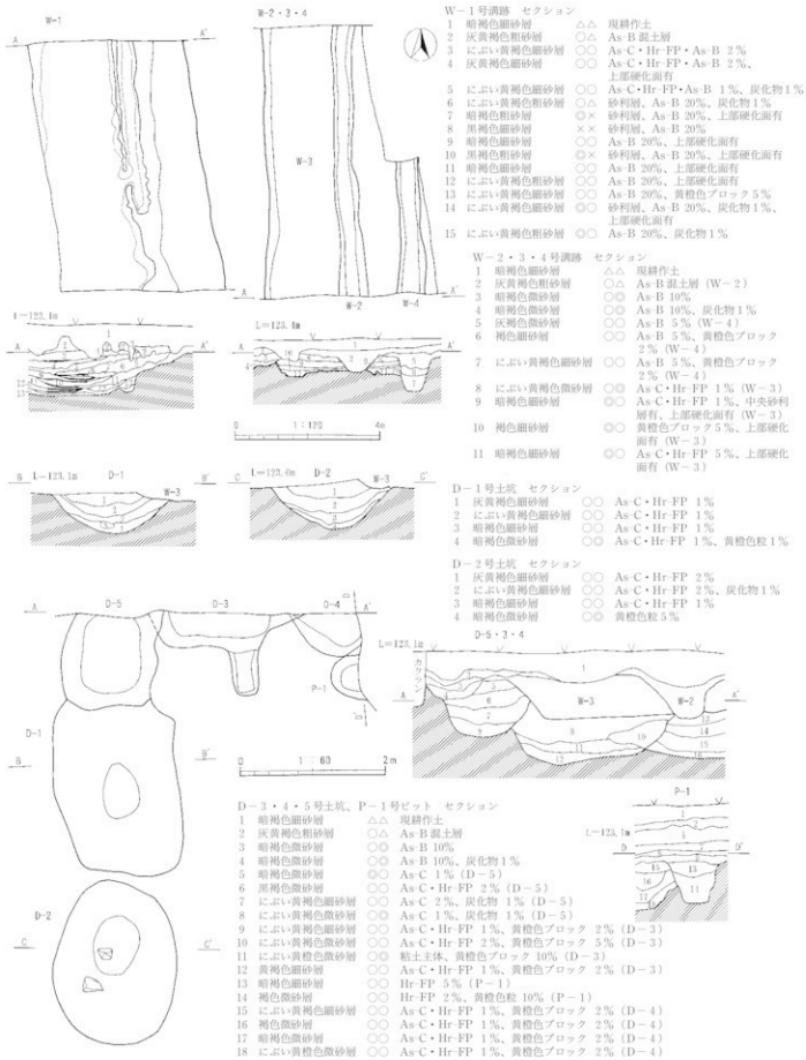


Fig.28 9 トレンチ／溝跡、土坑、ビット

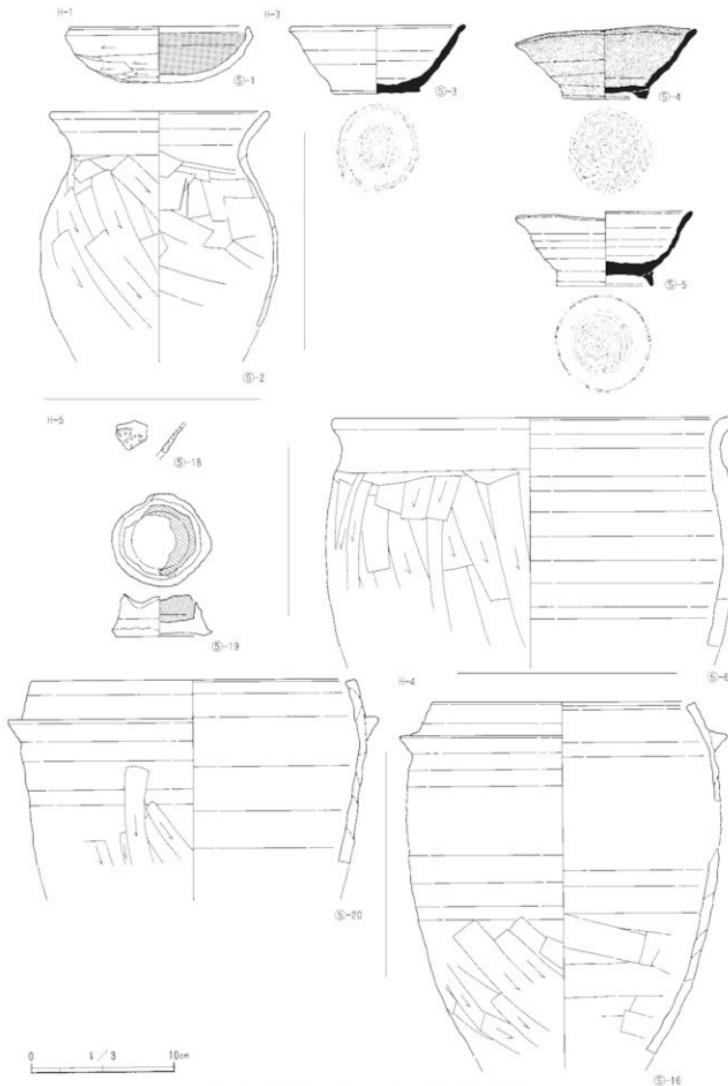


Fig.29 5 ドレンチ／H-1・3～5号住居跡出土遺物

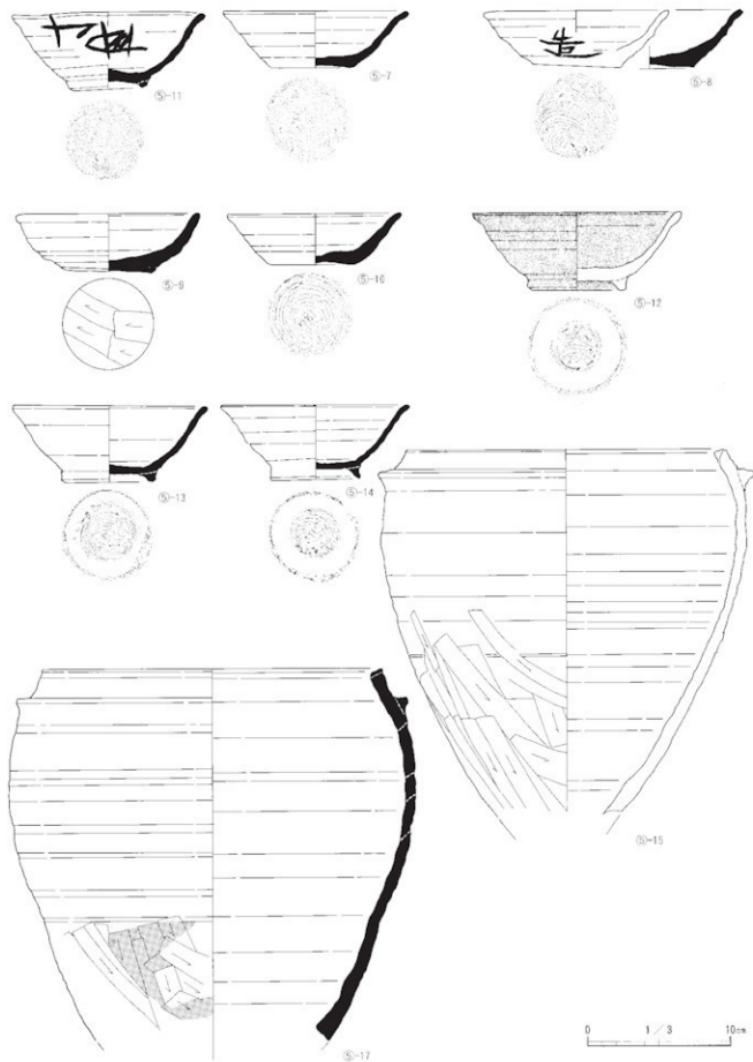


Fig.30 5 トレンチ/H-4号住居跡出土遺物

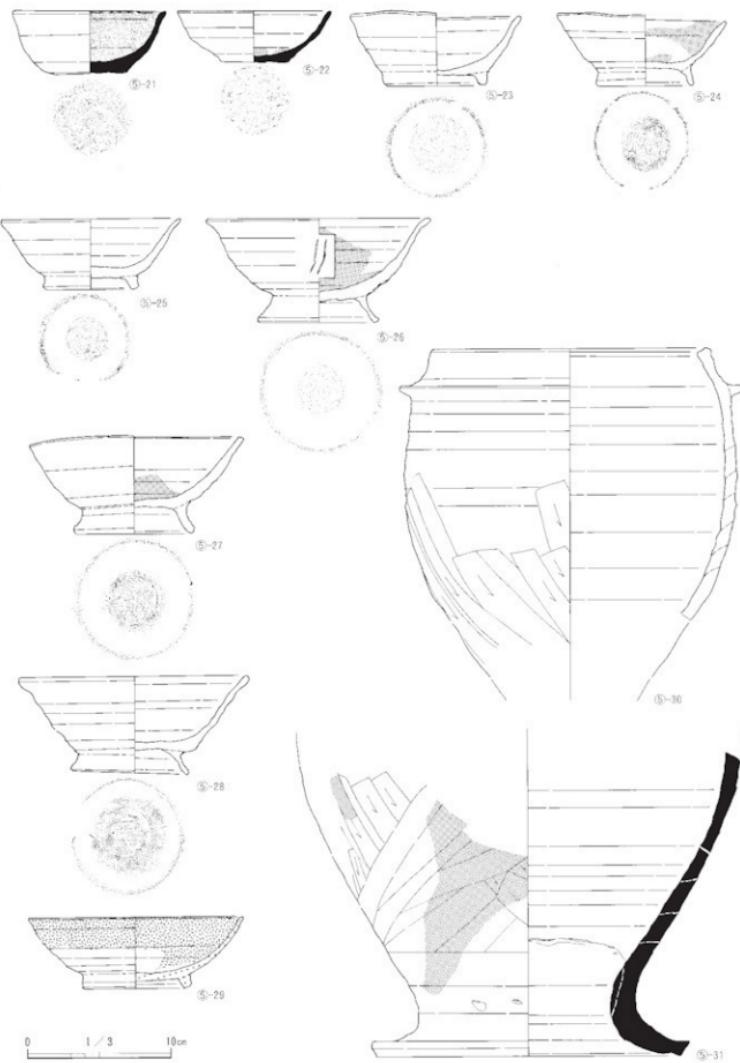


Fig.31 5 トレンチ/H-6号住居跡出土遺物

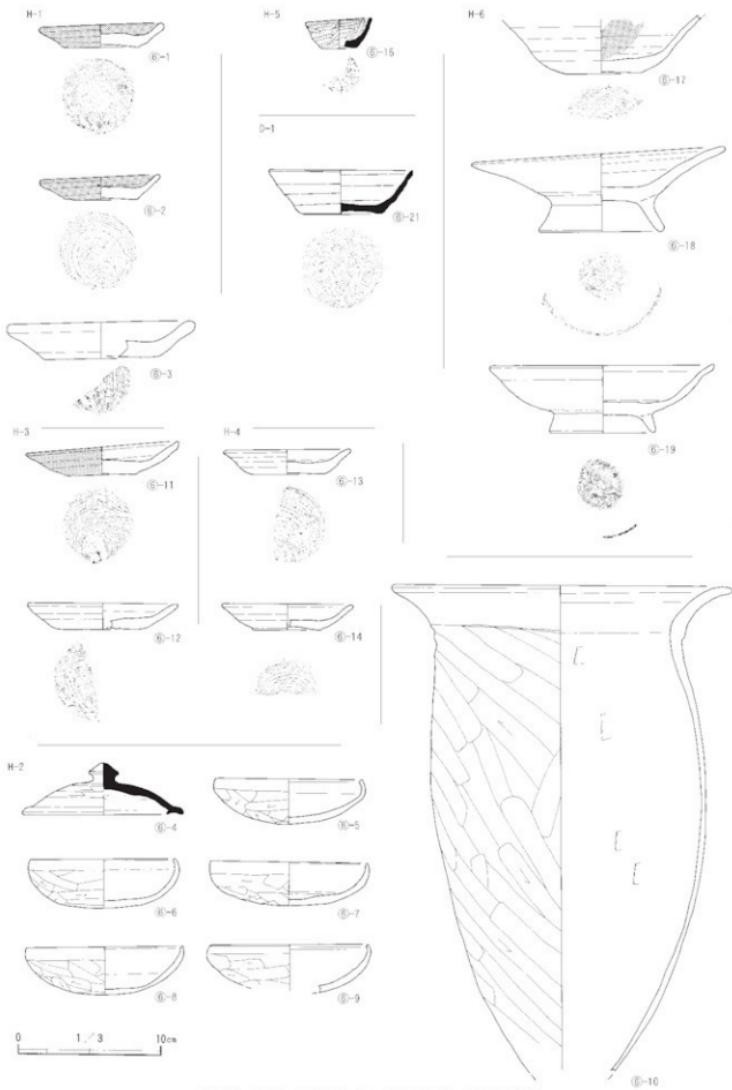


Fig.32 6トレンチ/H-1~6号住居跡、土坑出土遺物

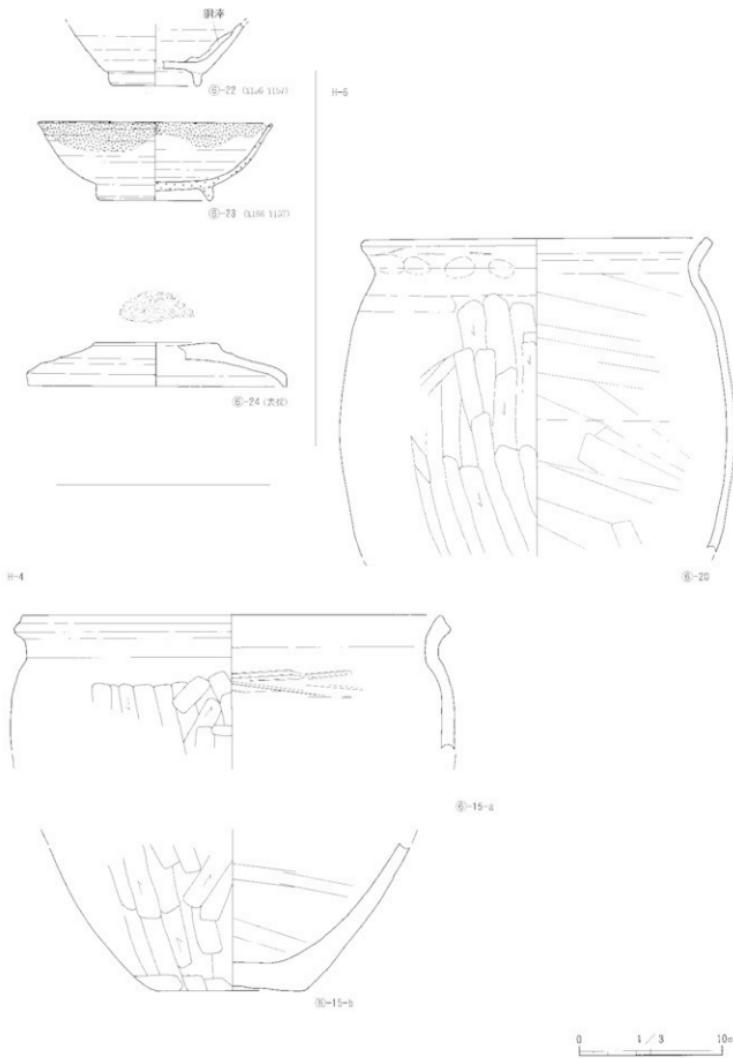


Fig.33 6トレンチ／H-4・6号住居跡出土遺物、表採遺物

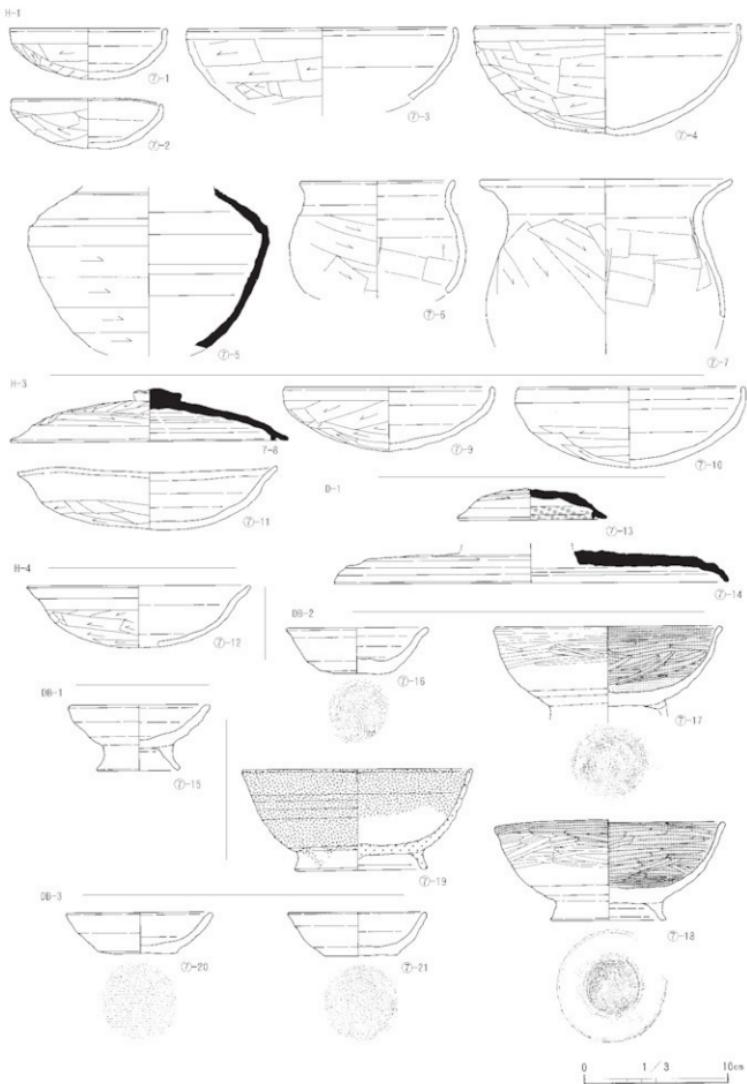


Fig.34-7 トレンチ出土遺物

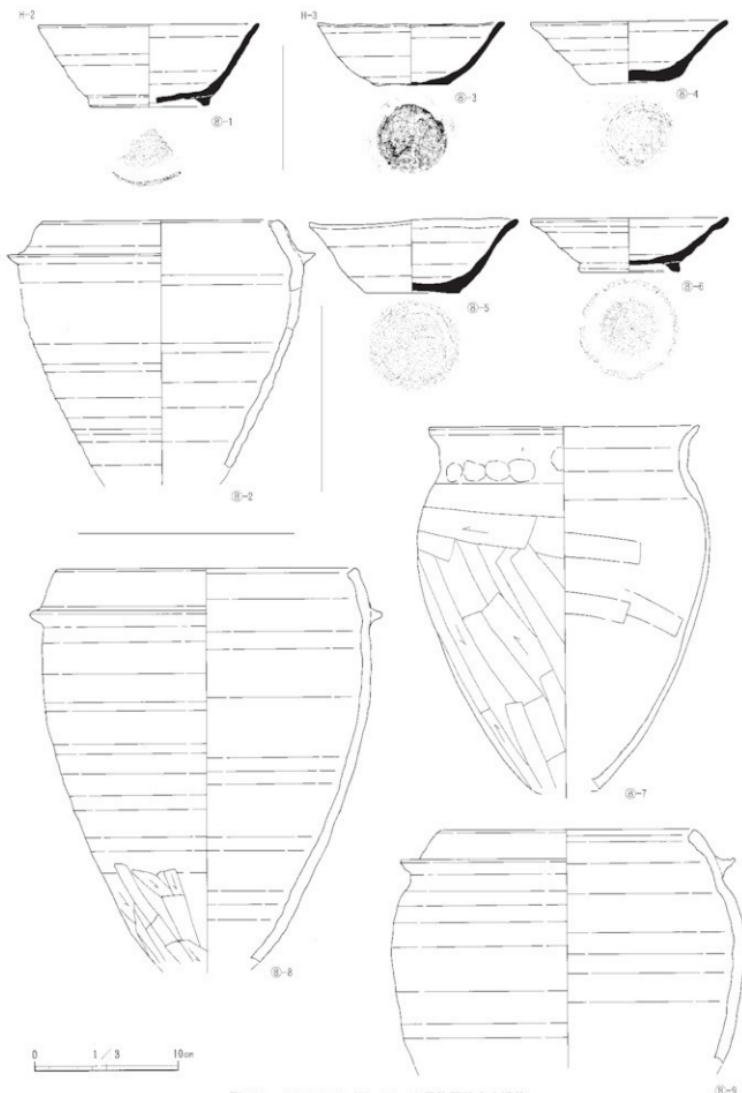


Fig.35 8トレンチ/H-2・3号住居跡出土遺物

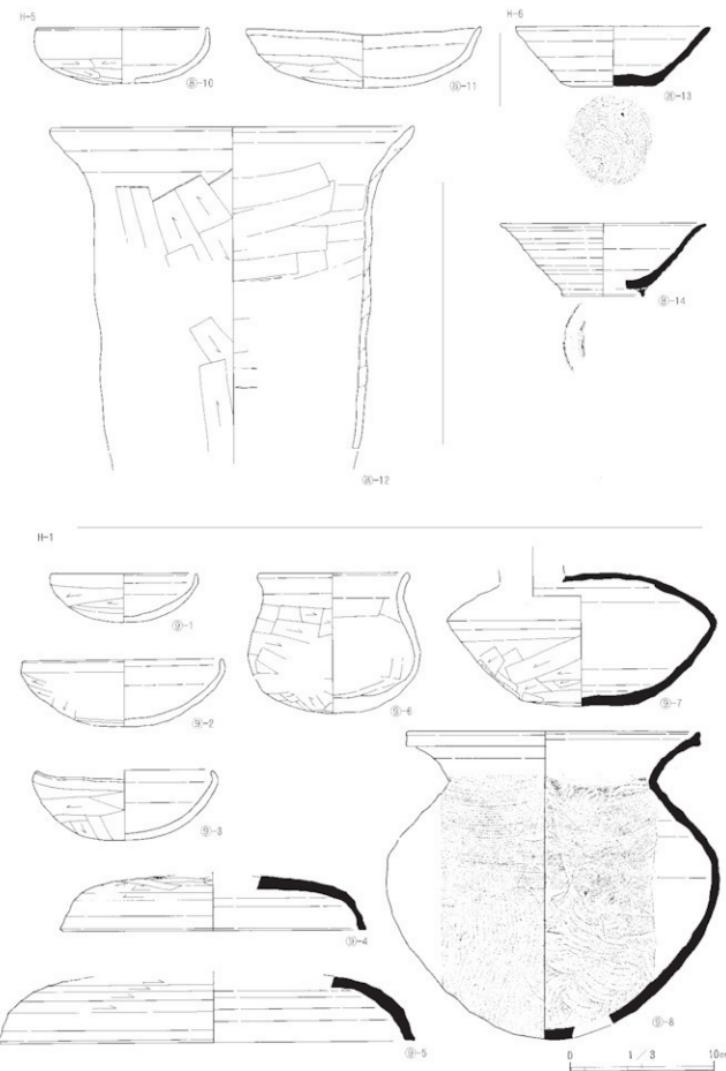


Fig.36 8 トレンチ/H-5・6号住居跡、9 トレンチ/H-1号住居跡出土遺物

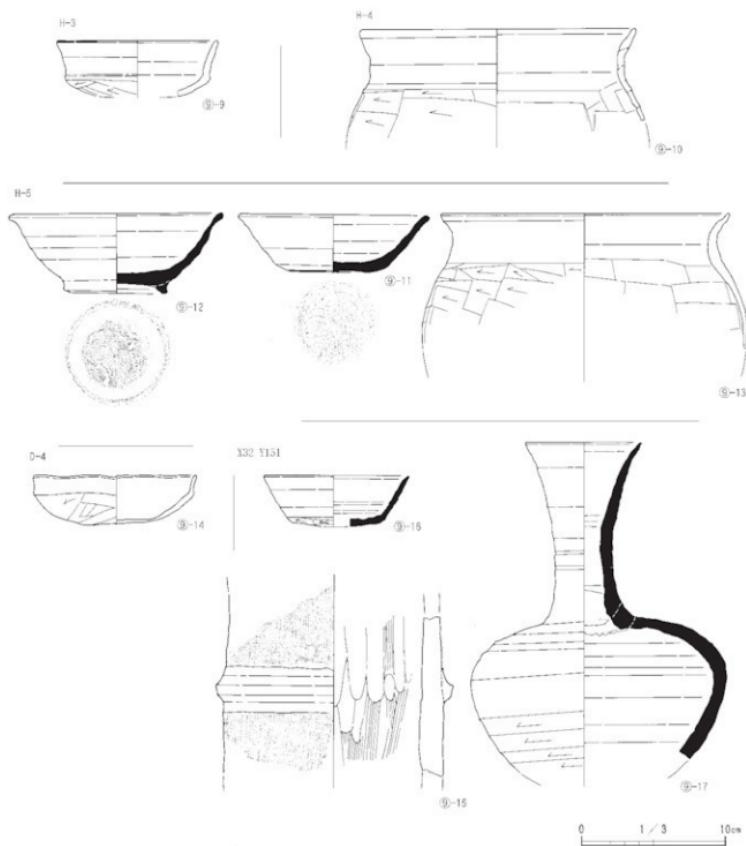


Fig.37 9 トレンチ／H-3～5号住居跡、土坑出土遺物、表探遺物

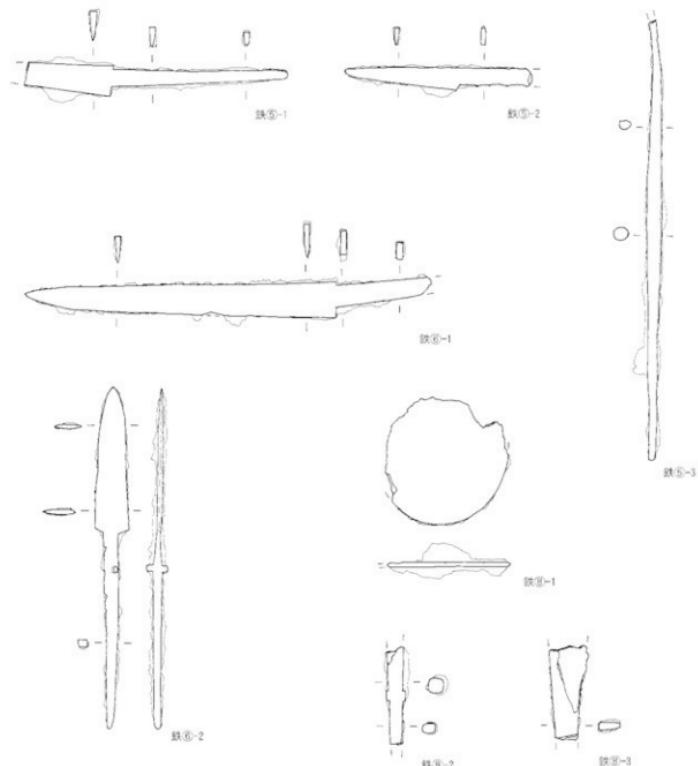


Fig.38 鉄器・鉄製品・石製品・土製品

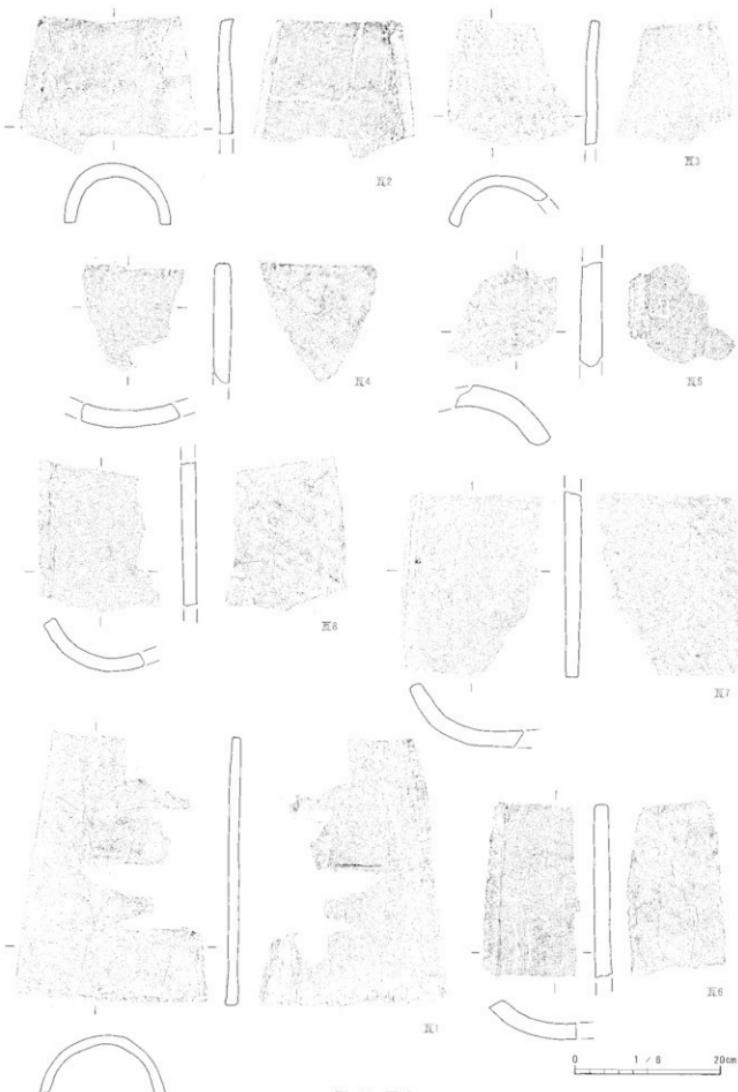


Fig.39 J6(1)

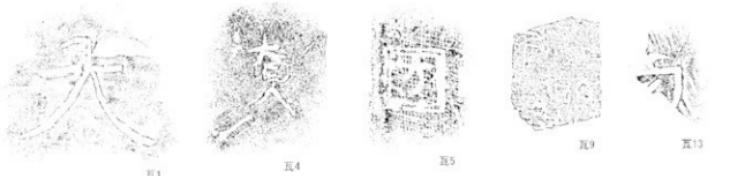
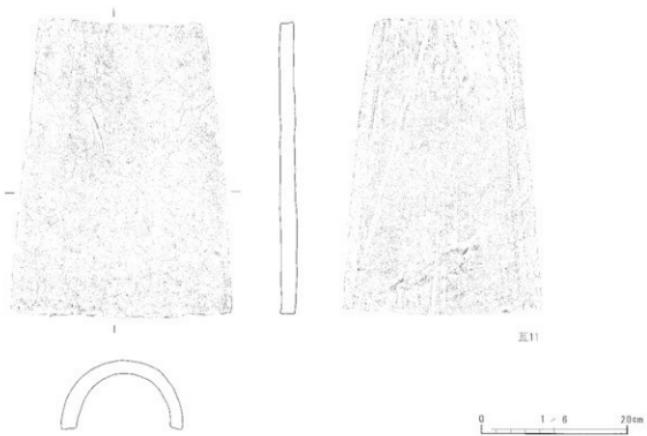
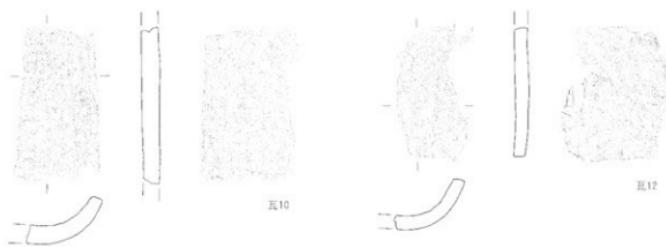


Fig.40 瓦(2)・文字瓦



5 トレンチ北側遺構検出状況（北西から）



⑤-H-1号住居跡全景（西から）



⑤-H-1号住居跡遺構（西から）



⑤-H-1号住居跡遺物出土状況（北東から）



⑤-H-1号住居跡遺物出土状況（南から）



⑤-H-4号住居跡全景（西から）



⑤-H-4号住居跡窓全景（西から）



⑤-H-4号住居跡窓内遺物出土状況（西から）



⑤-H-4号住居跡遺物出土状況全景（北から）



⑤-H-6号住居跡全景（西から）



⑤-H-6号住居跡窓全景（西から）



⑤-H-6号住居跡窓内遺物出土状況（西から）



5トレンチ南側遺構出土状況（南から）



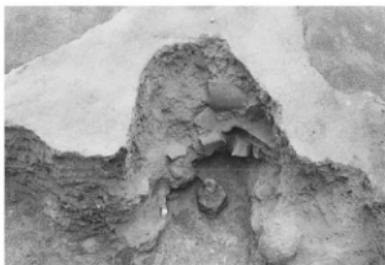
6 トレンチ調査区全景（南西から）



⑥-H-1号住居跡全量（西から）



⑥-H-1号住居跡竈全景（西から）



⑥-H-1号住居跡竈内遺物出土状況（西から）



⑥-H-1号住居跡竈構築状況（北西から）



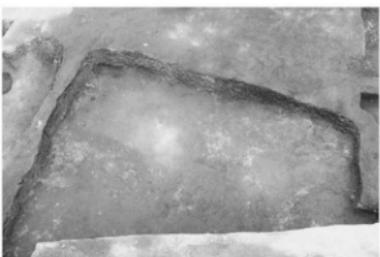
⑥-H-2号住居跡全景（西から）



⑥-H-2号住居跡全景（西から）



⑥-H-2号住居跡遺物出土状況（南から）



⑥-H-3号住居跡全景（西から）



⑥-H-4・5号住居跡全景（西から）



⑥-H-4号住居跡全景（西から）



⑥-H-6号住居跡全景（西から）



⑥-H-6号住居跡全景（西から）



⑥-H-6号住居跡構築状況（西から）



⑥-H-6号住居跡刀子出土状況（南から）



⑦-H-1号住居跡全景（西から）



⑦-H-1号住居跡遺物出土状況（西から）



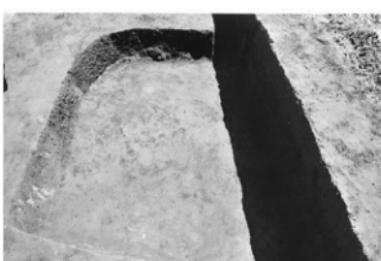
⑦-H-3号住居跡全景（西から）



⑦-H-3号住居跡全景（西から）



⑦-H-3号住居跡遺物出土状況（北から）



⑦-H-4号住居跡全景（西から）



⑦-W-1号溝跡全景（北から）



⑦-DB-1号土坑墓全景（南から）



⑦-DB-2号土坑墓全景（南から）



⑦-DB-2号土坑墓遺物出土状況（南から）



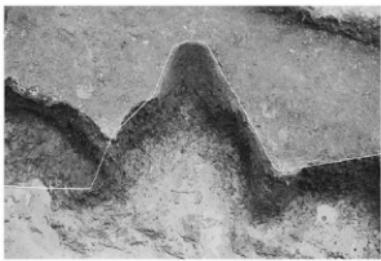
7 トレンチ調査区全景（西から）



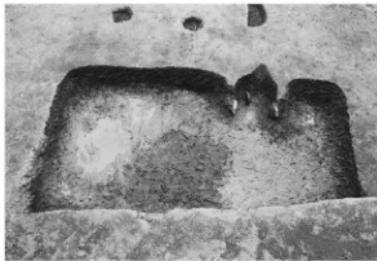
8 トレンチ調査区全景（北から）



⑧-H-2号住居跡全景（西から）



⑧-H-2号住居跡遺全景（西から）



⑧-H-3号住居跡全景（西から）



⑧-H-3号住居跡遺全景（西から）



⑧-H-3号住居跡前遺物出土状況（西から）



⑧-H-5号住居跡全景（西から）



⑧-H-6号住居跡全景（西から）



⑧-H-6号住居跡全景（西から）



⑧-W-2号満跡全景（東から）



⑧-T-1号竪穴状遺構全景（西から）



⑧-T-2号竪穴状遺構全景（南から）



⑧トレンチ中央部遺構検出状況（東から）



9 トレンチ調査区全景（南東から）



⑨-H-1号住居跡全景（西から）



⑨-H-1号住居跡全景（西から）



⑨-H-1号住居跡遺物出土状況（東から）



⑨-H-2・3号住居跡全景（北西から）



⑨-H-5号住居跡全景（西から）



⑨-H-5号住居跡全景（西から）



⑨-H-5号住居跡遺物出土状況



⑨-H-5号住居跡遺物出土状況



⑨-W-1号溝跡全景（南から）



⑨-W-1号溝跡集石部（西から）



⑨-W-1号溝跡セクション（南から）



⑨-W-3号溝跡全景（南から）



⑤-1 (H-1)



⑤-3 (H-3)



⑤-4 (H-3)



⑤-5 (H-3)



⑤-11 (H-4)



⑤-7 (H-4)



⑤-8 (H-4)



⑤-9 (H-4)



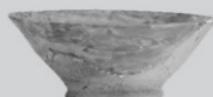
⑤-10 (H-4)



⑤-12 (H-4)



⑤-13 (H-4)



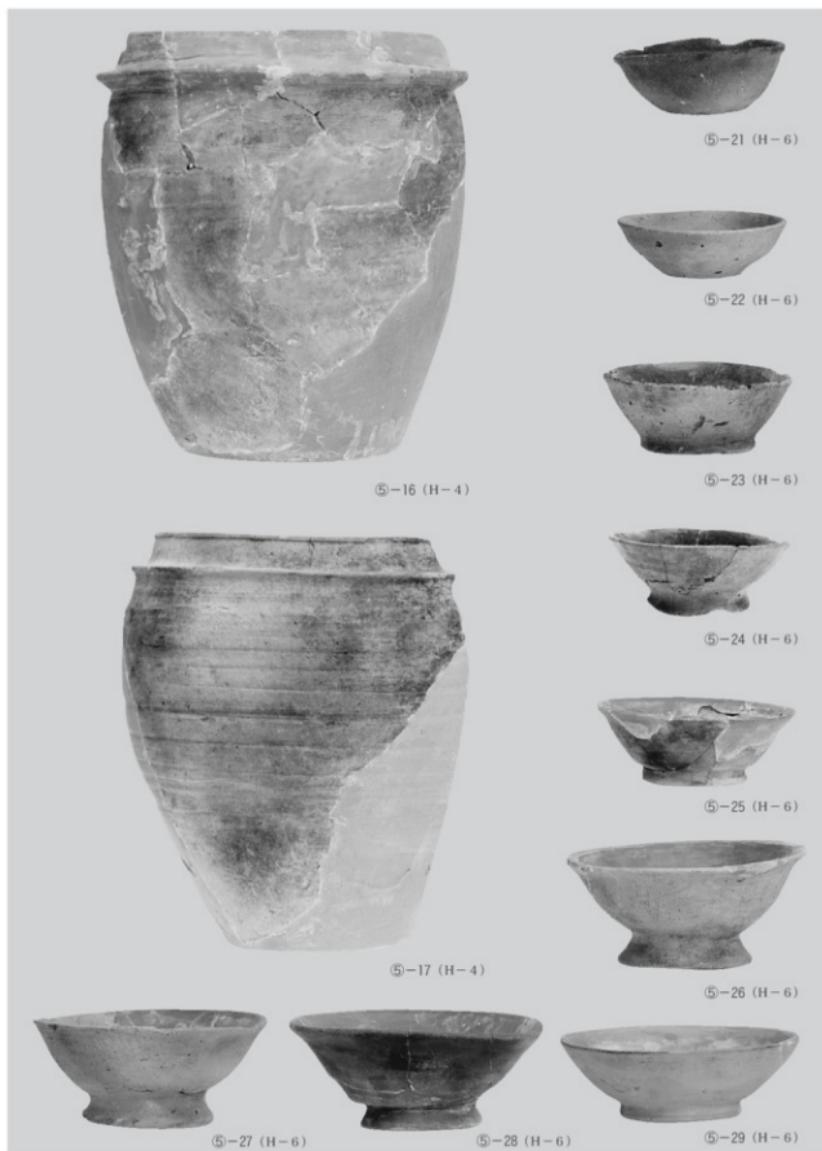
⑤-14 (H-4)



⑤-15 (H-4)



⑤-19 (H-5)





⑤-30 (H-6)



⑥-1 (H-1)



⑥-2 (H-1)



⑥-4 (H-2)



⑤-31 (H-6)



⑥-5 (H-2)



⑥-6 (H-2)



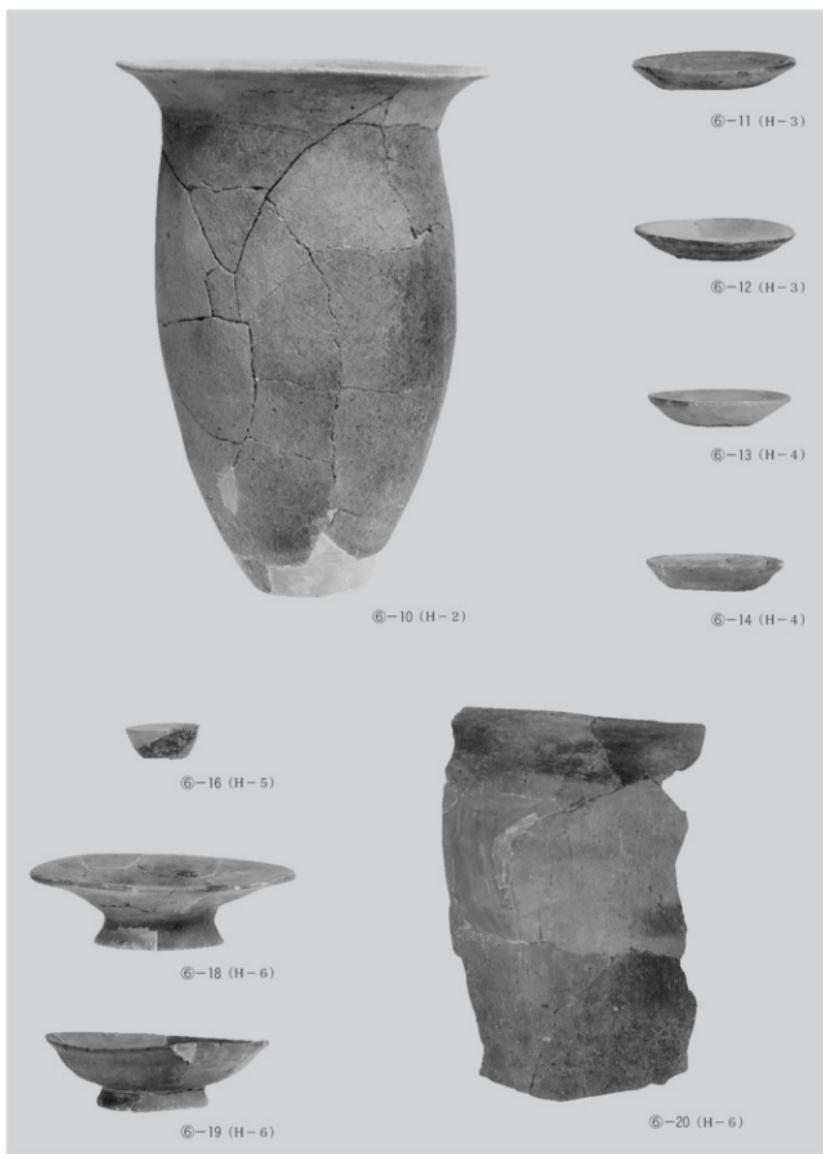
⑥-7 (H-2)



⑥-8 (H-2)

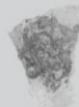


⑥-9 (H-2)





⑥-21 (D-1)



⑥-22 (X156 Y157)



⑥-23 (X156 Y157)



⑥-24 (表探)



⑦-1 (H-1)



⑦-2 (H-1)



⑦-4 (H-1)



⑦-8 (H-3)



⑦-9 (H-3)



⑦-10 (H-3)



⑦-11 (H-3)



⑦-13 (D-1)



⑦-15 (DB-1)



⑦-16 (DB-2)



⑦-17 (DB-2)



⑦-18 (DB-2)



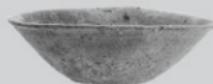
⑦-19 (DB-2)



⑦-20 (DB-3)



⑦-21 (DB-3)



⑧-3 (H-3)



⑧-4 (H-3)



⑧-5 (H-3)



⑧-6 (H-3)



⑧-10 (H-5)



⑧-7 (H-3)



⑧-8 (H-3)



⑧-9 (H-3)



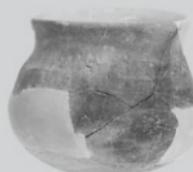
⑧-12 (H-5)



⑧-11 (H-5)



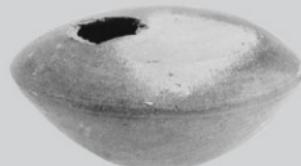
⑧-13 (H-6)



⑨-6 (H-1)



⑨-8 (H-1)



⑨-7 (H-1)



⑨-1 (H-1)



⑨-2 (H-1)



⑨-3 (H-1)



⑨-9 (H-3)





図1 (⑥H-1)



図2 (⑥H-1)



図3 (⑧H-3)



瓦6 (⑥H-4)



瓦7 (⑥H-4)



瓦10 (⑧H-3)

## 抄 錄

|         |                                      |
|---------|--------------------------------------|
| フリガナ    | モトソウジャオウミイセキグンニ                      |
| 書名      | 元総社蒼海遺跡群（2）                          |
| 副書名     | 前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 |
| 巻次      |                                      |
| シリーズ名   |                                      |
| シリーズ番号  |                                      |
| 編著者名    | 近藤 雅順・池田 史人                          |
| 編集機関    | 前橋市埋蔵文化財発掘調査団                        |
| 編集機関所在地 | 〒371-0018 群馬県前橋市三俣町二丁目10-2           |
| 発行年月日   | 西暦2006年3月17日                         |

| フリガナ<br>所収遺跡名                      | フリガナ<br>所在地                        | コード   |                | 位置(7トレンチ) |            | 調査期間                      | 調査面積                | 調査原因                              |
|------------------------------------|------------------------------------|-------|----------------|-----------|------------|---------------------------|---------------------|-----------------------------------|
|                                    |                                    | 市町村   | 遺跡番号           | 北緯        | 東経         |                           |                     |                                   |
| モトソウジャオウミイセキグンニ<br>元総社<br>蒼海遺跡群(2) | マツバシ モトソウジヤ<br>前橋市元総社<br>町1800-3 他 | 10201 | 17A130<br>-5~9 | 36°23'16" | 139°02'01" | 20050517<br>~<br>20050914 | 1,276m <sup>2</sup> | 前橋都市計画<br>事業元総社蒼<br>海土地区画整<br>理事業 |

| 所収遺跡名           | 種別  | 主な時代    | 主な遺構                 | 主な遺物          | 特記事項 |
|-----------------|-----|---------|----------------------|---------------|------|
| 元総社<br>蒼海遺跡群(2) | 集落跡 | 古墳時代    | 竪穴住居跡1軒              | 土師器、須恵器       |      |
|                 |     | 奈良・平安時代 | 竪穴住居跡22軒、竪穴状構1軒、溝跡7条 | 土師器、須恵器、瓦、鉄製品 |      |
|                 |     | 中世以降    | 竪穴状遺構2軒、溝跡7条、井戸跡1基   |               |      |

### 元総社蒼海遺跡群（2）

2006年2月24日 印刷  
2006年3月3日 発行

編集発行 前橋市埋蔵文化財発掘調査団  
前橋市三俣町二丁目10-2  
TEL 027-231-9531  
印刷所 朝日印刷工業株式会社